

2005 (平成 17 年度) 建築都市コース アニュアルレポート

目次

<日本語>

1. 建築都市コースのスタッフ紹介 (17 年 4 月時点)
2. 建築都市コースの研究概要
3. 建築都市コースの研究成果リスト
4. 特定学術研究
5. 学位論文リスト

<English>

1. Staff
2. Overview of Research Activities in 2005
3. List of Research Activities in 2005

建築都市コースのスタッフ紹介 (17年4月時点)

<建築計画・都市計画>

教授, 高見沢 邦郎, たかみざわ くにお
工学博士
都市計画, 市街地整備, 都市計画制度
9号館 866号室
0426-77-1111 内線 4775

教授, 上野 淳, うえの じゅん
工学博士
建築計画, 環境行動学, 心理学, 地域公共施設設計画
9号館 869号室
0426-77-2814

助教授, 吉川 徹, よしかわ とおる
博士(工学)
都市計画, 都市解析, 地理情報システム
9号館 868号室, (0426) 77 2813

助教授, 竹宮 健司, たけみや けんじ
博士(工学)
建築計画, 環境行動研究
9号館 874号室, 0426-77-1111 内線 4785

准教授, 鳥海 基樹,とりうみ もとき
仏国博士(都市学)
都市設計, 都市計画, 都市史
9号館 867室, (042) 677 2812

研究員, 饗庭 伸, あいば しん
博士(工学)
都市計画, 市民参加, マスターPLAN
9号館 875号室 0426-77-1111 内線 4786

助手, 黒川 直樹, くろかわ なおき
工学修士
西洋建築史, 景観計画史, 建築文化財保全計画
9号館 828号室, (0426) 77 1111 内線 4764

助手, 松本 真澄, まつもと ますみ
住宅問題

9号館 877室, (042) 677 1111 内線 4788

<建築歴史・意匠>

教授, 小林 克弘, こばやし かつひろ

博士(工学)

建築意匠, 建築設計, 西洋建築史

9号館 871号室, (0426) 77 2816 or (0426) 77 1111 内線 4782

助教授, 山田 幸正, やまだ ゆきまさ

博士(工学)

日本建築史, 東洋建築史, 保存

9号館 870号室, 0426-77-1111 内線 4781, 0426-77-2815

准教授, 小泉 雅生, こいずみ まさお

工学修士

建築設計, 意匠設計, 設計論

9号館 872号室, (0426) 77 2817

助手, 木下 央, きのした あきら

修士(工学)

建築意匠, 建築歴史, 建築設計

9号館 827号室, (0426) 77 1111 内線 4763

助手, 西田 司, にしだ おさむ

工学学士

建築設計, 意匠設計, 設計論

9号館 876号室

0426-77-1111 内線 4787

<建築生産>

教授, 深尾 精一, ふかお せいいち

工学博士

建築構法, 構法計画, 構法設計

9号館 873号室, (042) 677 2818

教授, 橋高 義典, きつたか よしのり

工学博士

建築材料学, 仕上材料、コンクリート工学

9号館 775号室, 0426-77-2797

助教授, 角田 誠, つのだ まこと

博士(工学)

建築生産, 耐用計画, 資源循環システム

9号館 767号室, 042-677-2807

助手, 門脇 耕三, かどわき こうぞう

修士(工学)

建築構法, 構法計画

9号館 826号室, (042) 677 1111 内線 4762

助手, 田村雅紀, たむら まさき

博士(工学)

建築材料学, コンクリート工学, 環境材料学

9号館 730号室, 0426-77-1111 内線 4726

<建築構造>

教授, 芳村 学, よしむら まなぶ

工学博士

鉄筋コンクリート構造, 耐震工学, 耐震設計

9号館 773号室, (0426) 77 2800

教授, 山崎 真司, やまざき しんじ

工学博士

構造, 鋼構造, 構造設計

9号館 774号室, (042) 677 2798

教授, 西川 孝夫, にしかわ たかお

工学博士

構造工学, 耐震工学, ねじれ振動

9号館 770号室, 042-677-2803

准教授, 藤田 香織, ふじた かおり

博士(工学)

木質構造, 伝統構法, 災害史

9号館 772号室, (0426) 77 1111 内線 4742

准教授, 北山 和宏, きたやま かずひろ

工学博士

鉄筋コンクリート構造, 耐震設計, 地震工学

9号館 771号室, (042) 677 2802

助手, 山村 一繁, やまむら かずしげ

工学修士

構造工学, 荷重・外力

9号館 731号室, 042-677-2794

助手, 見波 進, みなみ すすむ

博士(工学)

構造, 鋼構造

9号館-727号室, (042) 677 1111 内線 4723

助手, 中村 孝也, なかむら たかや

博士(工学)

鉄筋コンクリート構造

9号館 728号室, (0426) 77 1111 内線 4724

<建築環境>

教授, 石野 久彌, いしの ひさや

工学博士

建築環境工学, 建築設備学, 環境シミュレーション評価

9号館 766号室, (042) 677 2806

教授, 市川 憲良, いちかわ のりよし

工学博士

建築環境学, 給排水衛生設備

昭島キャンパス 306号室, (042) 543 3111 内線 306

准教授, 須永 修通, すなが のぶゆき

博士(工学)

建築環境学, 環境共生建築・住宅, 温熱感

9号館 768号室, (042) 677 1111 内線 4746

准教授, 永田 明寛, ながた あきひろ

博士(工学)

建築環境学, 热湿气環境

9号館 769号室, 0426-77-2804

研究員, 中山 哲士, なかやま さとし

博士(工学)

建築環境工学, 気象データ, 都市気候

9号館 734号室, (042) 677-1111 内線 4732

<都市空間システム>

教授 中林 一樹 なかばやし いつき
工学博士
都市計画、防災計画、復興計画、まちづくり
2号館 111号室、(042) 677 2354

教授 玉川 英則 たまがわ ひでのり
博士（工学）
都市・地域解析、都市・地域計画
2号館 207号室、(042) 677 1111 内線 1924

教授 秋山 哲男 あきやま てつお
工学博士
都市交通計画、福祉のまちづくり、観光まちづくり、交通ユニバーサルデザイン
2号館 206号室、(042) 77-1111 内線 1943

研究員 市古 太郎 いちこ たろう
博士（都市科学）
防災都市計画、空間情報科学、防災まちづくり
2号館 152号室、(042) 677 1111 内線 1925

<都市社会システム>

教授 星 旦二 ほし たんじ
医学博士
公衆衛生学、都市健康科学
2号館 102号室、024-677-2355

教授 羽貝 正美 はがいまさみ
法学修士
行政学、都市行政学
2号館 107号室、0426-77-1111 内線 1944

建築都市コースの研究概要

<建築計画・都市計画>

・高齢者の地域継続居住の支援システムに関する研究

上野 淳、松本 真澄

障害や痴呆を持ちながらも、高齢者が住み慣れた身近な地域で継続的に居住していくことのできる、地域条件、コミュニティー施設のネットワーク条件、住戸条件、高齢者施設の計画条件、等について多角的、包括的に研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 小規模生活単位特別養護老人ホームにおける入居者の生活様態に関する研究
- 2) 高齢者デイサービスセンターの利用構造に関する研究
- 3) 全個室型特別養護老人ホームにおける居住者の入退所、居室の変遷に関する継続調査

・多摩ニュータウンの再生・活性化に関する研究

上野 淳、松本 真澄

開発・入居開始後30年を経過する我が国最大のニュータウンである‘多摩ニュータウン’をフィールドとし、その再生・活性化をめざす多角的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究
- 2) 多摩ニュータウン団地居住高齢者の生活様態に関する研究
- 3) 多摩ニュータウン廃校校舎の地域公共施設へのコンバージョン計画スタディー

・教育施設の建築計画に関する研究

上野 淳

教育改革や社会情勢の変化に対応して、学校施設の在り方にもドラスティックな改革の動きが見られる。主として公立小・中学校に焦点をあて、児童・生徒の生活・学習の実際やカリキュラム運営の実際などを丹念に取材調査し、その計画・デザインの指針をもとめる継続的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 中学校におけるカリキュラム・時間割の実態からみた教室整備に関する研究
- 2) 公立学校施設の地域公共施設との複合化に関する研究
- 3) 幼保一元化施設の建築計画に関する研究

・建築・都市空間における環境行動に関する研究

上野 淳、松本真澄

都市施設、都市のオープンスペースにおける人間行動の法則性や特徴的な環境行動を丹念な調査によって取材し、建築・都市空間のデザインに指針、知見を導く一連の研究。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 都市公園の利用様態に関する研究
- 2) コミュニティーセンターの利用構造に関する研究
- 3) 都市の自由歩行空間における歩行誘導要素と歩行の揺らぎに関する研究

・構造改革特区に関する研究

饗庭 伸

構造改革特区および地域再生計画における都市計画関連提案の実態調査を行った。成果を学会論文、雑誌記事として発表した。

・都市建築ストックの集積する都心地域の賦活に関する研究

饗庭 伸, 高見沢 邦郎

東京都心部の神田地域を対象にして、様々な年代に建設された様々な構造を持つ建築ストックが集積する地域の賦活技術について研究を行った。特に、都市建築ストックの類型化と将来像の計画手法、災害に対する地域の安全性の評価、土地所有形態の実態について調査研究を行った。

・都市空間の定点観測手法に関する研究

饗庭 伸

都市空間のデジタル撮影画像を30年間にわたりアーカイブするプロジェクトに着手し、基礎的な撮影手法と収集手法を確定し、収集を開始した。都市計画学会などの場で発表を行った。

・既存公共施設ストックを活用した地域施設ネットワーク形成手法の開発

吉川 徹

我が国社会の情報化、高齢化、成熟化により、既存公共施設を活用した公共施設ネットワーク再構成計画手法の開発が必要とされている。このため、多摩ニュータウンの最初期の開発地域を含む東京都多摩市を対象として、市の保有する公共施設ストックを活用した地域施設ネットワーク形成手法を開発した。

・地図配信ASPを活用した地域情報共有プラットホームの構築研究

吉川 徹, 玉川 英則

本研究は、今後の我が国の成熟情報社会における地域情報共有の社会基盤整備に資することを目的とした。このため、地図配信ASPを活用して、地方自治体・地域住民・各種団体が地域情報を発信・共有できる、低コスト・柔軟・オープンなプラットホーム構築の検討を行い、自治体、住民の参加による実証実験を行った。特に、住民団体による防犯活動への適用可能性を模索した。

・周産期医療施設の建築計画に関する研究

竹宮健司

近年、母体、胎児、新生児の救急・高度医療を提供する周産期医療の重要性が高まっている。同施設の整備については、厚生労働省が示す「周産期医長対策事業実施要綱」に定められている施設基準があるので、施設の建築計画にむけた研究の蓄積は少なく未解明な点が多い。そこで、本研究は以下の2つの視点から調査を行った。

1) 既存の周産期センターの立地条件・稼働実態をもとに、今後の周産期医療施設における施設機能、配置計画に関する提案を行う。

2) 新生児集中治療病棟（NICU）における子どもと家族の療養環境に関する知見を得るため、全国の周産期医療施設を対象としたアンケート調査および先進施設での観察調査を行った。

・高齢期の居住環境整備に関する研究

竹宮健司

高齢者が住み慣れた地域に住み続けられるために、様々な取り組みがなされている。こうした試みの一つに、小規模多機能施設と呼ばれる施設がある。小規模な施設で、通い（通所）、泊まり（ショートステイ）、居住（グループホーム）等のサービスを柔軟に提供するというものである。こうした施設

の建築計画には蓄積が少ない。そこで本研究では、先駆的な施設を対象に利用者の経年的なデータを分析し利用者とその家族にとってこうした小規模多機能施設の役割や意味を明らかにするケーススタディを実施し、知見を整理した。

・フランスに於ける都市景観の保全的刷新に関する研究

鳥海基樹

2004年に制定された景観法の広範かつ円滑な運用のため、フランス、とりわけパリを中心として如何なる手法で景観の保全的刷新がなされているかを研究する。

・フランスに於ける中心市街地活性化に関する研究

鳥海基樹

2006年に改正が予定される都市計画法と中心市街地活性化法の基礎的調査として、フランスに於ける集団規定や商業都市計画、さらに住宅政策を研究する。

・ヨーロッパ諸国の歴史的環境資源の保全的刷新に関する研究

鳥海基樹

2005年に実施される愛知万博の後処理に貢献するため、リスボン万博とハノーヴァー万博の施設の再利用状況を研究する。

・アメリカ建築史および景観計画史に関する研究

黒川 直樹

アメリカにおける建築資産の最適再利用、とくに近現代商業ビルの住宅転用再生計画をめぐる最新動向の調査結果を発表し、またアメリカン・スタイルの呼称の下に同国固有の建築様式が熟成される過程を中心に、アメリカ建築史研究の展開を講じた。

<建築歴史・意匠>

・近代建築の構成手法に関する分析

小林克弘、木下央

建築意匠研究の目標のひとつは、建築美を生み出す諸造形原理を明らかにすることにある。そのためには、優れた建築作品を分析することによって具体的な造形原理を抽出し、更にそうした原理が作品に適用される際の具体的な設計手法を考察することが極めて有効となる。この「近現代建築の構成手法に関する分析」という研究テーマは、近代以降の建築の中で、特に幾何学形態を用いた作品を対象として、幾何学形態が建築の造形・構成の中でどのように用いられ、どのような役割を果たしているかを具体的に分析・考察する。平成17年度は、アンドレ・リュルサ、ジョン・ハイダック、ルイス・サリヴァン、パリにおける一連の博覧会建築などの建築作品を対象とした分析を行った。研究の成果の一部を2005年度日本建築学会大会や日本建築学会計画系論文集などに発表した。

・建築設計手法の開拓

小林克弘、木下央

建築意匠研究においては、研究によって見出した建築の造形原理や構成手法を実際の建築設計に応用することによって、理論と実践、基礎研究と応用とを結び付けることも大きな目標のひとつである。研究室として、年に数件の建築実施設計競技に取り組むことを通じて、また、具体的な実施プロジェクトを通じて、新たな建築設計手法、建築デザイン手法の開拓を目指す。本年度は小田原市城下町ホールや立川市新庁舎の設計競技へ参加し、研究を通じて見出した建築構成手法を実際の建築設計に応用することの有効性を検証した。

・建築ストックの活用に関する意匠的研究

小林克弘、木下央、三田村哲也

既存建築を様々な更新活用方法を考案することは、建築界の重要なテーマのひとつとなっている。首都大学東京大学院建築学専攻では、2003年度から文部科学省21世紀COEプロジェクト「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」に取り組んでおり、このテーマに対する建築意匠・建築設計の視点からの取り組みとして、用途変更（コンヴァージョン）による建築ストック活用の具体的ケーススタディや、海外におけるコンヴァージョン・改築事例実地調査結果に基づく分析を行っている。海外事例調査の成果の一端を、「コンバージョン・デザインの可能性-イタリア近年の事例」、SD2005, pp. 69-100, 2005年12月に発表したが、現在、フランス事例、アメリカ事例も含めての研究計画を進めている。

・17世紀末から18世紀初頭の英国における建築と都市デザインに関する研究

木下央

17世紀後半、イギリスは大陸の古典主義建築の文化を積極的に吸収すると同時に、英國東インド会社の経済活動の拡大に伴い、それまで直接接すことのなかった非西欧圏、特にインドや中近東の建築文化を知るようになり、その一部を吸収した。本研究では特に英国人がインドに建設した靈廟建築の様式的特徴に注目し、この時代にインドを訪れた建築家サー・ジョン・ヴァンブラの建築作品を通して、非西欧圏の建築文化がいかに英国バロック建築に影響を与えたのかを明らかとすることを目的とする。

・イスラーム文化圏における歴史的建造物および都市に関する研究

山田 幸正

イスラーム文化圏に所在する多くの歴史的建造物は、建築技法上においても意匠上においても、独特的の卓越性をもつにもかかわらず、我が国ではいまだにその実態が十分理解されているとはいえない。それらの集合体である歴史的環境や都市性についても同様に解明されているとはいえない。そのようなイスラーム建築およびイスラーム都市に関する継続的な研究の一環として、本年度は、地中海東端に位置する歴史的な港町レバノン・サイダが経験した20世紀における都市的変容などについて考察した。

・アジアにおける伝統的住居の建築的実態と保存に関する調査研究

山田 幸正

アジアの諸地域における伝統的な住居や集落の多くは、近年の急激な経済発展のなかで、建築的な実態が明らかにされる以前に消滅しているという危機的状況にあり、それらを調査・研究し、その保存策を講ずることは急務とすべき課題である。こうした観点に立って継続的に実施している研究において、本年度は東南アジア・ベトナムにおいてこれまで実施してきた伝統的民家に関する調査の成果を踏まえて、北部の伝統的集落の典型的実例について調査し、その建築的な実態と近年における変容過程について述べた。

・ベトナム・ハノイの近代集合住宅の改善計画

山田幸正、藤江創、西田司

ベトナムは1950年代以降、旧ソビエトなど社会主義諸国からの援助を受けながら、首都ハノイをはじめ主要都市において、国営の集合住宅団地を数多く開発してきた。高温多湿の亜熱帯性気候のなか、これらの集合住宅は、構造的にも、設備・機能的にも、また美観的にも大いに老朽化してきている。近年、資本主義的な市場経済を積極的に導入するドイモイ政策が進展するなか、個人の嗜好の多様化を反映して、住宅に対して改変への要求はかなり増大しているものと考えられる。本研究では、ハノイ建築大学と協力体制を確立し、既存を活かしながら、新たな価値や機能を付与した都市型集合住宅に改善するための計画手法を検討する。

・都市及び建築における領域のアクセシビリティの研究

小泉雅生、西田司

住宅がいかに街に対して開かれるかという住宅と街との関係の分析を行い、さらに対象を一般化して建築と都市との関係へと考察を進める。住宅と街との接続方法や距離の作られ型、領域の配列、領域間の境界の強度などの分析を通じ、都市的なレベルでの領域のアクセシビリティを考慮した建築設計手法の研究・開発を行い実地に応用をはかっていく。

・家族像の変化に基づく住居の変化の研究

小泉雅生、西田司

高齢化・少子化・離婚率の上昇などにより、家族像が大きく変わりつつある。にもかかわらず、その器である住居については、殆どが旧来の核家族を想定した平面計画のままである。そこで、現代の日本社会における家族形態・家族像の分析をベースに、実際の居住形式や住居の変化の分析を重ねあわせ、新しい住居のあり方を模索し、具体的な住宅建築の提案を行うことを目標としている。

<建築生産・材料>

・高度成長期に建設された公共集合住宅の活用手法に関する研究

深尾精一, 門脇耕三

我が国には、高度成長期に大量の公共集合住宅が建設された。これらの公共集合住宅ストックは、建設から20年以上を経過しているが、内装や設備の劣化・陳腐化や、バリアフリーへの対応が遅れていることなどが問題となっている。本年度は、こうした公共集合住宅の改修による活用手法について、引き続き研究を進めた。

具体的には、公共集合住宅ストックの高い割合を占める、中層階段室型集合住宅へのエレベータ設置システムの開発を行った。研究開発は、国土交通省の建設技術研究開発助成制度による研究助成を得て、公共住宅の事業主体や民間会社の協力のもと、多分野の教員・大学院生が密接に連携しながら行い、さらに、開発したエレベータ設置システムを、実際の階段室型集合住宅(取り壊し予定、居住者なし)に設置する実験を行った。また、この成果は日本建築学会大会やCIB(建築研究国際協議会)の主宰する国際会議において発表した。

並行して、国内外の集合住宅ストック活用事例に関する調査を行い、事例分析を行い、その実態を把握した。

・戸建住宅における外壁の改修に関する研究

深尾精一, 門脇耕三

住宅の外壁には、耐候性・耐火性・断熱性・遮音性など、様々な性能が求められるが、これらの性能は経年とともに低下するため、改修によってその性能を維持する必要がある。また、特に木造建物が高密に建ち並ぶ地域などでは、個々の住宅の外壁の耐火性能などを改修によって向上させることが、地域全体の防災性の向上にもつながる。しかし、個人の所有物である住宅の外壁に一斉に改修を加えることは困難であるため、地域全体の防災計画を立案する際等には、住宅の外壁改修の実態を把握しておく必要がある。

以上のような観点から、本年度は、東京都下の4つの住宅地を対象として、目視調査や住民へのアンケート調査により、戸建住宅における外壁改修の実態を把握した。さらに、その結果を分析し、外壁改修が行われる要因を分析した。また、外壁の改修周期の算出を行った。以上の結果は、日本建築学会大会で発表した。

・集合住宅における躯体のキャパシティに関する研究

深尾精一, 門脇耕三

我が国の集合住宅ストックは大量であり、これらの集合住宅ストックに適切な改修を加え、活用していくことが、現在喫緊の課題となっている。しかし、こうした集合住宅ストックは、戦後、その質を急速に変化させながら蓄積されたものであり、その改修計画の立案にあたっては、多様な類型に応じたものとすることが重要である。そこで、本年度は、特に1980年以降に建設された超高層住宅ストック及び中高層住宅ストックを対象として、それらの躯体の改修に対するキャパシティ(余裕度)の分析を行った。

具体的には、多数の超高層住宅、中高層住宅の図面を収集し、それらの建築特性を統計的に分析し、比較することで、両者のストックとしての特性を把握した。さらに、両者の改修に対するキャパシティについて、考察を行った。結果、超高層住宅ストックは、中高層住宅ストックに比して、改修に対するキャパシティが低い傾向にあることが明らかになった。この結果は、日本建築学会計画系論文集などで発表した。

・建築構成部材のリユースシステムに関する研究

角田 誠

循環型社会の構築に際し、建築廃棄物の再資源化を促進するための方策として、再生段階で地球環境に与える負荷の小さいリユースの積極的な導入は急務であり、それを具現する新たな建築生産システムについても検討が望まれている。本年度は、リユースシステムを運用する市場形成について、既に実績を有する北米のUBMA協会に対してヒアリング調査を行い、取引方法、情報交換などの流通ツールを把握するとともに、協会が推奨するリユース建築の企画・設計手法の実態及び我が国への適用可能性について明らかにした。また、リユース材の流通性・市場性の検討から得られたシステム運用に必要な要素に対して、新規構成材製造段階から最終的な廃棄処分段階までに要するコストを算出し、クリーンアップのレベル、リユース回数、部材・部品のリースの有無などをインジケータとする流通モデルを提示した。さらに、コストと資源利用効率・資源生産性などの環境効率指標とのバランス関係を明らかにし、リユースシステムの市場性について実際の運用に向けての検討を行った。

・公共施設ストックのコンバージョン手法に関する研究

角田 誠

公共施設では住民のニーズに対応するための継続的な建設活動が必要となるが、新たな施設の建設の一方で、余剰となった既存施設も数多く見られる。これらの既存施設の有効活用は、行政財産の維持・向上だけでなく、さらなる地域サービスの提供においても極めて重要な課題となる。本年度は、公共施設が一定期に集中的に整備され、また人口構造の変化による住民ニーズの多様化・複雑化が進んでいる東京都多摩市を対象とし、築年数を経た施設の現状とニーズとの相互関係を物理的、機能的側面から多角的に分析し、空間転用する際に発生する工事の内容や難易度の整理・分析からチェックリストを作成し、転用可能性を評価した。

また、市町村合併に伴う既存庁舎空間に着目し、合併前後における室空間機能の変容実態を明らかにするとともに、未使用空間の発生パターンを解明し、それらの有効活用手法を市民開放の観点から提示した。

・環境調和型建築材料に関する研究

橋高義典、田村雅紀

室内環境改善のための建築材料に関する研究として、各種建築内装仕上材料を対象に、ホルムアルデヒド等の室内空気汚染物質の低減効果ならびに再放出性能などを明らかにし、その評価方法を示した。また、構造用ポーラスコンクリートと建築植栽基盤材の組み合わせによる壁面緑化パネル部材を作製し、その植物生育特性を実験的に検証し、都市部ヒートアイランド現象の緩和、美観の向上策への基礎資料を得た。

・コンクリートの高機能化による耐久性向上に関する研究

橋高義典、田村雅紀

ひび割れ補修後のコンクリート構造体の耐久性維持効果は不明な点が多い。本研究では、普通コンクリート、繊維補強コンクリートなどについて、劣化ひび割れを補修材で補修した後、中性化促進試験、凍結融解試験などの劣化外力を与えた後での韌性回復性および維持効果を明らかにした。また、吸水性の特殊混和材料を用いたコンクリートのひび割れ後の自己強度回復効果について明らかにした。

・景観材料の色彩特性に関する研究

橋高義典、田村雅紀

建築物の印象は都市景観に大きく影響を及ぼすため、建築外装材料は周辺環境との色彩的調和を考

慮する必要がある。まず、れんが風タイル外壁仕上げ、天然石外壁仕上げなどに関して、その色彩特性が印象評価に及ぼす影響を明らかにした。また、多摩ニュータウン地区全域の集合住宅の外装材について、色彩特性の実態調査を行い地域による特徴を明らかにした。さらに、集合住宅を対象に屋根葺き材料の色彩特性が印象評価に与える影響を明らかにした。

<建築構造>

- ・破壊曲面縮小の概念に基づくせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の鉛直変形評価に関する研究

芳村 学

曲げ降伏する以前にせん断破壊するRC柱について、過去に行った崩壊実験の結果を基に、柱が崩壊に至るまでの鉛直変形挙動について考察した。検討対象試験体のパラメータ範囲は、せん断余裕度=0.49~0.73、横補強筋比=0.11~0.21%、軸力比=0.18~0.35、主筋比=1.69~2.65%、クリアスパン比=2~4である。得られた知見を以下に示す。1)破壊曲面の縮小と塑性流れ則の考え方を用いて、せん断破壊後崩壊に至るまでの鉛直変形-水平変形関係の定式化を行った。破壊曲面を2次曲線と仮定したほうが橿円と仮定した場合より推定精度が良い。また、崩壊水平変形の推定精度が推定線の精度に大きな影響を与えるため、推定線の精度向上には崩壊水平変形の推定精度向上が不可欠である。2)実験において、崩壊水平変形と崩壊鉛直変形はほぼ正比例関係にあり、後者/前者の平均は0.22であった。破壊曲面を2次曲線と仮定した場合の解析からも同様の結果が得られたが、後者/前者の平均は0.14であった。3)地震によりせん断破壊した柱に関して、地震時に経験した最大水平変形時の鉛直変形が残留鉛直変形と等しいと仮定すると、鉛直変形-水平変形関係推定式および水平力-水平変形関係推定式を用いることにより、測定された残留鉛直変形から地震時に経験した最大水平変形とその時の水平力の低下度合いを推定することができる。

- ・荷重低下域における柱の挙動を考慮した被災RC建造物の非線形骨組解析

-三陸はるか沖地震における八戸東高校の検討-

芳村 学

1994年三陸はるか沖地震で倒壊に近い被害を受けた青森県立八戸東高校管理棟について、実験結果に基づき定式化された崩壊に至るまでの柱の荷重変形関係を用いて、静的および動的な非線形骨組解析を行った。そこでは、より実状に近い解析を行うために、柱主筋の重ね継手を考慮したほか、せん断強度を荒川mean式により求めた。また静的解析においては、一定層せん断力分布のもとで柱の荷重低下に伴うある階での層せん断力の低下を考慮できる方法を用いた。得られた知見を以下に示す。1)せん断強度を荒川mean式により求めて、1階柱がせん断破壊し、実被害と対応する結果を得ることができた。2)梁に一旦降伏が生じても、1階柱がせん断破壊して荷重が低下すると2階以上の層せん断力が減少し梁のヒンジは解消される。実被害で梁の被害が目立たなかったのはそのためである。3)もし重ね継手の位置に問題がなかつたら実被害は大幅に小さかった可能性がある。4)1階の柱の崩壊変形が小さいと、小さい層間変形で崩壊に至る。その場合、1階に顕著な変形集中が起こらなくても大きな被害となる。

- ・せん断破壊型RC柱の崩壊に対する直交壁の影響

芳村 学、中村孝也

旧基準によるせん断破壊型RC柱を対象として、直交壁が崩壊までの柱の構造性能に与える影響について検討した。柱のみの試験体2体、柱に直交壁が付いた試験体4体の計6体に対する崩壊実験を行った。試験体は両端固定形式とし、横補強筋比=0.11%、軸力比=0.2、クリアスパン比=3は共通である。実験パラメータは、主筋比、壁厚とした。主筋比は2.56%と1.69%、壁厚はゼロ(直交壁なし)、60mm、90mmとした。試験体は全てせん断破壊した。得られた知見を以下に示す。1)主筋量の多い柱のみ試験体C16の崩壊変形は5.61%で、主筋量の少ない柱のみ試験体C13の崩壊変形は1.28%であった。一方、直交壁付き試験体の崩壊変形は4~6%程度であり、直交壁の効果はC16シリーズではなかったが、C13シリーズでは顕著であった。2)直交壁には部材角3~4%程度で縦方向にひび割れが入り、それ以降壁が負担していた軸力の柱への移動が起こった。その結果、C16シリーズでは、C16の崩壊変形が3~4%

より大きかったため、直交壁が付いても崩壊変形は増加しなかった。しかし、C13 シリーズでは、C13 の崩壊変形が 3~4%より小さかったため、直交壁が付いた場合の崩壊変形が増加した。3) 直交壁が付くことによる強度増加は 10%程度であった。また、強度増大に対する壁厚さの影響はほとんどなかった。

・二軸曲げを受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動

山崎 真司, 見波 進

本研究は、二軸曲げを受ける H 形断面鋼柱の崩壊モードとエネルギー吸収能力を支配する基本的パラメータを明らかにし、エネルギー吸収能力を定量的に評価する方法を確立するための基礎資料を得ることを目的とする。

実験において、断面の主軸から θ の角度をもった方向に水平力を作用させることによって曲げモーメントを載荷した。 θ は、 0° (強軸曲げ), 30° , 60° , 90° (弱軸曲げ) の 4 種類とした。

実験により次の様な性状が把握された。

1) 終局時の部材変形状態として、載荷面外変形と捩れ変形に関し 4 つのパターンが確認された。2) 斜め方向載荷試験体は、部材長中央でウェブ軸が載荷方向に直交する方向に近づくように捩れて崩壊した。3) 繰返し載荷曲線より作成した正側および負側のスケルトン曲線と単調載荷曲線との関係は、強軸曲げ試験体の場合前者が後者を下回り、他の試験体の場合両者はほぼ同一であった。

実験結果より、試験体の条件および載荷の条件とエネルギー吸収量の関係が得られた。

・強震を受ける鋼構造骨組のエネルギー応答

山崎 真司, 見波 進

構造物の終局耐震安全性の検討は、地震時に各部材に入力するエネルギーと当該部材が吸収することが出来るエネルギーの比較により行われる。従って、構造物の耐震安全性の検討を定量的に行うためには、構造物全体に入力する地震エネルギーの各部材への配分則、および各部材のエネルギー吸収能力が明らかにされなければならない。本研究は、骨組の地震応答解析を通して地震入力エネルギーの各部材への配分則について調べ、その結果に基づき合理的な耐震設計法について考察することを目的とする。

応答結果に基づき、次の各項目が損傷分布に及ぼす影響について検討した。1) 柱梁耐力比、2) 鉛直方向の耐力分布の不連続性、3) 地震波の特性、4) 入力の大きさ。

各項目に対する検討結果は以下のように要約される。

1) 柱梁耐力比が 0.77 以下の骨組ではほぼ柱降伏型の性状を、1.8 以上ではほぼ梁降伏型の性状を示す。2) 鉛直方向の耐力分布が不連続な骨組では、断面が変化する層の部材に損傷が集中する。3) 地震波が異なることによる性状の違いは顕著では無い。4) 入力の増加に伴い損傷集中は緩和される。

・鋼材ダンパーを用いた連結制振構造の捩れ応答性状に関する実験的研究

山崎 真司, 見波 進

連結制振構造については、これまで理論的、解析的および実験的研究が行われているが、それらの多くは並進振動に関するものであり、捩れ振動に関する研究は殆ど行われていない。本研究では、振動台実験を行い、重心を結ぶ方向に直交する方向に地動を入力させたときの応答性状を調べた。

実験より、以下の結果が得られた。

1) 適切なダンパーを用いることにより、重心位置の変位より大きな変位が生じる連結点から最も離れた位置の建物ばねの変位に関しても、制振効果が得られる。2) 並進振動応答の場合と異なり、捩れ応答の場合はダンパーの降伏耐力と応答低減効果の関係に強い相関が見られない。

組合せる建物の振動特性とダンパーの特性を変化させて一連の応答解析を行い、実験結果と解析結

果に基づき、二つの建物の重心を結ぶ方向の地動成分と、重心を結ぶ方向に直交する方向の地動成分の双方の応答に対して、低減効果を有するダンパーの条件について考察した。

・地盤の非線形性が建物の地震応答に及ぼす影響

西川 孝夫、山村 一繁

地震動強さ、地盤条件、および建物条件をパラメータとし、実効入力エネルギーに地盤の非線形性が及ぼす影響を検討した。解析結果より、以下の事が明らかとなった。

1) 地盤-建物への総エネルギー入力は 1 自由度系において、減衰を建物の減衰定数、周期を地盤-建物の連成周期とした場合のエネルギー入力とほぼ等しい事を示した。2) 表層地盤によるエネルギー増幅率は、地盤条件の影響を受ける。また、地震動強さを大きくするほど、表層地盤の剛性が低下し、卓越周期が長周期化する。3) 実効入力率への影響として、有効周期を検討した。その結果、有効周期は、地震動強さ、建物条件および地盤条件に大きく影響を受ける事が分かった。また、有効周期は地盤周期によらない量である事が分かった。4) 実効入力エネルギーは、有効周期と地盤単独系の固有周期の比である有効周期比によって、その特徴が異なる事を示した。また、実効入力は、表層の S 波速度が小さいほど、表層地盤の非線形増幅特性や地盤-建物の動的相互作用による影響を受ける。

実効入力に表層地盤が及ぼす影響は、入力の大きさと共に、地盤の非線形特性によって異なるため、地盤の非線形挙動を適切に評価する必要がある。また、本検討では、解放工学的基盤と実効入力の関係に着目したが、解放工学的基盤以深の地下構造が実効入力に及ぼす影響を検討する事も今後の課題である。

・軟弱地盤上に建つ中低層建物の振動特性同定に関する研究

西川 孝夫、山村 一繁

軟弱地盤上に建つ中低層建物では地盤と構造物の動的相互作用の影響が顕著に現れるとされる。わが国の都市部のほとんどは沖積層上にあるため、都市部の中低層建物は軟弱地盤上に建てられることが多い。地盤と構造物の動的相互作用を考慮した耐震性評価の重要性から、近年ではその影響を設計に取り入れる動きも活発化している。そこで、軟弱地盤上の大きさの異なる二棟の建物に対して、系全体としての固有振動数と減衰の同定と建物-地盤相互作用系における地盤と構造物の各パラメータについての同定を行ない、結果の考察をした。またその同定結果を使って応答解析を行ない地震時の挙動について検討した。

1) 主にロッキングの影響で固有振動数を低下させ、スウェイの影響で減衰が高くなり、応答を低下させていることが分かった。2) スウェイの影響を除いてロッキングのみを考慮したとき、ロッキング振動が入ることで短辺方向の応答は基礎固定時よりも高くなることがある。3) 短辺方向の振動では、ロッキング振動の影響が大きく建物の変形分は全体変形の 3~4 割程度であった。

建物の実挙動は建物の振動特性と地震波の特性の関係によって異なり、実挙動を把握するためにも連成系での応答解析が必要である。

・事務室用積載荷重の荷重効果の確率・統計的分析

山村 一繁

事務室用積載荷重の荷重効果について、確率・統計的分析を行なった。その結果、以下の知見を得た。

1) 床版の荷重強さと短辺方向端部曲げモーメントおよび弾性たわみに対する等価等分布荷重は、平均値はそれぞれ 720N/m/m, 930N/m/m, 700N/m/m であり、確率分布モデルの 99%点荷重値はそれぞれ 1800N/m/m, 2400N/m/m, 1800N/m/m となった。2) 荷重強さと各荷重効果間の相関係数を評価した結果、荷重強さは弾性たわみより短辺方向端部曲げモーメントに対する等価等分布荷重と高い相関を示した。

3) 積載荷重により生じる最大弾性たわみの位置は、長辺方向にばらつきが大きく、相対位置として 0.14 ～ 0.84 の間に位置する。4) 建築物荷重指針・同解説で用いられている面積低減式について、その理論的背景を明らかにすることができた。5) 面積による荷重効果の低減傾向を検討し、想定する面積が大きくなると単位面積あたりの荷重値のばらつきが小さくなることを定量的に示すことができた。6) 建築物荷重指針・同解説に示された面積低減式は、実データの低減傾向と比較して安全側にある。

設計荷重は、対象とする荷重効果に応じて異なる値を用いるべきであり、荷重効果の特性を十分に把握した上で設定する必要がある。

- ・ プレストレスト鉄筋コンクリート (PRC) 平面柱・梁部分架構の耐震性能

北山 和宏

鉄筋コンクリート (RC) 構造とプレストレスト・コンクリート (PC) 構造の中間的な性質を持つプレストレスト鉄筋コンクリート (PRC) 構造の平面柱・梁十字形部分架構試験体を終局プレストレス率を変数として 10 体作製し、静的正負交番水平力載荷実験を行った。試験体は全て梁曲げ降伏が先行するように設計した。しかしながら実験では 3 つの破壊形式を有し、PC 鋼材とグラウトの付着力および梁主筋の付着力が梁危険断面位置での梁残留ひび割れ幅に大きく影響することを把握した。得られた結論を以下に示す。

- 本実験においては 3 タイプの破壊形式が観察され、最大層せん断力時の層間変形角は 1.5% から 2.9% とばらつきが生じた。梁曲げ破壊を生じた 4 体の試験体 (PC 鋼棒にウルボン使用) では、耐力低下が始まった直後に PC 鋼棒が破断し、耐力が急激に低下した。
- 梁危険断面における残留ひび割れ幅の急増は最大層せん断力時や梁主筋・PC 鋼棒降伏時に生じたのではなく、梁主筋あるいは PC 鋼棒の付着劣化によって引き起こされた。

- ・ 圧着接合されたプレストレスト・コンクリート柱梁接合部パネルのせん断ひび割れ挙動と損傷過程

北山 和宏

プレキャスト・コンクリート柱梁部材を圧着接合して組み立てた骨組内の柱梁接合部の実験結果に基づき、柱梁接合部パネルの損傷過程におけるせん断ひび割れの挙動について検討した。接合部せん断変形角とひび割れ幅の関係は線形性を有し、損傷を表す指標となること、また、鉄筋コンクリート造柱梁接合部に比べて損傷低減効果が期待できることがわかった。得られた結論を以下に示す。

- 接合部パネルのせん断ひび割れ幅とせん断変形角との関係の評価式を得た。PC 接合部は RC 接合部に比べてプレストレス力による損傷低減効果が期待できる。
- 接合部せん断変形角とひび割れ幅関係は $\gamma p = 0.5\% \text{ から } 0.6\%$ で勾配が変わる 2 折れ線の線形性を有し、接合部の損傷をあらわす指標として利用できる。RC 接合部の場合と比較すると同じせん断変形角時のひび割れ幅が半分程度であり、プレストレスにはひび割れ幅を低減する効果がある。
- 接合部パネル内の補強筋のひずみが 1000μ までは最大ひび割れ幅は線形性を有するが、降伏時には最大ひび割れ幅が 0.2 mm から 1.4 mm とばらついた。今回の接合部パネルの大きさにおいて、ひび割れ幅の合計値が 0.6 mm より小さい場合、ほぼ弾性範囲内にある。
- ひび割れ幅は接合部主引張ひずみと直接関係しているが、 0.6% 時を境に発散した。
- 残留ひび割れ幅とピーク時最大ひび割れ幅には良い相関があり、RC 接合部とほぼ同様の関係を示した。
- 残留接合部せん断変形角とピーク時の変形角の関係においては、プレストレスの効果により除荷時の変形角が十字形接合部の場合は RC 接合部の半分となり、ト形の場合は RC と同等の傾向となった。
- 接合部せん断ひび割れ発生時の強度は計算式と良い相関があったが、初期剛性は計算値が 1.5 倍から 2.5 倍程度実験値よりも大きくなかった。

- 連層鉄骨ブレースで耐震補強された鉄筋コンクリート建物の三方向地震時挙動

北山 和宏

鉄筋コンクリート(RC)建物の耐震補強に鉄骨ブレースを設置する際、ブレースは上下の層で同じ場所に設置されることが多い。そのときブレース側柱には大きな変動軸力が加わる為、強度抵抗型のタイプ1破壊(鉄骨ブレースの軸降伏や座屈による破壊)ではなく、タイプ3破壊(全体曲げ破壊)や、基礎浮き上がり破壊の破壊形式となる可能性がある。本報では連層ブレースで耐震補強されたRC建物を対象とし3方向地震動を入力した地震応答解析を行い、全体曲げ破壊と基礎浮き上がり破壊時の建物全体の挙動およびブレース側柱の軸力変動に関する知見を得ることを目的とした。得られた知見を以下に示す。

- 連層鉄骨ブレースを含む骨組を全体曲げ破壊させることで各層の応答変位を抑制することができた。全体曲げ破壊は耐震補強上有効である。
- ブレースの基礎浮き上がり破壊は各層の変形角を均等にする効果があり、上層での応答変位を抑制することができるが、浮き上がり時に1層での変形角が補強前より大きくなる可能性がある。また、浮き上がり耐力は既存建物の基礎梁の性能に依存するので、十分な補強効果が得られない場合がある。
- ブレース側柱の変動軸力は全体曲げ破壊において圧縮側で軸力比0.57から引張側で軸引張耐力に達し、大きな変動が見られた。

- 学校建物の耐震補強と建築計画との関係に関する事例調査

北山 和宏

新しい教育に対応したオープン・プランの導入などの大規模改修とともに耐震補強を計画した標準的な片廊下形RC造学校建物を対象として、幾つかの実例をここ数年のあいだ調査してきた。2005年度には、教室の南側に韌性依存型骨組を増設することによって耐震補強を施すとともに、普通教室や職員室、図書室などを改修した小学校を実地に調査して、その有効性および使われ方について検証した。

- 五重塔の振動特性に関する研究

藤田香織

本研究は、伝統構法による木造五重塔の振動特性を定量的に明らかにすることを目的としている。本年度は、新築五重塔の加速度計8台により地震観測を行い、測定結果に関する考察を行った。更に、2004年度に防災科学技術研究所の大型振動台にて1/5大模型の振動台実験を行った結果の解析、および次年度の実験準備を行った。

- 既存戸建て住宅の構造補強に関する研究

藤田香織

本研究は、既存木造戸建て住宅の耐震性能評価及び構造補強の方法を検討するための基礎的な資料となることを目的としている。本年度は、既存木造戸建て住宅を対象とした耐震診断・微動測定を複数行い、そのうちの一件では前年度開発した透過性を付与した耐力壁を用いた耐震補強を実施した。施工過程を記録することにより摘要に際する問題点を明らかにした。

- 東南アジアの木造建築の構造性能に関する研究

藤田香織

東南アジアの伝統的な木造建築の構造性能を定量的に評価し、日本の伝統的な木造建築との比較検討を行うことを目的としている。本年度は、前年度行ったベトナム北部の伝統的な木造民家を対象とした静的鉛直加力試験及び水平加力試験の結果をもとに解析的な検討を行った。更に、接合部の要素実験を行いモデル化に関する問題点を整理した。

<建築環境>

・熱負荷計算のための窓性能値に関する研究

石野久彌

近年、ガラスの種類が多様化し、またエアフローウィンドウやプッシュプルウィンドウのように窓に室空気を通す高性能な窓システムも登場した。これに対し、設計用あるいは解析評価用の窓熱性能値の整備は十分とはいえない。また、ガラス建築の増加とともに、日射熱取得の対流・長波放射・短波放射の3成分と区別して扱い、より正確な熱負荷を得ることや室内放射環境を評価することが重要になりつつある。

本研究は、これらの状況を踏まえ、必要な窓熱性能値の整備を最終的な目標として行い、窓熱取得計算法と窓熱性能値を整理提案した。なお本研究は日本建築学会論文報告集に発表した。

・暖房設計用 t-x 基準、t-Jh 基準気象データの提案

石野久彌

拡張アメダス気象データが開発され、国内 842 地点の気象データを利用することが可能となった。本研究は、拡張アメダス気象データをもとに、全国の暖房設計用気象データを整備することを最終目的として、新しい設計用気象データの作成法を提案するものである。

本研究では、選定日数に関する最終の検討結果を報告し、本作成法による設計用気象データの厳しさが、都市によりどの程度の差があるかを、気象日別値の危険率と日周期定常最大負荷の危険率から確認し、同時に従来の設計用気象との違いも把握した。なお本研究は日本建築学会論文報告集に発表した。

・日射の直散分離に影響を及ぼす気象要素の特性研究

中山哲士、石野久彌

気象要素には直散分離の誤差を生じさせる様々な要素が含まれている。本研究は、予測の誤差要因となっている気象要素を個々に取り上げ、その気象要素の特性と誤差との関連性を明らかにするものである。

本研究ではその要因として日射の短時間変動成分をとりあげ検証を行った。まず、日射の短時間変動を定量的に表し指標を提案し地域や季節による出現特性を示した。夏に変動成分が大きく、冬に少ないことなどがわかった。また、日射の変動により最大日射の丸め誤差への影響、直散分離の予測精度への影響について関係性を明らかにした。なお本研究は日本建築学会論文報告集に発表した。

・建物内における最適給水システム構築のための検討

市川 憲良、浅野 良晴（信州大学）

建物内の給水システムは、水道直結式（直圧方式、増圧方式）と受水槽式（高置水槽方式、圧力水槽方式、ポンプ圧送方式）とに大別される。中規模以上の建物には、それまで受水槽方式が採用されてきたが、小規模受水槽における水質劣化の問題のから、中規模程度の建物を対象に増圧直結給水方式が10年前から導入されるようになった。当該システムは多くの利点を有しているが、導入後の実態は不明な点を多く残している。

本年度は、直結増圧給水方式導入後の実態を把握するために、故障や不具合に関するアンケート調査などを行った。また、推定最大値による計画瞬時流量モデルの構築などについても検討した。これらの成果は、空気調和・衛生工学会学術講演会や日本建築学会大会などへ発表している。

・住宅における給水・給湯使用実態に関する研究

市川 憲良, 前 真之 (東京大学), 鎌田 元康 (東京大学), 飯尾昭彦 (日本女子大学)

近年, 少子・高齢化をはじめ核家族化などにより家族形態や個人の生活形態は多様の一途を辿ってきており, 給水・給湯設計負荷算定など行う場合の基礎データとして, 形態変化に伴う水や湯使用状況の実態把握が重要視されている。また, 住宅における給湯消費は, 全エネルギーの約 1/3 を占め, 省エネルギーの対象として高効率給湯機の開発及び効率評価手法の確立が急務とされている。しかし計測の煩雑さや住民の協力を得ることの困難さから, その実態は十分把握されていない。

本年度は, アンケート調査に基づく世帯構成別の水・湯使用行為の実態, 及び既存の湯使用実測データに基づき, 平均の把握・日変動・季節変動などについて検討をおこなった。これらの成果は, 空気調和・衛生工学会学術講演会や日本建築学会大会などへ発表している。

・循環式浴槽におけるレジオネラ感染症防止対策に関する研究

市川 憲良, 紀谷 文樹 (神奈川大学)

近年, わが国では, 大型浴場におけるレジオネラ属菌による集団感染・死亡事故が多発している。また, 水泳プールにおいても, アデノウィルスによる咽頭結膜熱(プール熱)の感染が問題となっている。これ等の施設の共通点は, 水槽内の水を循環ろ過するシステムが採用されていることである。特に, レジオネラ感染事故は, 循環式浴槽システムを採用している施設で多く発生しており, 浴槽水のろ過方法と消毒方法をはじめ, システム的な構造に対して早急に検討する必要があることが指摘されている。

本年度は, 基礎的検討として, 実際の浴場施設の浴槽内の流れの実態調査, 及び循環式浴槽を想定した水流可視化装置(幅 2m × 長さ 3m × 深さ 0.8m)を用い, 浴槽水を循環させる際の浴槽内に生じる水の流れの解析などを中心に行った。これらの成果は, 空気調和衛生工学会学術講演会において発表している。

・環境共生建築および自然エネルギー利用手法に関する研究

須永修通

地球環境保全のためには, 建築分野では省エネルギーとともに自然エネルギーの活用が不可欠である。また, それらを考慮して設計された環境共生建築を広く普及させるためには, その実際の性能を明らかにするとともに, 地球環境への影響や室内環境の快適性等を考慮した総合的な評価手法を整備する必要がある。当研究室ではこれらのテーマに関して, 建築的要素の工夫によるパッシブデザイン手法, 太陽熱などの自然エネルギー利用室内気候調整およびそれに関連する建築部材の開発, 實在する環境共生建築の性能評価とデータベースの作成, 並びに, 建築, 特に住宅の評価方法などに関する研究を継続的に行っている。

本年度は, このテーマに関して以下の研究を行った。各々概要を示す。

- 1) 屋根流水放射冷房システム : アルミニウム製天井パネルによる放射冷房の快適性について, 広場Bの実大実験棟を用いて被験者実験を行い, 天井冷房および本システムの快適性を実証した。
- 2) Water Floor(水蓄熱床)を用いた太陽熱床暖房システム : 広場Bの太陽熱利用実験棟を用いて, 夏季の夜間冷気取り込み・屋根流水・夜間窓開放の効果について検討した。
- 3) 地中熱利用放射冷房システム : 地中熱利用による除湿・縦置型放射パネルを用いた冷房システムについて被験者実験を行い, 冷水温度とコールドドラフトの関係などから, 快適性について検討した。
- 4) 露出型天井配管冷房システム : 天井全面に冷水を通すパイプを設置して冷房するシステムの性能について, 新たな冷却パイプを用いた場合の性能について検討し, 良好な室内環境と省エネルギー性を確認した。
- 5) 環境共生建築の性能評価手法 : 住宅の居住者の着衣量変更などの環境調整行動を加味して評価

できる室内環境評価方法に関連して、実際の住宅を用いた被験者実験を初夏、秋季、冬季を行い、データ解析を行った。

- 6) エコスクールの性能評価： 東京都内のエコスクール認定校について調査し、一般学校よりエネルギー消費量が多いこととその原因を示した。
- 7) 学校校舎における屋上植栽および壁面植栽の効果： 夏季に実測を行い、植栽のある教室と無い教室の違いを明確にした。
- 8) RC戸建住宅の外断熱改修： RC住宅の断熱改修方法について検討するとともに、外断熱改修を行った戸建住宅について冬季の実測を行い、改修の効果を示した。
- 9) RCビルの内断熱改修： 内断熱改修の実プロジェクトを対象として、シミュレーションによりその効果を検討し、改修計画に反映させた。
- 10) 木造密集住宅地域の温熱環境： 東京都心の木造住宅密集地域を対象に夏季実測を行い、地域の熱環境を総合的に把握するとともに、屋外の熱環境に影響を与える要因について検討を行った。

・住宅の熱湿気特性の同定に関する研究

永田 明寛

住宅の熱湿気環境の予測手法は、現在非常に発達してきているが、竣工後の性能把握・評価という側面はなおざりにされている。例えば、熱損失係数や日射取得係数は、住宅の省エネルギー基準でも基本的な熱性能指標として採用されているが、これは部材の熱性能がわかった上で計算にとどまっている。しかし、性能評価は実際の建物で行うのが本来であろう。建物全体ではなく部材ごとの熱貫流率の現場実測も大きな課題である。本年度は、昨年度提案した面状発熱体と熱流センサーを用いた熱貫流率の現場測定法の精度について、実験室実験およびシミュレーションにより検討した。

・温度荷重の簡易予測法に関する研究

永田 明寛

建築部材は、建設開始時から運用時、更に解体時まで温度変化に常時曝される。建築構造によっては、この温度変化による部材の変形や応力が無視できないオーダーになり、設計時に考慮しなければならないことがある。このような「建築物に荷重効果を発生させる温度」が温度荷重だが、部材の温度は外気温や日射量などの外界気象や室温の他、部材構成によっても異なるため一律に定めることができない。そのため、温度荷重を設定するためには、諸条件をもとに計算する必要がある。本研究では、ISO/TR 9492:1987, "Bases for design of structures - Temperature climatic actions" をベースに、気象データの整備や多層壁への適用法について検討を行った。

<都市空間システム>

- ・都市の震災復興計画の立案と復興まちづくりの推進方策に関する研究

中林一樹, 市古太郎, 饗庭 伸, 他

大規模な都市災害からの復興対策も事前に準備しておく必要がある。東京をモデルに、震災後の復興計画を立案し、被災市街地で復興まちづくりを推進するための手法の開発を行う。

- ・トルコ・台湾・日本の震災復興過程の比較研究

中林一樹, 市古太郎, 饗庭 伸, 他

1999年に発生した二つの地震災害、トルコ・マルマラ地震と台湾・集集地震からの復興は、日本とは異なる、特徴的な進め方を行っている。その復興過程を比較研究して、より有効なアジア型復興対策を考究する。

- ・首都の震災対策と防災まちづくりに関する研究

中林一樹

首都直下地震の災害像及びその特徴を解明するとともに、その被害軽減のための震災対策、とくに木造住宅密集市街地での防災まちづくりの推進方策を考究する。

- ・都市のフィジカル・パターンの分析論と計画論に関する研究

玉川英則

都市の内部構造や都市圏相互の比較分析を行いつつ、都市の空間的な形態（フィジカル・パターン）の分析論と都市計画論との関連性を明らかにすることを目的として研究を行った。具体的には、地理情報システム（GIS）のインテグレーションとデータ共有化に関し、IGNを中心としたフランスの実態を踏まえた国際比較研究をまとめた。また、都市景観に関し、その視点場による類型化を通じた実証的分析を行った。

- ・都市のQOLにおける社会性・環境性の解明と政策に関する研究

玉川英則, 中林一樹, 市古太郎

都市生活のクオリティに関する喫緊の事項である犯罪について、近年の分布動向の分析と凶悪犯現場の場所性について実態調査等も含めた論考を著すことにより、空間と関連した新たなQOLコンセプトを具体的に提示した。

- ・ユニバーサルデザイン・交通システム・観光に関する研究

秋山 哲男

主要な研究は、以下の3点がある。第一は、障害者・高齢者を主たる対象とした鉄道・道路などのアクセスに拘わるバリア・フリーデザイン、ユニバーサルデザインに関する研究である。これは基本的には交通計画のユニバーサルデザインの考え方を整理し、計画的には、交通バリアフリー法による基本構想の具体的な検討を新宿区などで実施したものである。また、技術的には光による視覚障害者の歩行支援の可能性の検討を行ったものである。

第二は、障害者・高齢者を中心とする交通手段の供給システムに関する研究（STサービスやデマンド・レスポンシブ・トランスポート（DRT）、バス）である。これは、欧米の政策と日本の交通政策・計画に関する国際的な比較を行うとともに、バス交通計画やSTサービスの計画のありか方を論じている。さらに事例研究として、過疎地域におけるモビリティと公共交通の現状分析や公共交通としてのDRTの将来展望などを検討した。

第三は観光である。観光については、観光の人材育成研究、利用者の観点から観光のユニバーサルデザイン研究を行っている。

・事前復興論に基づく震災復興まちづくり模擬訓練手法の開発

中林一樹、饗庭伸、市古太郎

首都直下地震による甚大な被害想定を前にして、「事前復興」という視点から間接被害を軽減化するため、住民、行政、専門家の訓練手法を開発するものである。今年度は、葛飾区新小岩地区における震災復興まちづくり模擬訓練の運営支援を行い、訓練を通して得られた知見をとりまとめた。また、東京都市部ではこれまで「復興」の視点では未検討であったが、八王子市を対象に、訓練運営支援を通して訓練手法の開発を行った。

・防災まちづくりにおける計画マネジメント手法に関する研究

市古太郎

防災まちづくりの進捗状況を把握し、取り組みの効果を評価し、さらなる資源投入に向かうためには、計画マネジメントの視点から、指標開発をおこなうことが重要である。

本年度は、密集市街地における「空地」を GIS データを用いて算出する手法を開発し、隣棟間隔を閾値とした空地規模のパターン化をおこなった。

<都市社会システム>

- ・都市の健康水準と高齢者の健康維持要因追跡研究

星 旦二

都市の健康水準を明確にする研究とともに、高齢者の健康維持要因について、追跡研究を実施している。

- ・分権改革とローカル・ガバナンスに関する研究

羽貝正美

わが国で進行中の分権改革と自治体再編の潮流のなかで、各自治体がどのようにローカル・ガバナンスを再構築しようとしているのか、なお残る課題は何かについて住民自治、団体自治の両面から考究することを目的としている。

今年度は主として自治体再編に注目し、自治体の住民自治の課題について考察した。

- ・フランスにおける広域行政に関する研究

羽貝正美

わが国とは対照的に、現代なお極めて多くの基礎自治体がのこるフランスを対象に、小規模自治体相互の連携・協力の関係がどのように築かれ、都市政策を展開しているのかについて考究することを目的とする。

今年度はリヨン都市圏を形成するコミューンの取り組みについて基礎的な調査を実施した。

建築都市コースの研究成果リスト

<建築計画・都市計画>

東京都における公立小中学校と地域公共施設との複合化事例における建築概要に関する実態調査

斎藤潔, 上野淳

日本建築学会技術報告集, No. 21, pp. 249-254 (2005年6月)

痴呆性高齢者グループホームの環境及び入居者の固有の居場所とその変容に関する研究

山田あすか, 上野淳

日本建築学会計画系論文集, No. 592, pp. 93-100 (2005年6月)

グループリビング型知的障害者入所更生施設における居室及び共有空間の設えと入居者の滞在に関する研究

山田あすか, 上野淳

日本建築学会計画系論文集, No. 595, pp. 57-64 (2005年9月)

多摩市における高齢者デイサービスセンターの運営プログラム・活動の実態と利用構造

坊上南海子, 山田あすか, 上野淳

日本建築学会技術報告集, No. 22, pp. 409-414 (2005年12月)

個室型特別養護老人ホームにおける入居者の自立能力の変化と居室利用の変遷に関する考察

芦沢由紀, 上野淳

日本建築学会計画系論文集, No. 600, pp. 17-24 (2006年2月)

団地住宅における高齢者居住の様態と居住環境整備条件について

—多摩ニュータウン団地居住高齢者の生活像と居住環境整備条件に関する研究 その1

加藤田歌, 松本真澄, 上野淳

日本建築学会計画系論文集, No. 600, pp. 9-16 (2006年2月)

有料老人ホーム居住者の生活展開と生活領域の拡がりに関する研究

伊佐地大輔, 上野淳

日本建築学会計画系論文集, No. 601, pp. 39-46 (2006年3月)

高齢社会に生きる 住み続けられる施設と街のデザイン

上野淳

鹿島出版会 [単行本], 176 p. (2005年11月)

都市衰退過程での空き家の発生と集積および空地の商業への影響に着目したマルチエージェントシステムによる都市シミュレーション

安藤陽介(元東京都立大学), 横田敬司(元東京都立大学), 吉川徹

都市計画論文集, No. 40-1, pp. 51-59 (2005年4月)

多摩ニュータウン「基礎知識」コード変化率法による多摩市将来人口推計

柳澤一希, 有元美紀(元東京都立大学), 吉川徹

多摩ニュータウン研究, No. 7, pp. 62–63 (2005年4月)

都市再生緊急整備地域汐留におけるアクセシビリティに着目した都市の立体空間構成に関する研究

佐藤栄治, 吉川徹

日本建築学会計画系論文集, No. 593, pp. 153–158 (2005年7月)

居住者の視点から見た公共施設へのアクセシビリティの定量的分析 多摩市諏訪地区を事例として

佐藤栄治, 柳澤一希, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp. 1173–1174 (2005年9月)

通所型高齢者施設の利用者移動距離分布のシミュレーション分析

吉川徹, 柳澤一希

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp. 1159–1160 (2005年9月)

利用率と利用人数から見た地域集会施設の利用実態 多摩市のコミュニティセンターの貸室を例に

有元美紀(元東京都立大学), 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp. 631–632 (2005年9月)

ガラスの透過性を考慮した街路空間の広がりの定量的分析

近藤怜, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp. 177–178 (2005年9月)

A Method of Rearrangement Planning of Community Facilities Utilizing Existing Public Buildings in Matured Suburban Residential Areas: A Case Study in Tama City

Tohru YOSHIKAWA, Miki ARIMOTO (former Tokyo Metropolitan University), Kenji TAKEMIYA, Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference Tokyo, pp. 3664–3671, Sep. 2005

Accessibility to Community Facilities Considering Topographical

Features and Changes in Physical Strength by the Age of Residents

Eiji Satoh and Tohru Yoshikawa

Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2005, pp. 195–206 (Oct. 2005)

視覚情報が氾濫する都市空間における事物検索の経路と手間の定式化 秋葉原における商品検索を事例にして

柳澤一希, 吉川徹

日本建築学会計画系論文集, No. 597, pp. 127–133 (2005年11月)

基盤施設が点分布に与える影響の空間分析「SAINF」

吉川徹, 岡部篤行(東京大学)

岡部篤行・村山祐司編「GISで空間分析」古今書院, pp. 69–98, (2006年3月)

映像に見るニュータウンと団地のイメージの変遷

吉川徹

多摩ニュータウン研究, No. 8, pp. 56–65 (2006 年 3 月)

開発資料読み解きとまちの取り扱い説明書

吉川徹

多摩ニュータウン研究, No. 8, pp. 32–34 (2006 年 3 月)

New Town から Ordinary Town へ

吉川徹

多摩ニュータウン研究, No. 8, p. 1 (2006 年 3 月)

K 自治体における周産期医療体制の現状分析

周産期医療施設における施設機能及び配置計画に関する研究(1)

小林美智・竹宮健司

2005 年, E-1 分冊, p. 257

小児医療における子どもと家族の療養環境のあり方に関する基礎的研究

石澤三香子・竹宮健司

2005 年, E-1 分冊, p. 263

英国における小児ホスピスのケア提供体制 小児ホスピスの療養環境のあり方に関する研究(2)

竹宮健司

2005 年, E-1 分冊, p. 269

高齢者の地域継続居住を可能にするケアの仕組みおよび環境に関する基礎的研究

北村道一・竹宮健司

2005 年, E-1 分冊, p. 327

高齢者の小規模多機能施設での生活展開と改修によるその変化 地域内に分離した生活空間を持つ K

宅老所におけるケーススタディ

高尾昌和・竹宮健司

2005 年, E-1 分冊, p. 383

ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定及び実践状況の自治体間比較

宮田直明・竹宮健司

2005 年, E-1 分冊, p. 485

都心部における既存建築ストックの高齢者福祉・生活支援施設への転換に関する基礎的研究

千代田区神田地域における事例検討

篠田紀行・竹宮健司

2005 年, F-1 分冊, p. 471

既存ストック活用によるコミュニティスペースの再編成手法に関する研究

多摩市公共施設におけるケーススタディ

竹宮健司・横田悟・角田誠・吉川徹・倉斗綾子

平成 17 年度日本建築学会関東支部研究発表会梗概

英国の小児ホスピスにおける療養環境の現況

竹宮健司

第 6 回こどもの療養環境研究発表会, 2005 年 6 月

フランスの『都市の美化』-理念と発展』+「フランスの都市美保全施策-その誕生と昇華

鳥海基樹西村幸夫（編著），

『都市美-都市景観施策の源流とその展開』，京都：学芸出版社, 2005 年 5 月, pp. 38-62

ハコモノ美術館, デザイン美術館, そして街づくり美術館へ

鳥海基樹

『日仏工業技術』, Tome. 51-No. 1, 2005 年 8 月, pp. 118-121

万博遺産研究のための基礎調査

鳥海基樹+マリ・クリスティーヌ

『2005 年日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊』, 2005 年 9 月, pp. 377-378

フランスに於ける中心市街地活性化と郊外商業施設制御のための都市計画制度と運用実態-コンパクト・シティと持続的発展の理念に立脚し, 都市住民の便益の最大化のための集団規定や商業都市計画を通じた, 中心市街地に於ける近隣商店街の保護と郊外に於ける大規模店舗の制御, そして最終消費者確保としての住宅政策

鳥海基樹

国土交通省住宅局市街地建築課／（財）日本建築センター委託研究, 2005 年 9 月, 71p

ヨーロッパの『コンパクト・シティ』

鳥海基樹

『city & life-都市のしくみとくらし』, no. 78 :「小さな町の豊かな暮らし」, 2005 年 12 月, pp. 11-12

『ポートレイト (pourtrait)』から『プラン (plan)』ヘルネサンスのパリに於ける都市設計の概念的萌芽とそのための技術的転換に関する研究 その 2 (完)

鳥海基樹

『日本建築学会計画系論文集』第 600 号, 2006 年 2 月, pp. 113-119

醜景拡大への抵抗と都市美恢復へのアンガジュマン-パリから京都へのささやかな示唆

鳥海基樹

『都市研究・京都』, No. 19 :「特集・京都創生 III-外から見た京都」, 2006 年 3 月, pp. 64-pp. 80

ワインと葡萄畠が織りなす美味しい景観-あるいは世界遺産サン・テミリオンの文化的景観とその保全的刷新について

鳥海基樹

『談』別冊 :「Shikohin world alcohol 酒」, 2006 年 3 月, pp. 102-119

イタリアに於ける産業遺産の保全と活用

鳥海基樹

独立行政法人東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター（編著）：『イタリア文化財保護の現在』，2006年3月，pp. 108-123

オランダに於ける歴史的環境保全概論

鳥海基樹

独立行政法人東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター（編著）：『オランダ文化財保護制度調査報告』，2006年3月，pp. 15-22

地域協働の科学

佐藤滋 饗庭伸 他

成文堂（2005年11月）

新東京白書

饗庭伸 伊藤久雄 他

第一書林（2005年4月）

東京都心部の既成市街地における居住回復の進展と集合住宅立地の影響—千代田区神田地域を対象として—

水島彩子・饗庭伸・関真弓・高見沢邦郎 日本建築学会計画系論文集，第596号，pp. 109-114，日本建築学会，pp. 213~225（2005年10月）

The development history of the machizukuri method in Japan after the 1960s

Shin AIBA Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2005 Korea Planners Association (2005年10月)

経年化した郊外団地の実態とその賦活に関する問題整理—「団地お断り」時代につくられた東京都町田市の公団・公社住宅を中心に—

高見沢邦郎・平澤哲彦・饗庭伸 日本建築学会計画系論文集，第595号，pp. 117-123，日本建築学会（2005年9月）

The case study of the sustainable future images of high-density central area of Tokyo Shin AIBA, Junko MIYAMOTO, Yoshihiro KOSAKO, Kunio TAKAMIZAWA Proceedings of 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, pp. 3768-3773, SB05 National Conference Board (2005年9月)

東京都における2004年用途地域見直しの実態的考察—住環境保全のための新たな規制の採用を中心にして— 杉山哲哉，高見沢邦郎，市古太郎，中林一樹，饗庭伸 日本建築学会技術報告集，pp. 271-276，第21号 日本建築学会（2005年6月）

東京都等における公共賃貸住宅の建替え実態について 双川華子，高見沢邦郎，松本真澄，饗庭伸 日本建築学会技術報告集，pp. 325-330，第21号 日本建築学会（2005年6月）

構造改革特区の成果と都市計画・まちづくり 饗庭伸・市古太郎・内海麻利・窪田亜矢・桑田仁・真鍋陸太郎・米野史健 都市計画第 258 号 日本都市計画学会 (2005 年 12 月)

ネットワークカメラを利用した都市空間の定点観測映像データの情報アーカイブとしての構築とその活用可能性に関する研究 饗庭伸・川原晋・志村秀明・真鍋陸太郎・中島直人 電気通信普及財団研究調査報告書第 20 号 電気通信普及財団 (2006 年 3 月)

建築ストックの地震リスク情報化とその地域共有化手法—住機能の混在する東京の都心高密地区を対象として— 池田浩敬・崔恒・藤田香織・見波進・三原久徳・山村一繁 住宅総合研究財団研究年報第 32 号, pp377-388 丸善 (2006 年 3 月)

特集 まちづくり構造改革特区の研究 饗庭伸・市古太郎・内海麻利・窪田亜矢・桑田仁・真鍋陸太郎・米野史健 季刊まちづくり, 第 9 号 学芸出版社 (2005 年 12 月 (刊行予定))

参加型まちづくりの技術の蓄積と今後の展望 饗庭伸 PI-Forum, Vol. 1(1), pp. 3~10 特定非営利活動法人 PI-Forum (2005 年 1 月)

アメリカの近代高層商業ビルの住宅転用とコンヴァージョンの最近動向
黒川 直樹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 建築歴史・意匠, pp. 385-386
(2005 年 9 月)

アメリカ建築と町並の魅力 (講演) ----デザイナーのための西洋建築案内 第 6 回
黒川 直樹
OZONE プロ向けセミナー (於リビングデザインセンターOZONE) (2005 年 2 月)

計画住宅地における住民の“居場所づくり”について —多摩ニュータウンにおける活動事例—
頬あゆみ(国土交通省), 松本真澄
PRI Review, 第 18 号, pp18-25, 国土交通政策研究所(2005. 11)

<建築歴史・意匠>

コンバージョン・デザインの可能性-イタリア近年の事例

小林克弘, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 小川仁, 千賀順

2005年12月, SD2005, pp. 69-100

建築デザインと建築論の間

小林克弘

日本建築学会大会（近畿）建築歴史・意匠部門研究協議会資料, 2005年8月, pp. 1-7

個人事業者向けオフィスへの改修事例に関する調査及び比較考察

三田村哲哉, 小林克弘, 木下央

日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）, 2005年8月,

サー・ジョン・ヴァンプラの設計手法の分析 キングスウェストン・アルバムとエルトン・ホール・

アルバムに収蔵された図面の比較

木下央, 小林克弘

日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）, 2005年8月, pp. 735-756

ルイス・サリヴァン批評の時代的変遷に関する考察

椎橋武史, 小林克弘, 木下央

日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）, 2005年8月, pp. 577-578

建築雑誌 CASABELLA にみるイタリア近代建築の動向 ファシズム体制下での古典主義と近代主義について

苗村武志, 小林克弘, 木下央

日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）, 2005年8月, pp. 617-618

アンドレ・リュルサの建築美学に関する考察 1934年から1937年の集合住宅作品を中心として

河合朋子, 小林克弘

日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）, 2005年8月, pp. 579-578

ベトナム民家の伝統的木造架構にみられる仕口の技法について

山田 幸正, チャン・ティ・クエ・ハー, 藤田香織

日本建築学会技術報告集第21号, pp. 355-360 (2005年6月)

ベトナム北部木造民家の実大構面の静的加力実験

山口亜由美（東大）, 藤田香織, 山田幸正, チャン・ティクエハ, 坂本 功

日本建築学会技術報告集第21号, pp. 105-108 (2005年6月)

住宅史からみた中世イスラーム都市・カイロ

山田 幸正

建築学会都市史小委員会シンポジウム梗概集, pp.14-19 (2005年12月)

チュントゥ団地およびキムリエン団地の居住状況について-ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究（1）

山田 幸正, 藤江 創, チャン・ティクエハー, 西田 司

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, pp. 23-24 (2005 年 9 月)

チュントゥ団地における改修履歴について-ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究（2）

藤江 創, 山田 幸正, チャン・ティクエハー, 西田 司

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, pp. 25-26 (2005 年 9 月)

チュントゥ団地およびキムリエン団地における水廻りの更新について-ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究（3）

チャン・ティクエハー, 山田 幸正, 藤江 創, 西田 司

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, pp. 27-28 (2005 年 9 月)

Reconstructing the Eastern Sector of Old Saida - Based on the Map Originally Presented by Ernest Renan in 1864

アブドル・ラティーフ・ゾーヤ, 山田 幸正

日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 分冊, pp. 435-436 (2005 年 9 月)

戸田市芦原小学校複合施設竣工

シーラカンスアンドアソシエイツ

日刊建設工業新聞, No. 16256, 日刊建設工業新聞社, 2005. 3. 15

やさしく光と熱を受け止める蓄熱障子壁

小泉雅生／小泉アトリエ

ディテール, No. 164, 彰国社, pp. 36 (2005 年 4 月)

デッキを留めるシェル形状の屋根防水

小泉雅生／小泉アトリエ

ディテール, No. 164, 彰国社, pp. 50-51 (2005 年 4 月)

人や街に対して、ルーズにフィットする

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

GA JAPAN, No. 74, A.D.A. EDITA Tokyo, pp. 66-75 (2005 年 5 月)

戸田市芦原小学校

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

新建築, No. 80, 新建築社, pp. 98-111 (2005 年 5 月)

建築家のキッチン

小泉雅生

住まいと電化, No. 17, 日本工業出版, pp. 6-8 (2005 年 5 月)

街と学校の「距離感」を防犯に活かす

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

日経アーキテクチュア special, 号外, 日経 BP 社, pp. 14-20 (2005 年 5 月)

実験的な高効率床暖房の導入でゆるやかに繋がれた一室大空間を実現

小泉雅生／小泉アトリエ, メジロスタジオ

デザイン電化住宅, エイ出版社, pp. 22-27 (2005 年 6 月)

おおらかに三次曲面を描くアリーナ格天井

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

ディテール, No. 165, 彰国社, pp. 36-37 (2005 年 7 月)

設計者のプレゼンテクニックを探る !

小泉雅生 4 M E T

C A D & C G, No. 76, エクスナレッジ, pp. 54 (2005 年 7 月)

小泉雅生+メジロスタジオ アシタノイエ 2004 年

小泉雅生+メジロスタジオ

現代建築のパースペクティブ, 光文社, pp. 182-186 (2005 年 7 月)

デリケートな家族関係をつなぐ, 大きな屋根の家には緑がいっぱい

小泉雅生+メジロスタジオ

Pen, No. 156, 阪急コミュニケーションズ, pp. 48-51 (2005 年 7 月号)

Masao Koizumi

小泉雅生

pecha-kucha night24, No. 24, Klein Dytham architecture, (2005 年. 07 月号)

築熱フェアで提案建築家・小泉雅生さんの近未来型のコンセプト住宅

小泉雅生／小泉アトリエ

室内, No. 719, 工作社, pp. 38-41 (2005 年 9 月号)

architectural design (戸田市立芦原小学校)

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

建築技術, 建築技術社, pp. 66-90 (2005 年 9 月号)

流動的につながる一室空間で家族のほどよい関係性をつくる

小泉雅生／小泉アトリエ

建築家の自邸, 桤出版社, pp. 60-63 (2005 年 10 月)

Molding house

小泉雅生／小泉アトリエ

B0B, No. 10, International Magazine of Space Design, pp. 166-171

清々しいこの一軒家にエネルギーへの挑戦が詰まっている

小泉雅生+メジロスタジオ

建築家が考えるこれからの住宅, 東京電力, pp. 32-35(2005年10月号)

file3 心地よい風が流れる家

小泉雅生+メジロスタジオ

SATISPHERE3, INAX, pp. 6(2005年11月号)

戸田市立芦原小学校の設計にあたって

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

スクールアメニティ, No. 236, ポイックス, pp. 34-35(2005年11月号)

コンバージョンデザインの可能性

小泉雅生 首都大学東京

SD, 鹿島出版会, pp. 84-87(2005年12月号)

変わる家族、変わる住宅

小泉雅生

Memo 男の部屋, No. 64, ワールドフォトプレス pp. 48-51(2005年12月)

緩やかに繋がり合う空間

小泉雅生

Nile's NILE, No. 106, ナイルスコミュニケーションズ, pp. 92-93(2005年12月号)

ホンノリベッド

小泉雅生／小泉アトリエ

BankART Life, 第1号, BankART1929, pp. 30-31(2005年12月号)

オガタ

小泉雅生／小泉アトリエ+首都大学東京 4-Met Center

住宅特集, 第238号, 新建築社, pp. 114-120(2006年1月号)

アシタノイエ

小泉雅生

住宅特集, 第239号, 新建築社, pp. 120-121(2006年3月号)

透過性を保持した既存木造戸建て住宅の開口部補強に関する研究

高橋壮太郎, 藤田香織, 小泉雅生

2005年度大会学術講演梗概集 C-1 構造Ⅲ, 日本建築学会, pp. 409-410(2005年9月)

ペンションを住宅に改築するプロジェクト

西田司 深尾精一 小泉研究室 首都大学東京 21世紀 COE プロジェクトチーム

日経アーキテクチュア, 816号, 日経BP社, pp. 40-45 (2006年2月27日)

家の中を草むらで間仕切り「下北沢の改修」

西田司

日経アーキテクチュア, 816号, 日経BP社, pp. 50-51 (2006年2月27日)

この家具を置きたい空間「辻堂の家」

西田司

ARCH & DÉCOR, 3号, えい出版, pp 62-63(2005年4月10日)

敷地11坪に建つ8坪の家「斜め壁の家」

西田司

デザイン電化住宅, エイムック1029号, えい出版, pp 52-55(2005年6月)

アンダー29 CREATOR

西田司

エラ, 972号, 朝日新聞社, pp 84-85(2006年2月6日)

ロジホン

西田司 首都大学東京21世紀COE路地再生研究チーム

Paper編集室, 全64pp(2005年7月)

あなたは北仲を知っていますか

西田司

TITLE, 第6巻10号, 文芸春秋社, pp 46-47(2005年10月)

9坪ハウスに込められたプレミアムコンパクトという哲学

西田司

TITLE, 第6巻10号, 文芸春秋社, pp 94-95(2005年10月)

新世代建築家の技あり住宅「カレイドスコープハウス」

西田司

TITLE, 第6巻10号, 文芸春秋社, pp 61-62(2005年10月)

建築家の自邸「西田邸」

西田司

建築家の自邸2, エイムック1082, えい出版, pp 116-119(2005年10月10日)

新刊紹介「ロジホン」

西田司 首都大学東京21世紀COE路地再生研究チーム編

住宅特集, 第234号, 新建築社, pp 13(2005年10月)

LOW COST & HIGH QUALITY 「カレイドスコープハウス」

西田司

DESIGN LIVING, エイムック1162号, えい出版, pp 56-59(2005年4月)

WHAT'S UP 「ロジホン」

西田司 首都大学東京 21 世紀 COE 路地再生研究チーム編

LIRUX, 102 号, マガジンハウス, pp 133(2005 年 8 月)

MIX & MASH INFOTAMENT 「ロジホン」

西田司 首都大学東京 21 世紀 COE 路地再生研究チーム編,

BRUTUS, 576 号, マガジンハウス, pp 162(2005 年 8 月)

たっぷり陽射しを楽しむ家「パイナップルハウス」

西田司

月刊ハウジング, 第 234 号, リクルート, pp 6-7(2005 年 4 月)

建築家 9 人休日のデザイン「葉山の別荘」

西田司

ほしいリゾート, 第 20 号, リクルート, pp 12-13(2005 年 9 月)

路地テーマにまちづくり冊子「ロジホン」

西田司 首都大学東京 21 世紀 COE 路地再生研究チーム編,

日本経済新聞, 第 43003 号, 日本経済新聞社, pp 37(2005 年 9 月 27 日)

神田の未利用地「地域交流企画」

西田司 首都大学東京 21 世紀 COE くうち活用研究チーム,

日本経済新聞, 第 42998 号, 日本経済新聞社, pp 39(2005 年 9 月 22 日)

ビルの谷間に にぎわいの場

西田司 首都大学東京 21 世紀 COE くうち活用研究チーム,

産経新聞, 22594 号, 産業経済新聞東京本社, pp 27(2005 年 10 月 8 日)

第 50 回神奈川建築コンクール優秀作品紹介「カレイドスコープハウス」

西田司

建設通信新聞, 第 15485 号, 日刊建設通信新聞社, pp 6(2005 年 10 月 28 日)

未利用地のリニューアルで町を更新「雑居ビル階段室サロン」

西田司

建設通信新聞, 第 15498 号, 日刊建設通信新聞社, pp 5(2005 年 11 月 17 日)

住宅に高い評価（神奈川建築コンクール）「カレイドスコープハウス」

西田司

神奈川新聞, 22758 号, 神奈川新聞社, pp 12(2005 年 10 月 27 日)

<建築生産・材料>

既存集合住宅の高齢者向け改修技術の開発研究（その2）

松村秀一（東京大学）、深尾精一、他6名

日本建築学会技術報告集、第21号、pp. 235-238 (2005年6月)

集合住宅における戸別改修工事の構工法計画に関する研究－内装の全面更新工事と部分更新工事の比較－

荒平剛史（アール・アイ・エー）、門脇耕三、深尾精一

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1分冊（選抜梗概）、pp. 65-68 (2005年9月)

公共賃貸集合住宅における居住者の改善・改修ニーズに関する調査研究－事業者主導型の改修と自己責任型の改修の相違－

今井茜、深尾精一、藤本秀一（建築研究所）、松本真澄、門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-2分冊、pp. 227-228 (2005年9月)

工業化戸建住宅の外観変化に着目した増改築の実態調査－1970年代に建設された工業化戸建住宅の増改築に関する研究 その1－

草野祥子、深尾精一、門脇耕三、斎藤茂樹

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-2分冊、pp. 307-308 (2005年9月)

工業化戸建住宅の増改築に関する居住者アンケート調査－1970年代に建設された工業化戸建住宅の増改築に関する研究 その2－

斎藤茂樹、草野祥子、深尾精一、門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-2分冊、pp. 309-310 (2005年9月)

外断熱構法の分類と実施実績－集合住宅における外断熱構法の製品化の実態と課題 その1－

西川謙一、張宇（シーアイアイ）、深尾精一、門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1分冊、pp. 747-748 (2005年9月)

外断熱構法別に見た納まりの特徴と課題－集合住宅における外断熱構法の製品化の実態と課題 その2－

張宇（シーアイアイ）、西川謙一、深尾精一、門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1分冊、pp. 749-750 (2005年9月)

外装材の構法に着目した外壁改修に関する調査研究－建替えとの比較による外壁改修の傾向の分析－

許光範、深尾精一、門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1分冊、pp. 825-826 (2005年9月)

Actual Conditions of Elevators Addition to the Aged Public Housing in Japan and a Proposal of an Alternative Method

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo “Action for Sustainability (SB05)” (CD-ROM), 6 pp., Tokyo, Japan (Sep. 2006)

超高層住宅と中高層住宅における住戸の建築特性の比較分析

門脇耕三, 深尾精一

日本建築学会計画系論文集, 第 601 号, pp. 73-80 (2006 年 3 月)

Regeneration of Public Residential Buildings for Rent in Japan

Kozo KADOKAWA, Seiichi FUKAO and Tsuyoshi ARAHIRA (RIA)

Open House International (CIB Encouraged Journal), Vol. 30, No. 2, pp. 49-58 (Jun. 2005)

Factors in the Plumbed Installations Positioning in Multi-unit Residential Buildings

Kozo KADOKAWA and Seiichi FUKAO

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo "Action for Sustainability (SB05)" (CD-ROM), 8 pp., Tokyo, Japan (Sep. 2005)

超高層住宅と中高層住宅における住戸の建築特性の比較分析

門脇耕三, 深尾精一

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 755-756 (2005 年 9 月)

A Study on The Recovery of toughness and The Effectiveness of Durability Preservations for The Crack-repaired Concrete,

Yoshinori KITUTAKA, Masaki TAMURA, Kenji ARAI,

10th Int. National Conf. on Durability of Building Material & Components, Lyon 10dbmc, CD-ROM (April 2005)

Visual Evaluation of Building Stone Finishing on the View Point of Aging

Effect,

Jun TSUCHIYA, Yoshinori KITSUTAKA and Masaki TAMURA,

10DBMC International Conference On Durability of Building Materials and Components, Lyon 10dbmc, CD-ROM (April 2005)

Durability on The Fracture Parameters of Crack-repaired High Performance Fiber Reinforced Cementitious Composites,

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA,

RILEM International Workshop on High Performance Fiber Reinforced Cementitious Composites, Hawaii HPFRCC (May 2005)

中空プレストレスコンクリート板の緑化パネルへの応用に関する研究,

寺東由美子, 橘高義典, 田村雅紀,

第 59 回セメント技術大会学術講演集, pp. 242-243 (2005 年 5 月)

多摩ニュータウン地域集合住宅の外装材料の色彩特性に関する実態調査,

橘高義典, 田村雅紀, 佐藤昭夫, 松山祐子, 土屋潤,

日本建築学会技術報告集第 21 号, pp. 45-49 (2005 年 6 月)

暖地型公共集合住宅の外観美観の改善手法,

橋高義典, 松山祐子, 田村雅紀, 土屋潤, 岡部由梨子, 佐藤昭夫,

東京都立大学 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 16 年度研究成果報告書, pp. 20-21 (2005 年 6 月)

景観材料のエイジング評価に及ぼす色彩特性の影響に関する研究, その 3 れんが風仕上建築物の色彩特性がエイジング評価に及ぼす影響,

松山祐子, 橋高義典,

日本建築学会構造系論文集, NO. 593, pp. 31-35 (2005 年 7 月)

建築石材仕上げの視覚的評価に及ぼす表面性状の影響に関する研究, その 3. 傾斜角度が視覚的評価に及ぼす影響,

土屋潤, 橋高義典, 田村雅紀,

日本建築学会構造系論文集, 第 593 号, pp. 37-41 (2005 年 7 月)

建築群の維持保全における多様性の時間空間的調和ー新たな建築維持保全手法の構築ー,

橋高義典,

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 31-32 (2005 年 9 月)

街路景観を形成する建物外壁面構成要素の色彩的修景操作とその印象評価,

花ヶ崎恵美加, 橋高 義典, 田村 雅紀, 土屋 潤,

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 897-898 (2005 年 9 月)

建築外装構成要素の幾何学特性がパターン知覚の印象評価に与える影響, 一ランバス状パターンの外装材に関する検討ー,

細谷 基之, 橋高 義典, 田村 雅紀,

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 899-900 (2005 年 9 月)

屋根葺き材料の色彩特性が集合住宅の印象評価に及ぼす影響,

岡部 由梨子, 橋高 義典, 田村 雅紀,

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 901-902 (2005 年 9 月)

景観材料の素材感に及ぼす色彩特性の影響に関する研究, その 4. れんが風仕上実物パネルの色彩特性がエイジング評価に及ぼす影響,

松山 祐子, 橋高 義典,

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 903-904 (2005 年 9 月)

建築内装仕上材料による室内空気汚染物質の低減効果に関する研究,

車園子, 橋高 義典, 田村 雅紀,

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 933-934 (2005 年 9 月)

花崗岩の印象と表面性状の影響に関する研究,

土屋潤, 橋高義典, 田村雅紀,

日本建築仕上学会 2005 年度大会学術講演会研究発表論文集, pp. 171-174 (2005 年 10 月)

街路景観を形成する建物外壁面構成要素の色彩的修景操作とその印象評価,
花ヶ崎恵美加, 橋高義典, 田村雅紀, 土屋潤,
日本建築学会技術報告集, 第 22 号, pp. 59–63 (2005 年 12 月)

勾配屋根型集合住宅の屋根葺き材料の色彩特性が外観評価に及ぼす影響,
岡部由梨子, 橋高義典, 田村雅紀, 松山祐子,
日本建築学会技術報告集, 第 22 号, pp. 65–69 (2005 年 12 月)

建築外装構成要素の幾何学特性がパターン知覚の印象評価に与える影響, ランバス状パターンの外
装材に関する検討一,
細谷 基之, 橋高 義典, 田村 雅紀,
日本建築学会構造系論文集, 第 601 号, pp. 37–42 (2006 年 3 月)

コンクリートの文化性委員会報告書,
橋高義典, 田村雅紀ほか,
コンクリート工学協会 (2006 年 3 月)

Environmental Aspects of Concrete Structures in Sustainable Society
Masaki TAMURA, Takafumi NOGUCHI, Fumonori TOMOSAWA
10th Int. National Conf. on Durability of Building Material & Components, Lyon 10dbmc, CD-ROM
(April 2005)

各種コンクリートのひび割れ補修による韌性回復とその耐久性維持効果に関する研究
田村雅紀, 橋高義典, 新井健志, 松沢晃一
日本建築学会構造系論文集, 第 591 号, pp. 19–24 (2005 年 5 月)

団地型集合住宅の構造体健全度評価
田村雅紀, 橋高義典, 新井健志
東京都立大学 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 16 年度研究成果
報告書, pp. 22–23 (2005 年 6 月)

文献抄録—コンクリート構造物の環境設計
田村雅紀
fib State-of-Art Report bulletin 28 Environmental Design—, 建築雑誌, Vol. 120, No. 1533, p. 66
(2005 年 5 月)

樹脂型枠を使用したコンクリート面の仕上がり性状に関する研究 (その 3 コンクリートの表面性状)
田村雅紀, 近藤照夫, 小笠原和博, 飯嶋守
第 59 回セメント技術大会学術講演集, pp. 262–263 (2005 年 5 月)

低・中品質再生粗骨材の改質処理による構造体への適用に関する研究 (その 1 再生粗骨材の改質処
理効果)
田村雅紀, 辻埜真人, 兼松学, 野口貴文

第 59 回セメント技術大会学術講演集, pp. 314-315 (2005 年 5 月)

セメント回収型完全リサイクルコンクリートの完全リサイクル住宅(SPRH)への実施工検討

田村雅紀, 野口貴文, 友澤史紀

日本建築学会技術報告集第 21 号, pp. 27-32 (2005 年 6 月)

コンクリート構造物における環境側面と社会ニーズ抽出手法に関する一考察

田村雅紀, 野口貴文, 友澤史紀

コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 27, No. 1, pp. 1501-1506 (2005 年 7 月)

文献抄録—建築外装仕上材料のエイジング評価に及ぼす色彩特性の影響に関する研究

田村雅紀

建築雑誌, Vol. 120. No. 1536, pp. 118-119 (2005 年 8 月)

低・中品質再生粗骨材の表面改質処理による構造体への適用に関する研究, その 1 再生粗骨材の表面改質処理効果

田村雅紀, 辻埜真人, 福山智子, 丸山一平, 兼松学, 野口貴文

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 165-166 (2005 年 9 月)

Environmental Aspects Conscious Design Strategy for Concrete Structures

Masaki TAMURA, Takafumi NOGUCHI

CANMET/ACI Int. Symp. on Sustainable Development of Cem., Con and Con. Structures (Oct. 2005)

プレファブリケーションに関わる環境問題

田村雅紀

コンクリート工学, Vo. 43. No. 11, pp. 56-63 (2005 年 11 月)

「コンクリート用再生骨材の普及促進に関するシンポジウム」の概況

田村雅紀, 野口貴文

コンクリート工学, Vo. 57-61. Vol. 43, No. 12, pp. 56-63 (2005 年 12 月)

特集初夢, なお日本で造らねばならない建築—「大地」と「人」の関係に根ざした建築生涯計画—

田村雅紀

建築雑誌, Vol. 121. No. 1541, pp. 40-41 (2006 年 1 月)

文献抄録—プレファブリケーションに関する環境問題

田村雅紀

fib State-of-Art Report bulletin 21 Environmental issues in Prefabrication—, 建築雑誌, Vol. 121. No. 1542, p. 66 (2006 年 2 月)

外壁全面修繕工法の調査検討業務報告書

田村雅紀(共著)

都市再生機構, ベターリビング (2005 年 4 月)

化学物質安全確保・国際規制対策推進等成果報告書

田村雅紀（共著）

平成16年度 経済産業省委託研究報告書（2005年4月）

コンクリートの補修・改修マニュアル

田村雅紀（共著）

産業調査会（2005年12月）

コンクリート構造物の設計・施工等における環境負荷低減技術の開発と一般化研究委員会報告書

田村雅紀（共著）

コンクリート工学協会（2006年3月）

Development and Performance Evaluation of the Mobile Crack Measuring Instrument by optical Method

Teruo KONDO, Masaki TAMURA, Takumi IBARA, Takuya HASEGAWA

10th Int. National Conf. on Durability of Building Material & Components, Lyon 10dbmc, CD-ROM
(April 2005)

樹脂型枠調査研究委員会報告書

上村克郎, 近藤照夫, 田村雅紀他

日本建築仕上学会学術委員会報告書（2005年4月）

解体コンクリートの次世代再生化技術の開発研究報告書

野口貴文, 田村雅紀, 兼松学, 丸山一平

平成16年度環境省廃棄物科学的研究費報告書（2005年5月）

表面改質処理骨材及び骨材回収型再生コンクリート製造・品質管理マニュアル(案)

野口貴文, 田村雅紀, 兼松学, 丸山一平

環境省廃棄物科学的研究費報告書（2005年5月）

樹脂型枠を使用したコンクリート面の仕上がり性状に関する研究（その1 全体計画）

近藤照夫, 田村雅紀, 高木宣一, 細野俊彦

第59回セメント技術大会学術講演集 pp. 258-259 (2005年5月)

樹脂型枠を使用したコンクリート面の仕上がり性状に関する研究（その2 軸体材料）

今本啓一, 田村雅紀, 近藤照夫

第59回セメント技術大会学術講演集, pp. 260-261 (2005年5月)

樹脂型枠を使用したコンクリート面の仕上がり性状に関する研究（その4 モルタルの付着性状）

下屋敷朋千, 藤本効, 田村雅紀, 近藤照夫

第59回セメント技術大会学術講演集, pp. 264-265 (2005年5月)

低・中品質再生粗骨材の改質処理による構造体への適用に関する研究（その2 力学特性および剥離

効果)

辻埜真人, 田村雅紀, 丸山一平, 野口貴文

第 59 回セメント技術大会学術講演集, pp. 316–317 (2005 年 5 月)

低品質再生骨材の改質処理による構造体への適用に関する研究

辻埜真人, 田村雅紀, 兼松学, 野口貴文

コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 27, No. 1, pp. 1321–1326 (2005 年 7 月)

EU 諸国の解体事情

清家剛, 角田誠, 小山明男, 田村雅紀

解体研究会ミニシンポジウム 講演会資料 (2005 年 7 月)

Revision of Proposal to Promote Sustainable Buildings

Yuichi TAKEMASA, Tomonari YASHIRO, Ryuzo OOKA, Akira MITA, Masaki TAMURA, Noriyoshi YOKOO, Kiyoshi MIISHO

The 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, CD-ROM (Sep. 2005)

低・中品質再生粗骨材の表面改質処理による構造体への適用に関する研究, その 2 硬化特性

福山智子, 辻埜真人, 田村雅紀, 丸山一平, 兼松学, 野口貴文

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 167–168 (2005 年 9 月)

低・中品質再生粗骨材の表面改質処理による構造体への適用に関する研究, その 3 RC 梁曲げ特性

辻埜真人, 福山智子, 田村雅紀, 丸山一平, 兼松学, 野口貴文

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 169–170 (2005 年 9 月)

機械型枠で打設したコンクリート表面に対するモルタル塗り適正の評価

近藤照夫, 田村雅紀, 今本啓一, 藤本効, 下屋敷朋千

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 255–256 (2005 年 9 月)

建築用発砲系断熱材の回収処理に関する研究 (その 1) 断熱材の回収処理の現状とフロン処理を前提としたルートの検討

小見康夫, 野城智也, 清家剛, 田村雅紀

日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿), 計画系, p1439–1440 (2005 年 11 月)

学校建築におけるコンバージョンの設計手法に関する調査研究 東京 23 区内の公立小中学校を対象として

岡村卓麻, 角田誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, 選抜梗概, pp. 49–52, 2005 年 9 月

集合住宅の改修工事に伴う解体に関する調査研究

鈴木香菜子 (東京大学), 清家剛 (東京大学), 角田誠 ほか

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 797–798, 2005 年 9 月

鋼構造建築におけるリユースシステムモデルの検討 鋼構造建築リユースシステムの構築に関する研

究 その 2

名取発 (東京大学), 角田誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 799–800, 2005 年 9 月

移設を想定した建築物における構成部材のリユースに関する調査研究

稻川明子, 角田誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 801–802, 2005 年 9 月

流通面からみた建築構成材のリユースシステムに関する研究

七戸俊介 (東京大学), 清家剛 (東京大学), 角田誠 ほか

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 803–804, 2005 年 9 月

空室状況に基づいたコンバージョンによるストック活用の有効性 東京神田地区のオフィスビルを対象としたケーススタディ

坂本深大, 角田誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 813–814, 2005 年 9 月

都市・地域の循環性を支える資源循環型産業

角田誠

日本学術会議建築学研究連絡委員会報告「設計科学としての建築・都市」, pp.122–123, 2005 年 4 月

Planning and design methods for partial conversion of public school in Tokyo 23wards

Makoto TSUNODA, Takuma OKAMURA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No. 10-017, pp. 2892–2897, 2005. 9

A study on the reuse system of building components from the viewpoint of demountability and removability – Investigation into the steel structure

Akira NATORI (University of Tokyo), Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No. 10-027, pp. 2964–2969, 2005. 9

Case studies on adaptable buildings by renovating "Tetsu-Chin" apartment houses in Japan

Yasuo OMI (Musashi Institute of Technology), Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No. 10-011, pp. 2849–2854, 2005. 9

A method of rearrangement planning of community facilities utilizing existing public buildings in matured suburban residential areas: A case study in Tama city

Tohru YOSHIKAWA, Miki ARIMOTO, Kenji TAKEMIYA, Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No. 13-028, pp. 3664–3671, 2005. 9

<建築構造>

最大塑性率および累積塑性率に基づく構造物の必要耐力～地震動の継続時間が及ぼす影響～

角田 高紀, 西川 孝夫, 山村 一繁

日本建築学会関東支部研究報告集, I, pp. 221-224 (2005年3月)

常時微動計測に基づく軟弱地盤上の中低層建物の振動特性

藤井 博史, 西川 孝夫, 山村 一繁, 田子 茂(堀江建築工学研究所), 高橋 愛(堀江建築工学研究所)

日本建築学会関東支部研究報告集, I, pp. 225-228 (2005年3月)

常時微動測定に基づく軟弱地盤上の中低層建築物の振動特性評価

山村 一繁, 西川 孝夫, 藤井 博史

構造工学論文集, Vol. 51B, pp. 159-166 (2005年4月)

K-NET データを用いた地震動評価指標の空間分布

山村 一繁

日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 B-2, pp. 155-156, (2005年9月)

強震記録に基づく構造物の最大変形と累積変形の関係 地震動の周期特性および時刻歴特性による影響

角田 高紀, 山村 一繁, 西川 孝夫

日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 B-2, pp. 287-288, (2005年9月)

軟弱地盤上の中低層建物の振動特性

藤井 博史, 山村 一繁, 田子 茂, 高橋 愛, 西川 孝夫

日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 B-2, pp. 481-482, (2005年9月)

流体式制振装置の開発と適用

石川 理都子, 吉田 治, 関 松太郎, 西川 孝夫

日本建築学会技術報告集, 第 22 号, pp. 151-156 (2005年12月)

事務室用積載荷重の荷重効果の確率・統計的分析

山村 一繁

構造工学論文集, Vol. 52B, pp. 139-144 (2006年3月)

流体式制御装置を設置した高層建物の地震観測とシミュレーション解析

石川 理都子, 吉田 治, 西川 孝夫

構造工学論文集, Vol. 52B, pp. 249-254 (2006年3月)

破壊曲面縮小の概念に基づくせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の鉛直変形評価に関する研究

芳村 学, 高稻宜和

日本建築学会構造系論文集, 第 592 号, pp. 167-175 (2005年6月)

せん断破壊型 RC 柱の崩壊に関する直交壁の影響

金 紅日, 芳村 学, 中村孝也

コンクリート工学年次論文報告集, 第 27 卷, 第 2 号, pp. 193-198 (2005 年 6 月)

ピロティ階にせん断破壊型耐震壁を有する建物の地震応答変形に関する研究

近森俊宏 (鹿島建設), 芳村学, 保木和明

コンクリート工学年次論文報告集, 第 27 卷, 第 2 号, pp. 991-996 (2005 年 6 月)

余震を考慮した鉄筋コンクリート建物の I_s 値と倒壊の関係

中村孝也, 芳村 学, 上野裕美子

コンクリート工学年次論文報告集, 第 27 卷, 第 2 号, pp. 1009-1014 (2005 年 6 月)

せん断破壊型鉄筋コンクリート柱の鉛直変形挙動に関する研究 (その 1 実験結果の概要と考察)

高稻宜和, 芳村 学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 133-134 (2005 年 9 月)

せん断破壊型鉄筋コンクリート柱の鉛直変形挙動に関する研究 (その 2 鉛直変形挙動の評価)

芳村 学, 高稻宜和

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 135-136 (2005 年 9 月)

直交壁がせん断破壊型 RC 柱の崩壊に与える影響 (その 1 実験概要, 破壊状況)

中村孝也, 金 紅日, 芳村 学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 223-224 (2005 年 9 月)

直交壁がせん断破壊型 RC 柱の崩壊に与える影響 (その 2 最大強度, 崩壊変形, 軸力移動)

金 紅日, 中村孝也, 芳村 学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 225-226 (2005 年 9 月)

せん断破壊型耐震壁を有するピロティ建物の地震応答変形

近森俊宏 (鹿島建設), 芳村 学, 保木和明

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 707-708 (2005 年 9 月)

荷重低下域における柱の挙動を考慮した被災 RC 造建物の骨組解析 三陸はるか沖地震における八戸東

高校の検討 (その 1 解析概要)

保木和明, 土肥うらら(エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ), 芳村 学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 709-710 (2005 年 9 月)

荷重低下域における柱の挙動を考慮した被災 RC 造建物の骨組解析 三陸はるか沖地震における八戸東

高校の検討 (その 2 解析結果)

保木和明, 土肥うらら(エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ), 芳村 学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 711-712 (2005 年 9 月)

診断基準における「せん断柱」からなる建物の I_s 値と実際の耐震性能の関係

上野裕美子, 芳村 学, 中村孝也

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 713-714 (2005 年 9 月)

旧基準により設計された鉄筋コンクリート構造の崩壊挙動と耐震性能

芳村 学

コンクリート工学, 第 43 卷, 第 10 号, pp. 18–25 (2005 年 10 月)

応答制御用付加柱を組み込んだ既存ピロティ建築物の部分仮動的実験

岩渕一徳(熊谷組), 福山 洋(建築研究所), 諏訪田晴彦(建築研究所), 芳村 学

日本建築学会構造系論文集, 第 596 号, pp. 79–86 (2005 年 10 月)

荷重低下域における柱の挙動を考慮した被災 RC 造建物の非線形骨組解析 –三陸はるか沖地震における八戸東高校の検討–

芳村 学, 土肥うらら(エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ), 保木和明, 北山和宏

日本建築学会構造系論文集, 第 597 号, pp. 109–117 (2005 年 11 月)

鉄筋コンクリート柱の破壊モードの評価に関する一考察

高稻宜和, 芳村 学

日本建築学会構造系論文集, 第 600 号, pp. 139–146 (2006 年 2 月)

二次壁が付く鉄筋コンクリート柱の崩壊挙動に関する研究

金 紅日, 芳村 学, 李霓

2005 年度日本建築学会関東支部研究報告集, pp. 177–180 (2006 年 3 月)

完全崩壊に至る鋼柱の座屈後挙動

見波 進, 山崎 真司, 今村 悠大(新日軽)

鋼構造年次論文報告集, 第 13 卷, 日本鋼構造協会, pp. 267–272 (2005 年 11 月)

二軸曲げを受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動

外山 圭佑, 山崎 真司, 見波 進, 須藤 亘平(東大院)

鋼構造年次論文報告集, 第 13 卷, 日本鋼構造協会, pp. 261–266 (2005 年 11 月)

連結制振構造の揺れ応答に関する実験的研究

田原 健一, 山崎 真司, 見波 進, 柳沼 大樹

鋼構造年次論文報告集, 第 13 卷, 日本鋼構造協会, pp. 373–380 (2005 年 11 月)

連結制振構造に関する研究 その 5 入力地震動の影響

田原 健一, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, 日本建築学会, pp. 1009–1010 (2005 年 9 月)

連結制振構造の揺れ応答性状に関する実験的研究

柳沼 大樹, 山崎 真司, 見波 進, 田原 健一

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, 日本建築学会, pp. 1011–1012 (2005 年 9 月)

完全崩壊する鋼柱の座屈後挙動

見波 進, 山崎 真司, 今村 悠大

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 719-720 (2005 年 9 月)

任意方向の水平力を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する実験的研究 その 1 実験方法および
一方向載荷実験結果

須藤 亘平, 山崎 真司, 見波 進, 外山 圭佑

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 725-726, 2005 年 9 月

任意方向の水平力を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する実験的研究 その 2 繰返し載荷実験
結果および考察

外山 圭佑, 山崎 真司, 見波 進, 須藤 亘平

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 727-728 (2005 年 9 月)

骨組の座屈と柱の曲げ座屈長さ

山崎 真司

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 893-894 (2005 年 9 月)

鋼構造多層骨組のエネルギー応答性状

今村 悠大, 山崎 真司

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 935-936 (2005 年 9 月)

H 形断面鋼柱の塑性二軸曲げ実験 (その 1) 単調載荷

高濱 亮太, 外山 圭佑, 山崎 真司, 見波 進

第 76 回日本建築学会関東支部 2005 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 161-164 (2006 年 3 月)

H 形断面鋼柱の塑性二軸曲げ実験 (その 2) 繰返し載荷

外山 圭佑, 山崎 真司, 見波 進, 高濱 亮太

第 76 回日本建築学会関東支部 2005 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 165-168 (2006 年 3 月)

制振手法による既存構造物の耐震性向上 -連結制振構造の振れ応答性状-

山崎 真司, 見波 進, 田原 健一

東京都立大学 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 16 年度成
果報告会, pp. 42-43 (2005 年 4 月)

超高層建築の耐震性に及ぼす P-△ 効果の影響

山崎 真司

巨大地震に予測される長周期地震動とその耐震問題, 日本建築学会大会・特別調査部門・研究協議会
資料, pp. 87-92 (2005 年 9 月)

超高層建築のエネルギー応答性状と P-△ 効果

山崎 真司, 見波 進

海溝型巨大地震を考える-広帯域強震動の予測 2-シンポジウム論文集, 土木学会・日本建築学会巨大
地震災害対応共同連絡会地震部会, pp. 119-127 (2006 年 2 月)

わかりやすい鉄骨の構造設計

山崎 真司（共著）

(社)日本鋼構造協会編、技法堂出版（2005年3月）

建築鉄骨における溶接接合部の品質性能管理手法

見波 進（共著）

(社)溶接学会建築鉄骨溶接特別研究委員会（2005年12月）

鋼構造柱梁接合部の破壊に対する最新の評価法

見波 進（共著）

日本建築学会、pp. 103-111, pp. 138-141 (2005年11月)

SEISMIC BEHAVIOR OF R/C FRAME STRENGTHENED BY MULTI-STORY STEEL BRACE

Kazuhiro Kitayama

Proceedings of the International Symposium on Earthquake Engineering Commemorating Tenth Anniversary of the 1995 Kobe Earthquake, Volume 2, pp. C174-C183 (2005, January 13-16)

第6章 PC柱梁接合部の構造性能評価

北山和宏、永井覚（鹿島）、浜原正行（日本大学）、岸田慎司（芝浦工業大学）

シンポジウム「プレストレスト（鉄筋）コンクリート部材の終局性能評価手法 一考え方の基礎から最前線まで一」資料、日本建築学会構造委員会PC部材終局性能・設計法小委員会、pp. 105-126 (2005年1月)

圧着接合されたプレストレスト・コンクリート造立体柱梁接合部の地震時挙動

舛田尚之、北山和宏、岸田慎司

コンクリート工学年次論文集、Vol. 27, pp. 397-402 (2005年6月)

梁主筋付着性状を変化させたRC立体柱・梁接合部のせん断性状に関する研究

岸田慎司、森山健作、北山和宏、西川孝夫

コンクリート工学年次論文集、Vol. 27, pp. 385-390 (2005年6月)

解説：PC柱梁接合部の構造性能評価

北山和宏、永井覚（鹿島）

プレストレスト・コンクリート、Vol. 47, No. 4, pp. 44-48 (2005, Jul. -Aug.,)

圧着接合されたPCaPC造の立体柱梁接合部の耐震性能に関する研究（その1～その3）

北山和宏、田島祐之、舛田尚之、岸田慎司

日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2構造IV, pp. 313-318 (2005年9月)

連層鉄骨ブレースで補強されたRC建物の非線形地震応答解析

佐藤照祥、北山和宏、李康寧(CANNYコンサルタント)

日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2構造IV, pp. 493-494 (2005年9月)

圧着接合されたプレストレスト・コンクリート柱梁接合部の損傷評価

岸田慎司、北山和宏

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 構造 IV, pp. 759-760 (2005 年 9 月)

主筋付着性能を向上させた RC 造内柱・梁接合部のせん断性状に関する有限要素解析

森田真司, 北山和宏

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 構造 IV, pp. 307-308 (2005 年 9 月)

荷重低下域における柱の挙動を考慮した被災 RC 造建物の非線形骨組解析 一三陸はるか沖地震における八戸東高校の検討一

芳村学, 土肥うらら, 保木和明, 北山和宏

日本建築学会構造系論文集, 第 597 号, pp. 109-117 (2005 年 11 月)

木造重要文化財建造物の耐震補強における意思決定プロセスに関する研究-構造設計者の役割を中心として-

角陸順香, 清家 剛, 藤田香織, 宇野繕晴

日本建築学会計画系論文集 NO. 590 P. 65-70 2005 年 4 月

五重塔を揺らす 2004 報告

河合直人・藤田香織・千葉一樹

月刊消防 309 号, pp. 67-70, 2005 年 5 月

ベトナム北部木造民家の実大構面の静的加力実験

山口亜由美, 藤田香織, 山田幸正, チャン・ティクエハ, 坂本 功

日本建築学会技術報告集, 第 21 号 P. 105-109 2005 年 6 月

柔剛論争再び

藤田香織

月刊不動産流通 280 号, pp. 8-9, 2005 年 9 月

ほど差込み栓の強度特性とその破壊性状に関する実験研究 その 3 耐力評価の検討

渋谷泉・松留慎一郎・前川秀幸・藤田香織

2005 年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, p. 305-306 (2005 年 9 月)

透過性を保持した既存木造戸建住宅の開口部補強に関する研究

高橋壮太郎・藤田香織・小泉雅生

2005 年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, p. 409-410 (2005 年 9 月)

伝統的木造建築の構造性能と木割の相関に関する研究 その 1 書院等の国宝建造物の考察

長岡洋樹・藤田香織

2005 年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, p. 449-450 (2005 年 9 月)

山口県の伝統的木造住宅の実大水平加力実験 その 2 大変形加力

佐藤弘美・松田昌洋・出水文二・藤田香織・中園真人・坂本功

2005 年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, p. 477-478 (2005 年 9 月)

五重塔の耐震性に関する縮小模型実験 その1 概要

箕輪親宏・藤田香織・千葉一樹・河合直人・藤田聰・坂本功

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 481-482 (2005年9月)

五重塔の耐震性に関する縮小模型実験 その3 大加振実験結果

千葉一樹・腰原幹雄・古屋治・青木謙治・河合直人・藤田香織

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 485-486 (2005年9月)

伝統的木造五重塔の振動特性に関する研究 その4 2004年9月5日東海道沖の地震観測結果

藤田香織・花里利一・坂本功

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 487-488 (2005年9月)

伝統的木造五重塔の振動特性に関する研究 その5 観測記録に基づく津観音五重塔の地震応答解析

花里利一・藤田香織・千葉一樹・坂本功

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 489-490 (2005年9月)

韓国の伝統木造建築の振動特性 その1 民家、寺院建築の常時微動測定

津和佑子・金恵園・藤田香織・腰原幹雄・坂本功・李元虎

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 495-496 (2005年9月)

韓国の伝統木造建築の振動特性 その2 門及び木造建物の測定結果

金恵園・津和佑子・藤田香織・腰原幹雄・坂本功・李元虎

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 497-498 (2005年9月)

ベトナム北部木造民家の実大構面に対する静的加力実験 その1. 概要と鉛直加力実験

金山裕哉・山口亜由美・藤田香織・腰原幹雄・山田幸正・坂本功

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 499-500 (2005年9月)

ベトナム北部木造民家の実大構面に対する静的加力実験 その2. 水平加力実験の結果および接合部実験

山口亜由美・金山裕哉・藤田香織・腰原幹雄・山田幸正・坂本功

2005年日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1分冊, p. 501-502 (2005年9月)

木造接合部におけるほど差込み栓の耐力評価法に関する実験研究

渋谷泉, 松留慎一郎, 前川秀幸, 藤田香織

日本建築学会構造系論文集 NO. 601 P. 99-104 2006年3月

Kaori FUJITA, Toshikazu HANAZATO and Isao SAKAMOTO

Earthquake Response Monitoring of Traditional Japanese Timber Pagoda

Third International Conference on Urban Earthquake Engineering, 東京工業大学都市地震工学センター(CUEE), pp. 460-467, 2006年3月

<建築環境>

都市屋外および半屋外空間における短波長分光放射環境の実測

一ノ瀬雅之, 石野久彌, 他

日本建築学会環境系論文集, No. 592, pp. 9–14 (2005 年 6 月)

体感温度, 基礎からわかるクールビズ「省エネ」ファッショニ

石野久彌

読売新聞朝刊 (2005 年 7 月 3 日)

Proposal of Seven-day Design Weather Data for HVAC Peak Load Calculation

Hisaya ISHINO

Ninth International IBPSA Conference, Montreal, Canada, pp. 451–458, August 15–18, 2005

Examination on Expanded AMeDAS Design Weather Data for HVAC System

Hisaya ISHINO, et al.

Journal of Asian Architecture and Building Engineering, Vol. 4 no. 2, pp. 541–548, November, 2005

暖房設計用 $t - x$ 基準, $t - Jh$ 基準気象データの提案

郡公子, 石野久彌

日本建築学会環境系論文集, No. 596, pp. 83–88, (2005 年 10 月)

冷房設計用日射基準気象データの作成法の検討 2 種の気象指標を用いる空調設計用気象データの作成法に関する研究 第 3 報

郡公子, 石野久彌

日本建築学会環境系論文集, No. 596, pp. 89–94 (2005 年 10 月)

まとめ, 建築設備の評価の視点,

石野久彌

第 1 回建築設備シンポジウム, 主催 : 日本建築学会環境工学委員会建築設備運営委員会, p. 43 (2005 年 10 月 18 日)

熱負荷シミュレーションソフトの現状(平成 17 年技術動向)

石野久彌

空気調和・衛生工学, 第 79 卷, 第 12 号, pp. 43–45 (2005 年 12 月)

家庭でのウォームビズ

石野久彌

朝日新聞 (2005 年 12 月 18 日)

日射の短時間変動と直散分離の予測精度に関する検討, 日射の直散分離に影響を及ぼす気象要素の特性研究 (その 1)

中山哲士, 石野久彌

日本建築学会環境系論文集, No. 599, pp. 47–52 (2006 年 1 月)

冷房設計用 $h - t$ 基準, $J_c - t$ 基準, $J_s - t$ 基準気象データの提案

郡公子, 石野久彌

日本建築学会環境系論文集, No. 599, pp. 89-94 (2006 年 1 月)

建築物のエネルギー・シミュレーションプログラムの現状と今後の展開

石野久彌

第 24 回建築環境・省エネルギーフォーラム, pp. 33-51 (2006 年 2 月)

熱負荷計算のための窓性能値に関する研究

郡公子, 石野久彌

日本建築学会環境系論文集 No. 600, pp. 39-44 (2006 年 2 月)

建築設備の評価の視点について, 鼎談

石野久彌, 川瀬貴晴, 中原信生

建築雑誌, pp. 3-9 (2006 年 3 月号)

建築設備の誕生とその進化, インタビュー

井上宇市, 石野久彌(聞き手)

建築雑誌, pp. 10-13 (2006 年 3 月号)

西南学院中学校・高等学校, SB05Tokyo 記念サステナブル建築・住宅賞受賞作品紹介

石野久彌

IBEC, No. 153, Vol. 26-6, p. 9 (2006 年 3 月)

クールビズに関する本研究室の研究内容紹介

石野久彌, 研究室学生の出演

NHK テレビ「おはよう日本」にて 6:30 と 7:50 から, (2005 年 6 月 1 日)

クールビズに関する研究結果紹介

石野久彌

フジテレビ朝の「特ダネタイムズ」(2005 年 6 月 6 日)

クールビズ研究データ提供

石野久彌

気象キャスター・ネットワーク (TV) (2005 年 6 月 20 日)

クールビズ・ウォームビズに関するインタビュー受ける

石野久彌, 相川梨絵アナウンサーと出演

フジテレビ夜 10 時過ぎ政府広報番組「キク!みる!」(2005 年 11 月 18 日)

ウォームビズをテーマにした 30 分トーク番組出演

石野久彌, キャスター浜尾朱美, コメンテーター梶山寿子

テレビ神奈川第一スタジオにて収録, 放映は局により 12/3~12/5 (2005 年 11 月 29 日)

IBPSA と日本の学会におけるシミュレーション・ツール関連の研究開発状況

内海康雄, 石野久彌

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, OS-6, pp. 137-140 (2005 年 8 月)

日射の短時間変動特性と最大日射の丸め誤差への影響

中山哲士, 石野久彌

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, C-4, pp. 161-164 (2005 年 8 月)

2 種の気象に基づく過酷気象の選定と空調設計用気象データに関する研究 ; 第 6 報 暖房設計用 $t-x$ 基準, $t-Jh$ 基準データの提案

尾形拓志, 郡公子, 石野久彌

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, C-5, pp. 165-168 (2005 年 8 月)

2 種の気象指標に基づく過酷気象の選定と空調設計用気象データに関する研究-第 7 報 冷房設計用 $h-t$ 基準, $Jc-t$ 基準, $Js-t$ 基準データの提案-

師岡淳, 郡公子, 石野久彌

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, C-6, pp. 169-172 (2005 年 8 月)

2 種の気象に基づく過酷気象の選定と空調設計用気象データに関する研究: 第 8 報 各地最大負荷の妥当性の検討

鈴木隆, 郡公子, 石野久彌

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, C-7, pp. 173-176 (2005 年 8 月)

ハイブリッド空調を行う環境共生建築の性能解析 第 1 報 建物運用実績と実測による性能評価・実測概要

水出喜太郎, 石野久彌, 他

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, F-37, pp. 1213-1216 (2005 年 8 月)

ハイブリッド空調を行う環境共生建築の性能解析 第 2 報 運転モードと室内環境・自然換気効果

佐藤豊, 石野久彌, 他

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, F-38, pp. 1217-1220 (2005 年 8 月)

ハイブリッド空調を行う環境共生建築の性能解析 第 3 報 外気処理システムの効果および熱源エネルギー特性

幸田裕美子, 石野久彌, 他

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, F-39, pp. 1221-1224 (2005 年 8 月)

ハイブリッド空調を行う環境共生建築の性能解析 第 4 報 居住者アンケート及びシーリングファンの体感効果

大熊涼子, 石野久彌, 中山哲士, 他

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, F-40, pp. 1225-1228 (2005 年 8 月)

夏期のオフィスにおける着衣の軽装化の効果に関する研究

大熊涼子, 石野久彌, 中山哲士, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41507, pp. 1043–1044 (2005 年 9 月)

2 種の気象指標に基づく空調設計用気象データの作成法に関する研究 第 4 報 設計用気象データの作成法と暖房設計用気象データの検討

師岡淳, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41515, pp. 1059–1060 (2005 年 9 月)

2 種の気象指標に基づく空調設計用気象データの作成法に関する研究 第 5 報 冷房設計用気象データの検討

鈴木隆, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41516, pp. 1061–1062 (2005 年 9 月)

一週間設計用気象データの作成に関する研究

湯原慶子, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41517, pp. 1063–1064 (2005 年 9 月)

放射輝度分布の不規則性と直散分離式の推定精度に関する検討

中山哲士, 石野久彌

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41518, pp. 1065–1066 (2005 年 9 月)

建物外皮周りにおける微気象形成構造の把握に関する研究

石橋一樹, 石野久彌, 中山哲士, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41531, pp. 1091–1092 (2005 年 9)

自然換気・シーリングファン併用ハイブリッド空調オフィスの性能評価 第 1 報 建物運用実績と実測による性能評価

水出喜太郎, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41544 選抜梗概, pp. 1131–1134 (2005 年 9 月)

自然換気・シーリングファン併用ハイブリッド空調オフィスの性能評価 第 2 報 シーリングファンの効果

永田明寛, 石野久彌, 中山哲士, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41545 選抜梗概, pp. 1135–1138 (2005 年 9 月)

自然換気・シーリングファン併用ハイブリッド空調オフィスの性能評価 第 3 報 自然換気の効果

尾形拓志, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41546 選抜梗概, pp. 1139–1142 (2005 年 9 月)

自然換気・シーリングファン併用ハイブリッド空調オフィスの性能評価 第 4 報 内部発熱量と使われ方に関する調査

長井達夫, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41547 選抜梗概, pp. 1143–1146 (2005 年 9 月)

屋上緑化の実測と都市への熱的効果の試算 その1 概要および放射特性

野村明子, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41605, pp. 1261–1262 (2005年9月)

屋上緑化の実測と都市への熱的効果の試算 その2 蒸散特性と年間変動

一ノ瀬雅之, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41606, pp. 1263–1264 (2005年9月)

北方アトリウム建築の環境特性 第1報 建物概要と室温分布特性

佐藤豊, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41622, pp. 1295–1296 (2005年9月)

北方アトリウム建築の環境特性 第2報 放射環境特性

幸田裕美子, 石野久彌, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, 41623, pp. 1297–1298 (2005年9月)

増圧直結給水の現状に関する調査

水谷 貴俊, 市川 憲良, 他

空気調和衛生工学会学術講演論文集, pp. 21–24 (2005年8月)

住宅における給湯使用の実態調査及び標準化に関する研究 (その1. 湯消費の平均と季節・日・時刻変動)

前 真之, 鎌田 元康, 市川 憲良, 他

空気調和衛生工学会学術講演論文集, pp. 1521–1524 (2005年8月)

住宅における給湯使用の実態調査及び標準化に関する研究 (その2. 集合住宅における冬季実測)

宮本 登, 鎌田 元康, 市川 憲良, 他

空気調和衛生工学会学術講演論文集, pp. 1525–1528 (2005年8月)

アンケート調査による住宅の水・湯使用実態に関する研究 (第1報) 世帯構成別にみた水・湯使用行為

田中 瑠美, 飯尾 昭彦, 市川 憲良, 他

空気調和衛生工学会学術講演論文集, pp. 1537–1540 (2005年8月)

浴場施設におけるレジオネラ対策に関する研究 (その8) 浴槽内の流動現象に関する実験

輿水 知, 市川 憲良, 他

空気調和衛生工学会学術講演論文集, pp. 1585–1588 (2005年8月)

プールやスパにおける停滞水域に関するCFD解析と水槽形状の分類

市川 憲良, 他

空気調和衛生工学会学術講演論文集, pp. 1589–1592 (2005年8月)

集合住宅における増圧直結給水方式に関する実測調査 —推定最大値による計画瞬時流量モデルの構築—

中野 民雄, 浅野 良晴, 市川 憲良, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1, pp. 413–414 (2005年9月)

住宅における給湯使用量の広域実測調査 その1. 湯消費実態の特性と分析

前 真之, 市川 憲良, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1, pp. 421–422 (2005年9月)

住宅における給湯使用量の広域実測調査 その2. 集合住宅における冬季実測

山口 和也, 鎌田 元康, 市川 憲良, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1, pp. 423–424 (2005年9月)

住宅における水・湯使用実態に関する研究 (その1) 世帯構成からみた水・湯使用行為の生活時間特性

田中 瑠美, 飯尾 昭彦, 市川 憲良, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1, pp. 467–468 (2005年9月)

住宅における水・湯使用実態に関する研究 (その2) 入浴行為の日変動と季節変動について

矢野 純二, 鎌田 元康, 市川 憲良, 他

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1, pp. 469–470 (2005年9月)

Recent Movement for Countermeasure to Legionella in the Public Bath in Japan

Fumitoshi KIYA, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Proceedings of the 31th CIB – W62 International Symposium, pp. 1–12, (Sep. 2005)

直結増圧給水方式の導入から現状の維持管理まで

市川 憲良

建築設備と配管工事, 第44巻, 第2号, pp. 61–66 (2006年2月)

屋根流水を用いた天井放射冷房の熱性能に関する実験研究 屋根流水放射冷房システムに関する研究
その1,

馬景輝, 須永修通,

日本建築学会環境系論文集, No. 590, pp. 29–35 (2005年4月)

露出型天井配管冷房システムに関する実験研究,

田沼孝啓, 須永修通, 藤江創,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 1209–1210 (2005年9月)

地中熱を利用した除湿型放射冷房システムに関する研究,

今本祐介, 須永修通, 他4名,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 1279–1280 (2005年9月)

関東地域における住宅のエネルギー消費に関する調査研究 その10 総エネルギー消費量に関する検討,

室恵子(足工大), 須永修通, 他7名,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 329-330 (2005 年 9 月)

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法に関する研究 その 1 快適範囲の拡張と評価方法の提案,

深澤たまき, 須永修通,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 559-560 (2005 年 9 月)

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法に関する研究 その 2 標準住宅モデルを用いた評価例,

須永修通, 深澤たまき,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 561-562 (2005 年 9 月)

地域センター建築における環境共生手法に関する実測解析,

岡本沙織, 須永修通,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 571-572 (2005 年 9 月)

環境に配慮した集合住宅の環境共生手法の傾向分析,

横田歩, 須永修通,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 573-574 (2005 年 9 月)

太陽エネルギーを利用した水蓄放熱床暖房システムに関する研究 6. 省エネルギー性能に関する実験結果,

咸哲俊, 須永修通,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 579-580 (2005 年 9 月)

太陽熱水蓄放熱床暖房システムの夏季の運転方法に関する研究,

秋田真範, 須永修通, 咸哲俊,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 581-582 (2005 年 9 月)

屋根流水放射冷房システムに関する実験研究 その 4 システムの有効性と被験者による快適性の評価,

馬景輝, 須永修通,

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 653-654 (2005 年 9 月)

Study on the performance of radiant cooling system with water flow on roof,

Jinghui Ma and Nobuyuki Sunaga,

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, No. 01-104, pp. 733-738
(2005 年 10 月)

A study on the evaluation of passive and low energy houses based on thermal comfort,

Tamaki FUKAZAWA, Nobuyuki SUNAGA and Kenichi HASEGAWA,

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, No. 01-107, pp. 751-754
(2005 年 10 月)

太陽熱水蓄放熱床暖房システムの夏季の室内気候調整に関する研究 その2 夜間冷気取り込み・屋根流水・夜間窓開放の効果,
秋田真範, 須永修通,
太陽／風力エネルギー講演論文集, pp. 255-258 (2005年10月)

屋根流水放射冷房システムに関する研究 その2 建物仕様およびシステム構成要素の影響,
馬景輝, 須永修通,
太陽／風力エネルギー講演論文集, pp. 259-262 (2005年10月)

縦型放射冷房の快適性向上に関する研究,
穴原靖夫, 須永修通, 他4名,
太陽／風力エネルギー講演論文集, pp. 271-274 (2005年10月)

学校建築の現状と環境共生手法の有効性に関する研究,
岡本沙織, 須永修通, 池澤知子,
太陽／風力エネルギー講演論文集, pp. 87-90 (2005年10月)

これからの住宅のあり方,
須永修通,
日刊工業新聞, 2005年10月7日朝刊, pp. 17-19 (2005年10月)

省エネルギーをめぐる最近の話題 -地球と人にやさしい住まい-,
須永修通,
日本太陽エネルギー学会／日本風力エネルギー協会合同研究発表会 市民講座・特別講演会資料,
pp. 1-6 (2005年10月)

四季雑感 すべての屋根で!,
須永修通,
太陽エネルギー, Vol. 31, No. 6, P. 1, (2005年11月)

Influence of System Components on Performance of the Radiant Cooling System with Water Flow
on Roof,
Jinghui Ma and Nobuyuki Sunaga,
Proceedings of PLEA2005 – The 22nd Conference on Passive and Low Energy Architecture, Vol. 1,
pp. 479-484, (2005年11月)

平成17年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー協会 合同研究発表会を終えて,
須永修通,
太陽エネルギー, Vol. 32, No. 1, pp. 68-72 (2006年1月)

作品選集 委員所感,
須永修通,
建築雑誌 作品選集 2006, p. 16 (2006年3月)

2005 (H17) Annual Report 建築都市コース
風とみどりの施設づくり報告書 -夏季をすこしやすくする環境に配慮した施設づくりを目指して-,
須永 修通, 岡本沙織, 他, 杉並区風とみどりの施設づくり検討委員会, pp. 13-18 (2006 年 3 月)

住宅建築のサスティナブル・デザインのための T S S 手法の開発,
林基哉, 須永修通, 長谷川兼一,
住宅総合研究財団研究論文集, No. 32, pp. 307-318 (2006 年 3 月)

A SIMPLE METHOD TO INCORPORATE THERMAL BRIDGE EFFECTS INTO DYNAMIC HEAT LOAD CALCULATION PROGRAMS
Akihiro Nagata
Proc. of 9th International IBPSA Conference (Montréal), pp. 817-822 (2005 年 8 月)

温度荷重の簡易予測法に関する研究 その 1 研究の目的と既往の実測結果の分析
林幸雄 (鹿島建設)・永田明寛・石川孝重 (日本女子大)・中島秀雄 (清水建設)
日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1, pp. 41-42 (2005 年 9 月)

温度荷重の簡易予測法に関する研究 その 2 簡易予測法と気象データ
中島秀雄 (清水建設)・永田明寛・石川孝重 (日本女子大)・林幸雄 (鹿島建設)
日本建築学会大会学術講演梗概集 B-1, pp. 43-44 (2005 年 9 月)

木造住宅の壁体の断熱性能評価に関する研究
小山悠・永田明寛・小泉雅生・藤江創
日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2, pp. 205-206 (2005 年 9 月)

<都市空間システム>

巨大都市と変貌する災害

中林一樹（監訳）

古今書院、全 386 頁（2006 年 1 月）

大地震東京危険度マップ

中林一樹（監修・著）

朝日出版、全 80 頁（2005 年 6 月）

図説 東京直下地震

中林一樹

徳間書店、全 158 頁（2005 年 8 月）

火災に関する地域特性の解明に関する研究－東京・板橋区を対象として－

早阪 誠・中林一樹

地域安全学会論文集 No. 7, pp. 43-52 (2005 年 11 月)

新潟県中越地震発生後半年間の災害対応と市街地空間利用について－新潟県川口町を事例として－

吉田祐輔・佐藤大介・市古太郎・澤田雅浩・中林一樹

地域安全学会論文集 No. 7, pp. 179-188 (2005 年 11 月)

住居移転を伴う復興における被災者の対応行動と環境変化の受容に関する研究－トルコマルマラ地震を事例に－

石川永子・吉川忠寛・福留邦洋・中林一樹

地域安全学会論文集 No. 7, pp. 443-452 (2005 年 11 月)

台湾における車籠捕断層沿線区域の建築制限の展開と住民の対応」

照本清峰・王雪文・中林一樹

都市計画論文集（都市計画学会）No. 40, pp. 703-708 (2005 年 11 月)

都市と犯罪の実態

玉川英則

日本不動産学会誌、No. 73 (Vol. 19-No. 2), pp. 101-106 (2005 年 11 月)

視点場の類型化による都市景観解析－国分寺崖線の高層マンションを対象に－

服部祐司 ((株)セコム)、玉川英則

地理情報システム学会講演論文集、Vol. 14, pp. 515-520 (2005 年 10 月)

フランスの GIS 推進と地理情報学研究－IGN を中心に

玉川英則

総合都市研究、第 84 号, pp. 17-24 (2005 年 7 月)

高齢者・障害者の交通政策・計画に関する国際比較

秋山哲男, 澤田大輔, 藤井直人, 高橋万由美

総合都市研究第 85 号, pp. 5–16, 2005

カナダのアクセシビリティに関する政策とその運用の仕組み

沢田大輔, 秋山哲男

総合都市研究, 第 85 号, pp. 17–30, 2005

バリアフリー法による基本構想の推移と市民参加の展開について

本田恵子, 秋山哲男

総合都市研究, 第 85 号, pp. 31–42, 2005

過疎地域におけるモビリティと公共交通の現状分析

吉田樹, 秋山哲男

総合都市研究, 第 85 号, pp. 43–55, 2005

札幌中心市街地の冬の歩行者転倒事故—現状と今後の対策—

新谷陽子, 原文宏, 秋山哲男

総合都市研究, 第 85 号, pp. 57–68, 2005

ネットワークインテリジェンスによる災害時支援システムの開発

山口亨, 斎藤每至, 梅田雅士, 小倉泉, 秋山哲男,

総合都市研究, 第 85 号, pp. 69–77, 2005

避難所生活に対する不安感と住民属性の関係

新田収, 勝野とわ子, 山口亨, 秋山哲男

総合都市研究, 第 85 号, pp. 79–84, 2005

密集市街地における道路閉塞と避難困難者に関する研究

木村京一朗, 秋山哲男, 大口敬, 小根山裕之

総合都市研究, 第 85 号, pp. 85–91, 2005

バス交通計画のチャレンジ—バス・コミュニティ・ST サービスの交通計画

東京都立大学都市研究所第 17 回公開講演会

総合都市研究, 第 85 号 pp. 126–134, 2005

ユニバーサルデザインと交通バリアフリー法の課題

秋山哲男,

土木計画学研究講演集, CD-Rom, Vol. 31, 2005

公共交通としての DRT の将来展望

原文宏, 秋山哲男

土木計画学研究講演集, CD-Rom, Vol. 31, 2005

都市居住者による DRT の受容可能性

杉山卓, 吉田樹, 秋山哲男, 小根山裕之

土木計画学研究講演集, CD-Rom, Vol. 31, 2005

地方部における DRT 利用対象者の需要推計に関する研究—青森県福地村の DRT 実験運行地域を対象に

—
金載昊, 秋山哲男, 千葉真

土木計画学研究講演集, CD-Rom, Vol. 31, 2005

都市部における DRT システムとその適用可能性

吉田樹, 秋山哲男

土木計画学研究講演集, CD-Rom, Vol. 31, 2005

地方都市におけるモビリティ格差とその生成要因に関する分析

吉田樹, 秋山哲男

土木計画学研究講演集, CD-Rom, Vol. 32, 2005

交通計画のユニバーサルデザイン

秋山哲男

公共建築, pp. 52-55, Vol. 48, No187, 2006, 公共建築協会

都市部における DRT の適用可能性—乗合タクシーの実証実験—乗合タクシーの実証実験—

吉田樹, 秋山哲男

日本福祉のまちづくり学会第 8 回全国大会概要集, pp. 120-123, 2005

高齢者・障害者の ST サービスと運営協議会の課題と展望

秋山哲男

日本福祉のまちづくり学会第 8 回全国大会概要集, pp. 124-127, 2005

観光ユニバーサルデザインの課題

清水政司, 草薙威一郎, 秋山哲男, 宮井久男, 香名豊明

日本福祉のまちづくり学会第 8 回全国大会概要集, pp. 167-170, 2005

雪国のバリアフリーツーリズム—移動制約者モニターによる冬の旅行調査報告—

新谷陽子, 内藤恵, 西村泰弘, 秋山哲男

日本福祉のまちづくり学会第 8 回全国大会概要集, pp. 279-282, 2005

観光ユニバーサルデザインの意義

草薙威一郎, 清水政司, 秋山哲男, 宮井久男, 香名豊明, 小野鎮

日本福祉のまちづくり学会第 8 回全国大会概要集, pp. 291-294, 2005

光のユニバーサルデザイン研究会 バリアフリー照明社会実験—光による視覚障害者の歩行支援の可

能性—

最所祐二, 秋山哲男, 池田典弘

日本福祉のまちづくり学会第8回全国大会概要集, pp. 419-420, 2005

新宿区における交通バリアフリー基本構想策定に関する調査分析—新宿駅周辺地区を事例として—
堀井学, 秋山哲男, 北川博巳, 白水靖郎

日本福祉のまちづくり学会第8回全国大会概要集, pp. 486-489, 2005

Transportation Policies for the Elderly and Disabled in Japan,
Tetsuo Akiyama, Jae-kyung Kim
International Journal of Urban Sciences, 9(2), 2005, pp. 87-98, The University of Seoul

震災復興まちづくり模擬訓練による地域協働型事前復興準備の可能性—新小岩地区における実践と参
加者調査から—

市古太郎, 饗庭伸, 吉川仁(防災アンド都市づくり計画室), 中林一樹, 高見澤邦郎
地域安全学会・論文集, No. 7, pp. 385-394

民間宅地および擁壁被害と復旧支援策

市古太郎

日本建築学会大会(近畿)総合研究協議会「中越地震-中山間地域の大規模災害が示す新たな課題-」
資料, pp. 91-94

台湾集集大震災における住宅・都市復興

市古太郎

『都市再生を考える2 成熟そして原点へ—海外に学ぶ—』, 日本経済評論社, pp. 256-279

既成市街地における隣棟間隔ならびに建物隣接空地の定量化—修復型防災まちづくりの計画マネージ
メントを企図して—

市古太郎

総合都市研究, 第84号, pp. 43-63

<都市社会システム>

健康維持のための運動と継続-老人保健事業と介護保険事業との関連-.

星旦二

体育の科学, 55(1):25-29 (2005).

在宅高齢者の知的能動性低下に関する家族の受け止め方—地方10町村調査と都市部1市調査による比較—.

山本千紗子, 星旦二

Health Sciences, 21(3):303-315 (2005).

家族が行う認知症判断と生存予後および生存に関する要因.

山本千紗子, 星旦二, 巴山玉蓮, ほか

日本認知症ケア学会, 4(1):40-50 (2005).

健康長寿と生涯現役.

星旦二

長寿連携ニュース, 28:17-22 (2005).

都市在宅高齢者の生活満足度の構造解析.

星旦二

日本健康教育学会誌, 13:210-211 (2005).

在宅高齢者の外出規定要因.

星旦二

日本公衆衛生学会, 55(1):25-29 (2005).

ヘルスプロモーションと市民の健康づくり 市民と行政と関係機関との協働.

星旦二

月刊自治研, 47(553):20-26 (2005).

働き盛り世代における脳卒中発症の生活背景要因に関する研究.

巴山玉蓮, 星旦二

厚生の指標, 52(15):19-25 (2005).

高齢者における主観的健康感の有用性に関する研究.

艾 武, 星旦二

日本公衆衛生学会, 52(10):841-852 (2005).

Tanji Hoshi:Healthy japan 21 objectives and strategies.New challenges of Health Promotion Activities in Korea,Korean society for health education and promotion :57-88 (2005).

Japanese case of community partnership for healthy city projects.New challenges of Health Promotion Activities in Korea,

Tanji Hoshi

Korean society for health education and promotion :199-230(2005).

Self-rated Health and Social Factors in the Urban Japanese A study of Structural Equation Modeling (SEM),

Toshihiko takahashi, Takashi Hasegawa, Tanji Hoshi

International Journal of Urban Sciences. 9 (2) :67-77 (2005)

対話と戦略-大都市の自治と都市政策-

羽貝正美

新潟自治, (社) 新潟県自治研究センター, vol. 29, pp. 10-17 (2006年10月)

特定学術研究（平成17年度）

(1) 教育研究奨励費寄付金による研究：9件

(2) 受託研究による研究：なし

(3) 産学共同研究費による研究：1件

(4) 文部科学省科学研究費による研究

氏名	種目	研究課題名
橋高 義典	基盤B	生物科学的機能を有する新機能コンクリートに関する基礎的検討
角田 誠	基盤C	分解・再築容易な構法特性と市場成立条件を併有する鋼構造建築リユースシステムの開発
山崎 真司	基盤C	多軸応力状態におけるH形断面鋼柱の不安定挙動の解明
吉川 徹	基盤C	公共建築物・住宅ストックを活用した自己恒常型地域公共施設ネットワークの構築
見波 進	基盤C	鋼構造多層骨組の進行性崩壊の解明
北山 和宏	基盤C	連層鉄骨プレースで補強したRC建物の三方向地震力下での耐震性能評価
中村 孝也	若手B	鉄筋コンクリート柱の軸力保持能力喪失を考慮できるフレーム解析手法の開発
藤田 香織	若手B	地震観測結果に基づいた伝統的木造構法五重塔の振動特性の解明
田村 雅紀	若手B	骨材回収型コンクリートによるアルカリシリカ反応抑制効果の迅速評価に関する研究
中山 哲士	若手B	太陽極近傍放射輝度分布を考慮した日射量データの作成
竹宮 健司	若手B	周産期医療施設における部門構成と新生児集中治療・療養生活環境の再編成計画
木下 央	若手B	英国の「風景概念」生成期における建築デザインの変容と非西欧圏文化の受容
森田 真司	若手B	せん断ひび割れが発生した鉄筋コンクリート造柱梁接合部の補修・補強法の提案
鳥海 基樹	若手B	フランス2000年都市連帶・再生法による基礎自治体主導の保全的刷新型都市計画
門脇 耕三	若手B	集合住宅における「アダプタブルなビルディングシステム」の再構築
三田村 哲哉	若手B	パリにおける近代建築の改修事例に関する意匠考察と作品データベースの構築

学位論文リスト

[博士論文]

建築学専攻

都立大（論文博士）

博士（工学）乙第 638 号	石川 理都子	制振ダンパーの開発と高層建物の居住性向上に関する研究
----------------	--------	----------------------------

都立大（課程博士）

博士（工学）甲第 653 号	馬 景輝	屋根流水放射冷房システムに関する研究
博士（工学）甲第 654 号	高稻 宜和	鉄筋コンクリート柱の崩壊に関する研究
博士（工学）甲第 655 号	土屋 潤	建築石材仕上げの視覚的評価に及ぼす表面性状の影響に関する研究

首都大学東京（課程博士）

博士（工学）甲第 1 号	吉田 由紀	入居者の生活様態と経年変化からみた長期居住施設としての特別養護老人ホームのあり方に関する研究
--------------	-------	--

都市科学専攻

都立大（論文博士）

博士（都市科学）乙第27号	小林 和夫	インオネシアにおける「伝統制度化」と住民組織の導入・整備に関する研究 社会史的研究
博士（都市科学）乙第29号	原田 謙	大都市部における後期高齢者の社会的ネットワークと精神的健康

都立大（課程博士）

博士（都市科学）甲第24号	滝澤 寛子	糖尿病セルフケア能力のアセスメントと学習援助効果
博士（都市科学）甲第25号	山本 千紗子	家族が行う痴呆判断と在宅高齢者の知的能力低下・生存予後および専門的痴呆判定との関連
博士（都市科学）甲第26号	三徳 和子	我が国在宅高齢者の主観的健康感とその経年変化に関する関連要因および生存予に関する研究
博士（都市科学）甲第28号	西田 奈保子	大都市におけるマンション管理組合の組織論的分析
博士（都市科学）甲第30号	竹田 宜人	風評被害の実態とその自主的なリスク軽減行動としての意義に関する研究
博士（都市科学）甲第31号	堀江 典子	緑地を活用した循環型都市の形成に関する研究

[修士論文]

建築学専攻

半田 良記	住民組織による復興まちづくりイメージの形成 —東京都内で行われた復興模擬訓練を通じて—
青木 悠一	SF映画における近未来的建築・都市空間のデザインに関する考察
秋田 真範	夏季における太陽熱水蓄放熱床暖房住宅の室内気候調整に関する研究
秋山 梨花	シュジェールによるサン=ドニ大修道院教会堂改修に関する研究
穴原 靖夫	縦置パネル冷房の熱的快適性向上に関する研究
新井 健志	劣化作用を受けた鉄筋コンクリートかぶり部の補修方法の評価に関する研究
上野 裕美子	耐震診断基準における「せん断柱」からなる建物の耐震性評価
木村 未央子	現代舞踊における身体の動きの研究とそれに基づく建築空間の提案並びに舞踊振付提案
幸田 裕美子	植栽の熱的特性および熱環境調整効果に関する研究
小山 悠	社会生活基本調査を用いた居住者行動モデリングに関する研究
近藤 樹理	多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究
齋藤 茂樹	戸建住宅における外壁構法の実態とその改修履歴に関する研究 —複数の市街地における調査とその比較分析—
佐々木 章行	建築における空間集合の分析および設計提案
謝 秉銓	空間転用に着目した既存公共施設群の再構築に関する研究 —東京都多摩市を対象として—
鈴木 啓之	団地型集合住宅におけるエレベーター付加改修工事に関する研究 —階段室型エレベーターの設計プロセスと生産方式—
田中 こず恵	住宅リフォーム工事に携わる企業の業態と工事編成に関する研究
田中 亮平	東京都心部及び近郊都市のミニ開発地区における住棟配置に関する研究および設計提案
谷口 幸平	個人の空間機能利用パターンにねぎした都市形成モデル
千賀 順	ジョン・ハイダックの設計手法の変遷に関する分析
角田 高紀	地盤の非線形性が建物の地震応答に及ぼす影響
寺東 由美子	中空プレストレスコンクリート板の壁面緑化パネルへの応用に関する研究
登坂 壮人	日本におけるオープンプラン型小学校の計画史に関する考察と新たな学習空間の設計提案
外山 圭佑	H形断面鋼柱の弾塑性挙動
長岡 洋樹	書院造の構造性能と木割の相関に関する研究 —国宝・重要文化財建造物を対象として—
中林 綾	不動産価格の形成要因からみた多摩ニュータウンの居住環境評価に関する研究
西川 謙一	改修工事における道連れ工事の発生要因に関する研究 —公共施設の改修工事における工種の組合せに着目して—
濱 洋子	小規模生活単位型特別養護老人ホームにおける入居者の生活様態 —ユニットケアの完結性と閉塞性の考察—
春田 亮一	リフレクションによる外部環境のとり込み方に着目した都市型積層建築の設計提案
比嘉 盛達	既存ストックの建築的構成要素に立脚した小中学校施設のコンバージョン設計手法の提案
藤井 博史	軟弱地盤上に建つ中低層建物の振動特性同定に関する研究
柳澤 一希	利用者による施設選択過程を考慮した地域施設利用構造の理論的分析
屋比久 美奈子	オスマン帝国末期イスタンブルの都市型建築におけるファサードの様式的特性
山口 広介	高齢社会における文化施設へのアクセシビリティに関する定量的研究 —首都圏の美術館を例として—
湯 香菜子	相関関係に着目した都市住居の設計提案
李 露	直交壁付きRC柱の耐震性能に対する袖壁とクリアスパン比の影響
常陰 有美	児童館の利用構造と活動場面の展開に関する研究

都市科学専攻

望月 聖子	基礎自治体における都市内分権の制度づくりに関する研究
李 恵貞	日本における韓国人不法滞在者の生活の適応実態に関する研究 -A町の不法滞在者への調査から-
小笠原拓士	まちづくり条例を中心とした自治体独自の開発コントロールに関する研究-東京圏の郊外都市を対象として-
北村 道一	高齢者の地域継続居住を可能にするケアの仕組みおよび環境とその変容過程
高 燕	中国都市部における一人っ子をもつ母親の育児不安を規定する要因に関する研究
小迫 欣弘	都心高密度市街地を対象とした建築ストック分析に基づく景観形成手法の可能性 -千代田区神田地域を事例として-
小林 美智	週産期医療施設における施設機能及び配置計画に関する研究
坂本 恭兵	移動困難属性に着目したS-Tサービスの需要構造に関する研究
田中 元輝	静岡県掛川市「生涯学習まちづくり土地条例」に関する研究
徳永 美佐	外国人への防災・災害情報伝達手段の向上に関する研究
額田 岳	転換期の郊外都市における新世代のまちづくりと地域参加行動-東京都国立市を事例とした 昨今の地域参加の実態とその傾向-
朴 慶女	空間認識及び活用の観点から見た住所表示体系に関する研究-韓国ソウル特別市(江南区) の地図を活用した空間の位置認識度調査を通じて-
馬場 祐輔	1962年から79年にかけての国家の縮図としての首都ソウルに関する研究-朴正熙政権下での ソウルの都市政策とその問題-
福山 智章	バスサービスと商業施設へのアクセスに注目した市民のモビリティに関する研究-群馬県高 崎市を事例に-
双川 華子	公共賃貸住宅ストックの建替え状況とその特性から見た再生の方向性について-東京圏を対象 に-
本田 直子	都市在宅高齢者の介護予防と生活の質(QOL)との関連-外出と心身機能及び人間関係との 関連について-
宮田 直明	ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定及び実践状況の自治体間比較
安留 瑞木	密集市街地における街並み構成要素に関する比較研究-台東区日本堤一丁目と墨田区京島 三丁目を事例として-
吉田 祐輔	豪雪地域の小規模中心市街地における地震災害時の空間利用と災害対応のあり方に関する 研究 -新潟県中越地震から1年間の川口町を事例として-

2005 Staff

Architectural Planning/ City Planning

Kunio TAKAMIZAWA

Professor / Dr.Eng.

City Planning, District Planning , Zoning Regulation

Rm.27-866

+81-426-77-1111 Ext.4775

Jun UENO

Professor / Dr.Eng.

Architectural Planning, Behavior, Environmental Psychology,Community Facilities Planning

Rm.27-869

+81-426-77-2814

Tohru YOSHIKAWA

Associate Prof. / Dr.Eng.

City Planning, Spatial Analysis, Geographical Information System

Rm.27-868, +81 426 77 2813

Kenji TAKEMIYA

Associate Prof. / Dr. Eng.

Architectural Planning, Environmental Behavior

Rm.27-877, +81-426-77-1111 Ext.4785

Motoki TORIUMI

Assistant Prof. / Dr. in France (Urban Studies)

Urbanism in Paris (from the Renaissance to today)

Rm.09-867, +81 42 677 2812

Shin AIBA

Research Associate/ Dr.Eng.

City Planning, Citizen Participation, Master Plan

Rm.27-875 +81 426 77 1111 Ext.4786

Naoki KUROKAWA

Research Associate / M. Eng.

History of Western Architecture, History of Landscape Architecture,

Preservation of Architectural Heritage

Rm.27-828, +81 426 77 1111 Ext. 4764

Masumi MATSUMOTO

Research Associate
Housing Studies
Rm.9-877, +81 42 677 1111 Ext.4788

Architectural Design and History

Katsuhiro KOBAYASHI
Prof./Dr. Eng.
Theory of Architectural Design, Architectural Design, Western Architectural History
Rm.27-871 +81-426-77-2816

Yukimasa YAMADA
Associate Prof./Dr. Eng.
Architectural History, Japanese Architecture, Islamic Architecture, Conservation
Rm.27-870, +81-426-77-1111 Ext.4781, +81-426-77-2815

Masao KOIZUMI
Associate Prof. / M. Eng.
Design Practice, Architectural Design, Design Methodology
Rm. 27-872, +81 426 77 2817

Akira KINOSHITA
Research Associate/M. Eng.
Theory of Architectural Design, Architectural History, Architectural Design
Rm.27-827 +81 426 77 1111 Ext. 4763

Osamu NISHIDA
Research Associate / B.Eng.
Design Practice, Architectural Design, Design Methodology
Rm.27-734
+81-426-77-1111 Ext.4787

Construction Management and Building Materials

Seiichi FUKAO
Prof. / Dr. Eng.
Building Construction, Building System Design
Rm. 27-873, +81 426 77 2818

Yoshinori KITSUTAKA
Prof. / Dr. Eng.
Building Materials, Finishing Materials, Concrete Engineering
Rm. 27-775, +81-426-77-2797

Makoto TSUNODA

Associate Prof. / Dr.Eng.

Management and Organization of the Building Process, Durable Building System,
Circulating System for Building Components

Rm.27-767, +81 42 677 2807

Kozo KADOWAKI

Research Associate / M. Eng

Building Construction, Building System Design

Rm. 27-826, +81 426 77 1111 Ext. 4762

Masaki TAMURA

Research associate / Dr.Eng.

Building Materials, Concrete Engineering, Environmental Materials

Rm.27-730, +81-426-77-1111 Ext.4726

Structural Engineering

Manabu YOSHIMURA

Prof. / Dr. Eng.

Reinforced Concrete, Earthquake Engineering, Seismic Design

Rm.27-773, +81 426 77 2800

Shinji YAMAZAKI

Professor / Dr.Eng.

Structural Engineering, Steel Structure, Structural Design

Rm.9-774, +81 42 677 2798

Takao NISHIKAWA

Professor / Dr.Eng.

Structural Engineering, Seismic Engineering, Torsion in Building

Rm.27-770, +81 42 677 2803

Kaori FUJITA

Associate Professor/ Dr.Eng.

Timber Structure, Traditional Structure, History of Disaster

Rm. 27-772, +81 426 77 1111 Ext.4742

Kazuhiro KITAYAMA

Associate Prof. / Dr. Eng.

Reinforced Concrete, Seismic Design, Earthquake Engineering

Rm.27-771, +81 42 677 2802

Kazushige YAMAMURA
Research Associate / M.Eng.
Structural Engineering, Load and External Force
Rm.27-731, +81 42 677 2794

Susumu MINAMI
Research Associate / Dr.Eng.
Structural Engineering, Steel Structure, Fracture Mechanics
Rm.9-727, +81 42 677 1111 Ext. 4723

Takaya NAKAMURA
Research Associate / Dr. Eng.
Reinforced Concrete
Rm.27-728, +81 426 77 1111 Ext. 4724

Environmental Engineering

Hisaya ISHINO
Prof. /Dr. Eng.
Architectural Environmental Engineering, Building Service Engineering,
Building Energy System Simulation
Rm. 9-766, +81 42 677 2806

Noriyoshi ICHIKAWA
Prof. /Dr. Eng.
Building Environment, Water Supply and Drainage System in Buildings
Rm. Akisima campus 306, +81 42 543 3111 Ext. 306

Nobuyuki SUNAGA
Assoc. Professor/ PhD (Dr. Eng.)
Architectural Environment, Passive and Low Energy Architecture, Thermal Comfort
Rm.9-768, +81 42 677 2805

Akihiro NAGATA
Associate Prof. /Dr. Eng.
Building Environmental Engineering, Hygrothermal Environment
Rm.27-769, +81-426-77-2804

Satoshi NAKAYAMA
Research Associate / Dr. Eng
Architectural Environmental Engineering, Weather Data, Urban Climate
Rm. 9-734, +81 42 677 1111 Ext. 4732

Urban space, system and planning

Itsuki NAKABAYASHI

Professor/Dr. Eng.

Urban Planning, Disaster Mitigation Planning, Urban Reconstruction Planning,
Community-based Improvement (MACHIZUKURI)

Rm.2-111, +81 42 677 2354

Hidenori TAMAGAWA

Professor / Dr. Eng.

Urban and Regional Analysis, Urban and Regional Planning

Rm. 2-207, +81 42 677 1111 Ext. 1924

Tetsuo AKIYAMA

Professor

Doctor of Engineering

Urban Transportation Planning, Accessibility Planning, Town Planning for Tourism,
Transportation Universal Design

Rm. 2-206, +81 42 677 1111 Ext. 1943

Taro ICHIKO

Research Assistant/ Doctor of Urban Science

Disaster-proof urban planning, Space Information Science,
Community development for Disaster prevention

Rm.2-152,+81-42-677 1111 Ext. 1925

Urban society, residents and institution

Tanji HOSHI

Professor /Dr. Med.

Public health , Urban Health Policy

Rm. 2-102, +81 42 677 2355

Masami HAGAI

Professor /M. Law

Administration, Urban administration

Rm. 2-102, +81 42 677 1111 Ext.1944

Overview of Research Activities in 2005

Architectural Planning/ City Planning

Studies for the Development of Sustainable Community and Living Environment for the Elderly
Jun UENO, Masumi MATSUMOTO

For the forthcoming progressive aging society, an improvement in quality of sustainable living environment for the elderly is most important theme for our Japan. Among the series of studies and investigation works based on these point of views, following subjects were accomplished this year.

- 1) Actual Situation of Residents' Daily Living Activities at Unit-Care Nursing Home
- 2) Study for Architectural Planning of Day-Service Center for the Elderly from the Viewpoint of the Activities Program and the Sphere of the Users
- 3) Study on the Changes of the Elderly's ADL and the Utilization of Rooms in Nursing Home

Series of Studies for Regeneration and Revitalization of Tama New Town

Jun UENO, Masumi MATSUMOTO

Tama New Town is the largest New Town in Japan and it progressed 30 year from the first step development. This series of studies aims to research and develop the methods for regeneration and revitalization of living environment of Tama New Town.

- 1) Environmental Behavior Study for the Children's Outdoor Activities at Tama-New Town
- 2) Actual Situation of Life Style of Elderly Who Live at the Housing Estates of Tama New Town
- 3) Development of Full-Remodeling Design Methods of School Buildings to Community Facilities

Studies on the Architectural Planning and Design for the Educational Facilities

Jun UENO

Concurrent with the change in modern educational philosophy and methodology, the space formation and composition of primary and secondary school should also be reorganized in every aspect. This series of studies aims to develop new concept and conditions for architectural planning of school facilities. Among the series of studies and investigation works based on these points of views, following subjects were accomplished this year.

- 1) Study for the Architectural Planning of Secondary School Based on Curriculum, Timetable and Management of Secondary School
- 2) Study for the Architectural Design and Planning for the School Complex with the Community Facilities
- 3) About the Architectural Planning on Integrated Facility of Kindergarten and Nursery School

Environmental Behavior Studies on the Community Facilities and Urban Open Space

Jun UENO, Masumi MATSUMOTO

Targeting on the people who stay at the urban open space and who use the community facilities, we are trying the series of Environmental Behavior Studies. From the actual investigation and observation works, we try to extract the order or characteristic tendency in human behavior. Among the series of studies and investigation works based on these points of views, following subjects were accomplished this year.

- 1) Environmental Behaviors Study for People's Activities at Urban Square
- 2) About the Architectural Planning for Community Center
- 3) Analysis for the Motions and Tracks of Pedestrians at Linearly Shaped Urban Open Space

Development of Methods for Construction of Community Facilities Network Utilizing Existing Public Buildings

Tohru YOSHIKAWA and Miki ARIMOTO

This study aims at developing methods for Construction of community facilities network suitable for the information, aged and mature society of Japan. To this end, a method to construct community facilities network utilizing existing public buildings is developed. The method is applied to Tama City, which includes the earliest development of Tama New Town, in Tokyo Metropolis.

Development of Platform for Sharing Regional Information utilizing ASP for Map Delivery

Tohru YOSHIKAWA and Hidenori TAMAGAWA

The purpose of this study is to support to build social infrastructure for sharing regional information by the Internet in the matured information society for which Japan is heading. To this end, an information platform, which is low-cost, flexible and open, is developed based on ASP for map delivery on the Internet. The practicality of the platform is tested using a collaborative experimental web site with municipalities and residents. Especially, applicability to civic action for preventing crimes is tested.

Architectural planning of perinatal care facilities

TAKEMIYA Kenji

This study aims at re-arrangement of the perinatal facilities in Japan form point of view of their functions and locations. This year we had two research projects.

- 1) To show the current conditions and issues of the perinatal centers in Japan, field survey and correcting data of perinatal facilities were curried out in some local districts.
- 2) To show the current conditions and issues of Neonatal Intensive Care Unit (NICU) in Japan, inside observation and correcting questionnaire were curried out.

Residential Care system and milieu for elderly people

TAKEMIYA Kenji

For the progressive aging society, it is important to improve the quality of living environment for the elderly in Japan. This year, some remarkable results were got as follows:

- 1) The current situation and characteristics of small sized Day Center which supports the elderly in their community and offers short stay program and group home care in the same facility.
- 2) The utilization and meaning of the small sized Day Center for the elderly and their families.

Research on the contextual renovation of townscape in France

Motoki TORIUMI

For large and smooth development of the Landscape Law of 2004, this research aims to make clear the methods for contextual renovation of townscape in France, specially in Paris.

Research on the city centre revitalization in France

Motoki TORIUMI

To contribute to the reform of Town planning act and City centre revitalization act in 2006, this research aims to analyze the building code, the commercial urbanism and the housing policy in France.

Research on the contextual renovation

Motoki TORIUMI

To contribute to the recover program of Expo 2005 in Aichi, this research deals with the architectural and urbanistic reutilization projects after the Expos in Lisbon and in Hanover.

The study about national suggestion system for deregulation and decentralization

Shin AIBA

The research and case-study of national suggestion system for deregulation and decentralization on city planning. The results are published as serious articles.

The activation and renewal of urban building stocks accumulated area of Tokyo

Shin AIBA, Kunio TAKAMIZAWA

The research and case-study of the method for activation and renewal of urban building stocks- various ages, various structures- accumulated area. 1) Analyze the possibility of activation for each building types, 2) Evaluate the building safety for earthquake, 3) The state of land use.

The method of fixed point observation of townscape

Shin AIBA

I started the project of taking and collecting digital photographs of fixed point observation of townscape for next 30 years. I developed basic method of taking and collecting photographs in 2005.

Historical Studies on the American Architecture and Landscape Design

Naoki KUROKAWA

The result of on-site survey on adaptive reuse of historic assets in America, particularly residential conversion of Modern commercial buildings, was reported. And pursuit of the "American Style" in the architectural and landscape designs was presented at a seminar for the professional designers.

Architectural Design and History

Analyses on Geometrical Composition of Modern and Contemporary Architecture

Katsuhiro KOBAYASHI and Akira KINOSHITA

One of the main purposes of architectural design research is to clarify morphological principles that give birth to architectural beauty. For this purpose, it is important and effective to abstract compositional principles from existing architectural works and to examine the method how these principles are applied concretely in architectural works. Under this research theme, how geometrical composition is applied in modern and contemporary architecture and how it helps to order architectural design are examined. In the academic year of 2005, geometrical compositions seen in architectural works of John Hejduk, Andre Lurcat, Louis Sullivan, and Paris International Expositions and so on were analyzed. These studies were published in Summaries of Technical Papers of Annual Meeting and Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering of Architectural Institute of Japan.

Development of Architectural Design Method

Katsuhiro KOBAYASHI and Akira KINOSHITA

In architectural design research, it is also important to apply design principles and compositional methods abstracted by analyses to actual architectural design work. Thereby theory and practice, in other words, basic research and high-level application would be synthesized. In the academic year of 2005, our laboratory made efforts to develop design methods by entering several design competitions. Above all, we participated in the Design Competition for the Concert Hall of Odawara City and New Civic Hall Building of Tachikawa Prefecture, which were not just only proposals to meet the required conditions but also an attempt to apply our theoretical works into designs.

Research on Conversion and Renovation of Existing Building Stocks

Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA, and Tetsuya Mitamura

It is becoming one of the most important and social subject in architectural field of Japan to find out and create various methods to revitalize the existing building stocks. In the academic year of 2005, from the viewpoint of architectural design, we realized a conversion design to change an anonymous small building into a house for two families. We also published "Design Possibilities of the Architectural Conversion -Recent Works in Italy-", the outcome of our field survey of Italian examples of conversion and renovation.

Intercourse between Architectural culture in the Indian merchant cities and English Baroque, in the late 17th century

Akira KINOSHITA

In the late 17th century, it was time for England to absorb non-occidental architectural culture, especially Indian and Middle Eastern, as well as to import classicism from Europe, when East India Company had been expanding its commercial activity in India. In this research focusing on the style of English cemetery and mausoleums built in western Indian merchant cities, we examine how its non-occidental style influenced contemporary English architecture, especially through the work of an architect, Sir John Vanbrugh who visited India in 1682.

Studies on Historic Architecture and Urbanism in the Islamic World

Yukimasa YAMADA

Although numbers of the historic architecture in the Islamic world have their own peculiar features in the architectural techniques and designs, their nature has not yet been understood adequately in Japan, nor has their urbanism as their agglomeration. In a series of our successive studies on the architectural history and urbanism in Islam, we have tried to analyze the urban transformation of the historical district in Saida, Lebanon.

Surveys and Studies on the Preservation and the Architectural Features of Traditional Housings in Asia

Yukimasa YAMADA

Since a number of the traditional houses and with historical and cultural values have been disappearing rapidly in the Asian countries, their preservation is an urgent issue. Making surveys and studies from this point of view, we have reported the traditional rural fabric and the historical changes of a typical village in the Northern Vietnam, based on the results from the field survey so far.

Project for Rehabilitation of Modern Collective Housing in Hanoi, Vietnam

Yukimasa YAMADA, Shinji KISHIDA, Osamu NISHIDA, So FUJIE

Since the 1950s, the government of Vietnam has constructed various types of collective housing estates in Hanoi, some of which were supported by the technical aids from the former Soviet Union and North Korea such as precast concrete panels. In the subtropical climate, these buildings have been deteriorating functionally, structurally and aesthetically. Every kind of transformation occurs in many apartments influenced by rapid economic and social changes. We made an agreement with a research group of Hanoi Architectural University, who will collaborate with us on the project for rehabilitation of collective housing in Trung Tu District, Hanoi.

Research on Accessibility of Urban and Architectural Space

Masao KOIZUMI and Osamu NISHIDA

The First Stage of the Research is to analyze the Relationship between Housing and the City. This Research will be generalized into an Analysis of Relation between Architecture and Urban City.

These Researches will cover Areas such as; Type of Connection and Distance between Housing and the City, an Arrangement of Territories, Strength of the Boundary between Different Territories, etc. These Basic analyses will be developed into Research and Practice of a Design Method concerning Accessibility in an Urban Scale.

Research on Housing Transformation Reflecting the Change of Family

Masao KOIZUMI and Osamu NISHIDA

Today a Family Style has transformed because of an Increase of Divorce and the rapid Progress of the Aging Society. But still most of the Houses are planned for so called "Nuclear Family".

The Goal of this Research is to develop a Planning Method for Housings and propose a new

Typology, through the Analysis of Contemporary Japanese Family and their Life Style.

Construction Management and Building Materials

Research on Activation Technologies for Aged Public Residential Buildings Built in the High-growth Period

Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

In Japan, various government authorities and public housing corporations built a huge number of dwellings in the high-growth period, and they accumulated more than two millions before 1980. In those buildings more than 20 years old, some problems have been arising in recent years: their interior finishings and functional systems are deteriorating, and they only have stairway access even though they are four or five story high. In this year, we continued a research on the activation technologies for those aged public residential buildings.

To put it concretely, we developed a new system to make access to dwellings more convenient by adding elevator tower(s) for the aged public residential building. While developing this new system, researchers and students in each subfield cooperated organically. Furthermore, we test-constructed this elevator addition system subsidized by the "Construction Technology Research and Development Subsidy Program" of the Ministry of Land, Infrastructure and Transport of Japan. Furthermore, we conducted a research on the actual situations of the activation of aged public residential buildings in domestic and foreign countries.

Research on the Refurbishment of Exterior Walls of Detached Houses

Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

The functions of exterior walls of detached houses have an effect on the disaster prevention and the scenery of built-up areas, that is, it is important to maintain these functions by continuous refurbishments.

From the point of view, we conducted a research, which aimed to analyze the refurbishment cycles of exterior walls of detached houses and to grasp the actual situations of the refurbishments of exterior walls in four built-up areas in Tokyo.

As a result, it was revealed that the most prominent differences among the built-up areas had seen in the first cycle of refurbishment act. As refurbishment act had been done many times, differences among the built-up areas were decreasing. This is considered that the vicinity conditions of each built-up area had influenced.

Research on Capacity of Base Buildings of Residential Buildings

Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

In Japan, there is a huge number of residential buildings. Nowadays, it is becoming important to renovate these residential buildings from the point of view of sustainability of the built environment. The residential buildings in Japan accumulated with changing rapidly their qualities over time, that is, it is important to form a renovation plan according to the type of the residential building when renovation. Accordingly, we conducted a research on capacity of base building focused on super-high-rise residential buildings.

We revealed the design characteristics of dwelling units in super-high-rise residential buildings by comparing with the characteristics in mid- to high-rise residential buildings. Then following results were obtained from statistical tests and principle component analyses: There were significant differences in the dimensions in vertical cross section designing caused by structural

reasons, and in the distributions of room areas in plan designing caused by the lighting conditions of dwelling units. Furthermore, the dwelling units in super-high-rise buildings showed a tendency to be worse in design flexibility than dwelling units in mid- to high-rise buildings.

Environment harmonized building materials

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

As a study on building materials for indoor environmental improvement, a reduction effect of room air pollutant such as formaldehyde and re-release performance for various building interior finishing materials was clarified and the evaluation method of these performances was shown. In addition, a wall surface planting panel member made by a combination of porous concrete and the improved soil for cultivation was developed and the plant growth characteristic on the panel was clarified experimentally for a purpose to get good appearance and to reduce heat island phenomenon.

Color characteristic of landscape materials

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

Building external materials have to consider color harmony with neighboring environment. First, the influence of the color characteristic of the brick-like tile external wall finishing and of the natural stone external wall finishing on the impression evaluation was clarified. Next, a color characteristic of external wall finishing on the apartment of Tama New Town area was observed. Furthermore, the influence of a color characteristic of the apartment roof materials on the impression evaluation was clarified.

Durability improvement on high performance concrete

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

To clear the durability maintenance effect of a concrete structure after crack repairing is an important issue. In this study, a recovery and a maintainability of toughness for crack repaired normal concrete and fiber reinforced concrete of those caught deterioration action such as a freezing test and carbonation test was clarified. In addition, a self-strength recovery effect of cracked concrete with high water absorbing admixture was clarified.

Studies on Reuse System of Building Element

Makoto TSUNODA

The reusing of building elements that the small load given to the global environment is effective to build up sustainable society. And the building process suitable for the reuse system is embodied immediately. In this research from the view point of the demountability and removability, the material performance and the effective joint system for reusing of the building element, and the condition of the circulation center to collect and circulate of the building element were clarified. In addition, the reusing system of the building element was modeled, and the condition and the problem to operate the system were presented. Furthermore, the actual conditions of reusing of building elements in the transferred steel building were investigated, the problems in design, construction, deconstruction and transfer stage were found out.

Studies on Conversion Techniques of Public Buildings.

Makoto TSUNODA

In Japan, demolition and new construction based on declining in the durability and increased availability of buildings continues to be practiced. This practice is unfavorable from the viewpoint of utilization of the existing building stock. The conversion of existing public buildings can be quickly and flexibly support of demand of local residents. Therefore, conversion is an extremely effective technique leading preservation and improvement of the public property. In Tama City, public facilities were intensively constructed and in a relatively short period of time, while the population structure and needs are continuously changing. In this study, we grasped the public facilities analyzing its spatial representation of room functions and construction materials, grouping volumes with similar construction specifications in order to reorganize the public facilities providing a reuse technique.

By the municipality mergers, the office function of existing city hall were put together, as a result of surplus facility space had occurred. It is necessary to utilize the stock building for leading preservation and improvement of the public property. In this study, the actual conditions of using surplus space in the existing city hall were grasped, and the requirement for reorganization system of those facilities were found out.

Structural Engineering

Effects of Nonlinearity of ground upon seismic responses of buildings

Takao NISHIKAWA and Kazushige YAMAMURA

Assumed intensity of ground motion, soil condition and structural condition to be parameters, effects of nonlinearity of ground upon effective input energy are investigated. As a result,

1)In single degree of freedom system, total energy inputs to soil and structure is almost same as energy inputs on the assumption that damping is the structural damping and natural period is the period of soil-structure interaction system. 2)Amplification factor of energy by surface layer is effected by soil condition. And as intensity of ground motion becomes larger, stiffness of surface layer becomes lower and excellent period becomes longer.

As effects of surface layers upon effective inputs are various by intensity of inputs and nonlinearity of ground, nonlinearity of gourd should be estimated adequately.

Identification of vibration characteristics of Mid-to-high-rise Buildings on Soft Ground

Takao NISHIKAWA and Kazushige YAMAMURA

In mid-to-high rise buildings on soft ground, effect of soil-structure interaction are remarkable. So, for two buildings which are different in size, identification of the natural period and the damping of the system and identification of parameters of soil and structures in the soil-structure interaction system are conducted. And using the results of identification the seismic responses are estimated. As a result,

1)Decrease of natural period are mainly caused by rocking and increase of natural period are mainly caused by sway. 2)Assuming that only rocking exists, response of shorter direction in interaction system are sometimes higher than that in base-fixed system. 3)Vibration of shorter direction are mainly effected by rocking vibration, and deformation of structures is 30-40% in soil-structure interaction system.

As real behaviors of structures depend on vibration characteristics of structures and characteristics of seismic waves, response analyses of soil-interaction system are needed

Stochastic Analyses of Load Effects by Live Loads in Office Buildings

Kazushige YAMAMURA

Stochastic analyses of Load effects of live loads in office buildings are conducted. As a result,

1)Mean values of load intensity of slabs, equivalnet uniformly distributed load(EUDL) for fixed end bending moments to shorter direction and EUDL for elastic deflection are 720N/m/m, 930N/m/m and 700N/m/m respectivley, and 99 percentile values of them are 1800N/m/m, 2400N/m/m and 1800N/m/m respectively. 2)Values of load intensity and EUDL for fixed end bending moment to shorter direction shows higher correlation than that of load intensity and EUDL for elastic deflection. 3)Positions of the maximum elastic deflection caused by live loads vary widely. 4)The area reduction equation of live loads is demonstrated theoretically. 5)The area reduction tendencies of live loads are demonstrated theoretically. 6)The area reduction eauation in the standard law is safer than the area reduction tendencies estimated by real data.

Evaluation of Vertical Deformation for R/C Columns with Shear Mode Based on Concept of Failure Surface Contraction

Manabu YOSHIMURA

During past severe earthquakes, a number of R/C buildings designed by the old codes suffered heavy damages including collapse. To evaluate the seismic performance of old buildings for the ultimate limit state, it is important to study the nature of axial shortening for old columns subjected to earthquake loads. Half-scale model specimens with shear mode simulating old columns were tested until they came to be unable to sustain axial load. Using results of the tests, it was attempted to formulate the relations of vertical and lateral deformation based on the concept of failure surface contraction and theory of plastic flow.

Nonlinear Frame Analysis of Damaged R/C Structure Considering Deterioration of Column Strength

Manabu YOSHIMURA

A three-story R/C school building suffered severe damages during the 1994 Sanriku Haruka-Oki Earthquake. Most first-story columns failed in shear while second- and third-story members remained nearly intact. Nonlinear frame analysis was conducted to reproduce the observed damages to this building, where the load-deflection relations of columns including post-peak regions were determined based on test results. The analysis was found to reproduce the observed damages. The beams above the second floor level were computed to have once yielded but have been unloaded after shear failure of the first-story columns. The unloading of the beams that resulted from the decrease of each story shear following the deterioration of the first-story column strength was the reason of their observed slight damage.

Effect of Transverse Walls on Collapse of RC Columns with Shear Mode

Manabu YOSHIMURA and Takaya NAKAMURA

Seismic tests of shear failing RC columns with transverse walls were conducted. The tests were continued until the collapse. The effect of the transverse walls on the nature of shear failure up to collapse was studied. Test variables were with or without the walls, and amounts of longitudinal reinforcement. The major findings from the study are as follows: 1)Vertical cracks that occurred in the walls at drift angle 3 to 4% triggered axial load transfer from the walls to the column, leading to the column collapse., and 2)Lateral strength increased about 10% when the transverse walls were attached.

Inelastic Behavior of H-Shaped Beam-Columns subjected to Biaxial Bending Moment

Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

This study aims at obtaining the basic data required to establish a method for quantitatively estimating the energy absorption ability through making clear the type of rupture for H-shaped steel beam-columns as well as basic parameters controlling the energy absorption ability.

In the experiments, the bending moment was loaded by acting a horizontal force in a direction with an angle from the principal axis of the section. The values for the angle were set as 0 degree (strong bending moment), 30 degree, 60 degree, and 90 degree.

The following were obtained from the experiments.

1) With regard to the member deformation condition at the ultimate stage, four patterns for the loading lateral deformation and torsional deformation were confirmed. 2) A specimen subjected to an oblique load torsionally ruptured in such a state as the web axis approaches a direction at a right angle to the loading direction at the longitudinal center of the member. 3) The skeleton curve on positive and negative sides obtained from the cyclic loading curve for the specimen subjected to strong axial bending moment was lower than the monotonous loading curve. The skeleton curve for the other specimens was almost equivalent to the monotonous loading curve.

From the experiment results, the relationship between the conditions for both the specimen and the loading and the amount of the energy absorption was obtained.

Energy Response of Steel Moment Frames subjected to Strong Seismic Motion

Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Investigations into the ultimate seismic safety of a structure are carried out by comparing the energy input to each frame member during an earthquake with that which the member is able to absorb. Therefore, in order to quantitatively investigate the seismic safety of a structure, the distribution law of the seismic energy input to each member of the entire structure as well as the energy absorption ability of each member must be clarified. This study aims at studying a rational seismic design method based on the results obtained from the investigation of the distribution law of the seismic energy input to each member through carrying out seismic response analyses of the structural frame.

Based on the response analysis results, the effects of the following on the damage distribution were investigated. 1) Column to beam strength ratio, 2) Discontinuity of the strength distribution in a vertical direction, 3) Characteristics of the seismic wave, 4) Degree of energy input.

The results obtained from each can be summarized as follows:

1) A frame with a column to beam strength ratio of 0.77 or less nearly shows a weak column type behavior and a frame with 1.8 or more nearly shows a weak beam type behavior. 2) In a frame with a discontinuous strength distribution in a vertical direction, any damage is concentrated on the member of a story whose section varies. 3) There is no conspicuous difference in frame behavior caused by different seismic waves. 4) With an increase in the degree of the input, the concentration of damage can be reduced.

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures with Steel Dampers

Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Most of the theoretical, analytical and experimental studies on coupled vibration control structures have been carried out with regard to translational vibrations. There have been very few studies of torsional vibrations. In this study, the response behavior of coupled vibration control structures in the case of ground motions being input in a direction at a right angle to a line connecting the centers of gravity was investigated by conducting a shaking table test.

From the experiments, the following results were obtained.

1) Use of an appropriate damper can result in obtaining vibration control effects for the displacement of building springs located at the greatest distance from the connecting point where a displacement which is larger than that at the center of gravity occurs. 2) In the case of the

torsional response, no strong correlation between the yield strength of the damper and the response reduction effects is seen. This is different from the relationship in the case of the translational vibration response.

A series of response analyses of combined buildings were carried out changing their vibration characteristics and the characteristics of the dampers. Based on the experiment and analysis results, the condition of dampers with response reduction effects for both ground motion components in the direction of a line connecting the center of gravity of two buildings and those in a direction at a right angle to this line were studied.

Earthquake Resistant Performance of Prestressed Reinforced Concrete Plane Beam-Column Subassemblies

Kazuhiro KITAYAMA

Ten prestressed reinforced concrete plane beam-column subassemblage specimens, which had several ultimate prestress ratio, were tested under reversed cyclic loading. All specimens were designed to cause beam flexural yielding. Three failure types, however, were observed in the tests. A story drift angle at the peak shear capacity varied from 1.5 % to 2.9 %. For four specimens which were reinforced by deformed PC tendons and failed by beam flexural yielding, PC tendons ruptured after a story drift angle of 2 % and lateral story shear capacity descended remarkably. Residual flexural crack width at beam critical sections increased suddenly due to no tensile yielding but bond deterioration of beam longitudinal reinforcement or PC tendons.

Shear Crack Behavior and Damage Estimation of Precast Prestressed Concrete Beam-Column Joints Assembled by Post-Tensioning Steel Bars

Kazuhiro KITAYAMA

Shear crack behavior of beam-column joint panels in a precast prestressed concrete moment resisting frame, which is fabricated by connecting precast beams and a column through beam PC tendons, was investigated using some test results. Diagonal shear crack width in a joint panel can be regarded as one of damage index since it was proportional to joint shear distortion. Prestress introduced in precast beams restrained diagonal shear crack width in a joint panel from opening widely.

Seismic Resistance of Reinforced Concrete Frame Strengthened by Multi-story Steel Brace under Three-dimensional Earthquake Loading

Kazuhiro KITAYAMA

For seismic retrofit of existing reinforced concrete (R/C) buildings, steel braces with perimeter steel rims are often installed into moment resisting open frames in Japan. The influence of two failure patterns of the braced frame, i.e., the base uplift failure of the braced frame and the flexural failure at the bottom of the braced frame caused by tensile yielding of all longitudinal bars in a R/C edge column beside the steel brace, was studied on earthquake resistant performance of strengthened buildings by nonlinear earthquake response analyses under three-dimensional earthquake excitations. Typical R/C school building with four stories and five spans in longitudinal direction and one span in transverse direction was used in the analysis. A multi-story steel brace was placed at the center of a longitudinal frame. Response drift at each story was

restrained by the flexural failure at the bottom of the braced frame. On the contrary, response drift at a first story increased due to the base uplift failure comparing with that in original R/C building without a multi-story steel brace although the uplift failure caused uniform response drift at each story. Axial load in R/C edge column beside the steel brace varied widely in a building failed by the flexural yielding at the base of the braced frame, reaching the compressive axial stress ratio of 0.57 and tensile yielding of all longitudinal bars.

Field Research for Interrelation between Seismic Rehabilitation Design and Architectural Planning

Kazuhiro KITAYAMA

After Hyogo-ken Nanbu Earthquake in 1995, seismic performance estimation and earthquake resistant retrofitting is carried out actively for existing R/C school buildings which were designed according to old seismic provisions in Japan. An elementary school building was inspected in 2005, which was retrofitted by attachment of a ductile moment resisting R/C frame outside the building and where extensive rehabilitation applicable to new form of school education was executed simultaneously. The effectiveness of the rehabilitation and the actual usage of the school building were investigated.

Investigation on the Vibration Characteristic of Timber Pagodas

Kaori FUJITA

Experimental research is operated to reveal the vibration characteristics of traditional timber pagodas in Japan. This year earthquake monitoring using 8 accelerograms is operated, and the seismic performance of the pagoda is identified through analytical consideration based on the results of earthquake monitoring. 1/5 scale model of an existing traditional timber pagoda was subjected to shaking table tests in Tsukuba, 2004. The results of the experiment is analised in detail and the vibration characteristics are revealed quantitatively.

Structural Reinforcement of Existing Timber Detached Houses

Kaori FUJITA

Seismic evalutaion of existing timber detached houses is operated together with micro tremor measurement. This year the structural reinforcement method, which the authors developed in 2004, was applied to an existing timber house. The construction method was recorded in detail and the application of the structural reinforcement method is discussed.

Structural Performance of Traditional Timber Structures in South Eastern Asia

Kaori Fujita

The structural performance of traditional timber structures in southeastern asia is clarified quantitatively. This year structural analysis of the traditional timber house in Northern Vietnam, which was subjected to a full scale static lateral loading test and static vertical test in 2004 was operated. The structural performance was obtained and discussed based on the analytical results.

Environmental Engineering

A Study on Performance Values of Windows for Thermal Load Calculation

Hisaya ISHINO

This study proposed the thermal performance values for conventional windows, air-flow windows (AFWs) and push-pull windows (PPWs). The solar heat gain coefficients together with the transmittances, the overall coefficients of heat transfer and the long-wave radiation factors were presented for conventional windows and the correction values were presented for AFWs and PPWs. The thermal performance values of conventional windows are corrected to obtain those of AFWs and PPWs. Using the presented performance values, the longwave- and shortwave-radiative portions and convective portion of heat gain through windows can be estimated.

Proposal of the t-x Basis and the t-Jh Basis Heating Design Weather Data

Hisaya ISHINO

This study proposed two types of heating design weather data, the t-x basis data and t-Jh basis data. They were produced from the weather values on the extreme-weather days selected out of Expanded AMeDAS weather data from 1981 through 2000 using the two weather indices. The extremity of the proposed design weather data were evaluated obtaining the cumulative frequencies of occurrence of the daily weather values and the probabilities of occurrence of the thermal load exceeding the heating design load calculated with the proposed weather data.

Characteristic Study on Meteorological Elements effect on Separation of Global Irradiance

Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO

The several error factors are included in the separations of global solar irradiance into direct and diffuse components, and the factor of short-term solar fluctuation is taken as an example.

We propose the new index for properties of short-term solar fluctuation, and indicate the characteristics how the index is occurred in actual and virtual weather conditions. We examine the round off errors of peak integrating solar irradiance, the prediction accuracy of direct-to-global irradiance, etc., with much of short-term fluctuation.

Development of Optimal Water Supply System in Buildings

Noriyoshi ICHIKAWA, Yoshiharu ASANO (Shinshu Univ.)

Water supply system in buildings can be classified into two types of system, the direct supply system (Direct system, Direct Booster Water Supply[DBWS] system) and the receiving tank system(Elevated Storage Tank system, Pressure Tank system, Booster Pump system). The DBWS system was introduced for middle scale buildings in Japan about 10 years ago. The DVWS system has many advantages, but, however, the actual situation after adoption of this system is unidentified.

This year, we did questionnaire investigation and clarified the reality after having adopted the DVWS system. In addition, I examined about the construction of the model of the design quantity of water consumption by the estimated maximum value and so on.

Study on the Cold and Hot Water Use in Houses

Noriyoshi ICHIKAWA, Masayuki MAE (Univ. of Tokyo), Motoyasu KAMATA (Univ. of Tokyo), Akihiko IIO (Japan Women's Univ.)

Family composition and life-styles of individual keep diversifying by falling birthrate, aging, and so on. It is expected that cold and hot water usage pattern is changed along with that. On the other hot water occupies one third of total residential energy consumption, and development of energy efficient hot water system is critical. For that purpose, the grasp of actual usage is becoming more important.

This year, we surveyed that by questionnaire concerning the cold and hot water use in dwelling houses. And hot water consumption is measured in 74 houses, and tendency is analyzed especially on its average and seasonal, daily, time fluctuation.

Study on Countermeasure to Legionella in the Public Bath Facilities

Noriyoshi ICHIKAWA, Fumitoshi KIYA (Kanagawa Univ.)

In Japan, Legionellosis infectious disease has been a serious problem in big bathtubs with water circulation system installed in hotels, spa, public bath, training facilities etc.. Legionella occurs in the bathtub by various causes. It can be supposed that a bathtub has such infectious risk when water is stagnant in it.

This year, we analyzed it about an experiment and investigation to clarify flow phenomena in the bath-tub. The examination was carried out in the model bath-tub, and an existent spa facility. The model bath-tub was 2m wide, 3m long, and 0.8m depth, and has 4 outlet changing use each other, and a pump changing flow rate from 50 L/min to 100 L/min. Visualized flow was get by 2 video cameras from upward and forward and analyzed.

Research on Bioclimatic Architecture and Natural Energy Utilization Method

Nobuyuki SUNAGA

For the benefit of preserving global environment, the effective use of energy consumed in architecture and the utilization of natural energy are indispensable factors for architectural design. Furthermore to popularize Passive and Low-Energy Architectures which are buildings designed by considering energy conservation and natural energy utilization, it is necessary to clarify the actual performance of them and to establish evaluation methods for them which are simple and widely acceptable for the public. Our laboratory has been engaged in the research of these themes.

In this academic year, we carried out following studies.

- 1) Roof Water Flow Radiant Cooling System: As the results of experiments using subjects, it was clarified that this system with the aluminum ceiling radiant panel can provide comfortable built environment.
- 2) Solar Floor Heating System with Water Floor: The effects of mechanical night ventilation, water flow on roof and wind ventilation on summer indoor climate were examined by experiments using the solar house in our campus.
- 3) Radiant Cooling System Utilizing the Earth Heat: The thermal comfort of the radiant cooling system combined with the dehumidification-type vertical panel and the cooling system utilizing the earth heat was examined by experiment using subjects.

- 4) Ceiling Pipe Cooling System: The cooling performance of the ceiling pipe cooling system, which have newly developed ceiling pipe, was experimentally monitored and examined.
- 5) Evaluation Method for the Bioclimatic Houses: Concerning the evaluation method that can evaluate the thermal comfort of resident with considering the behavior of them, experiments using actual house and subjects were carried out in three seasons.
- 6) Investigation Research on Energy Consumption of Eco-Schools granted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology - Comparison of Eco-Schools and General Schools in Tokyo - : As the results, it is shown that the energy consumption of the Eco-Schools in Tokyo is larger than that of general schools, and so on.
- 7) Effect of the Roof Planting and Vertical Planting on the Indoor Climate of Classroom: It is shown that the summer thermal environment in classroom without air-conditioning system is harsh, but the shadings using plants are effective to improve them.
- 8) A Renovation of RC Detached House by Outside Thermal Insulation: We validated the energy-saving effect and the upgrading residence comfort by outside insulation improvement.
- 9) Case study on RC Building Renovation by Inside Thermal Insulation: We investigated design process of a RC building renovation. Especially, we discussed the effect of inside-thermal insulation on heating/cooling load and indoor climate by computer simulation.
- 10) Improvement Proposal for Densely Crowded Wooden-housing Area: Thermal environment of several densely crowded wooden-housing areas in Tokyo were measured. As a result, it was considered that the road width, the road surface material, the exhausted heat from cooling unit and the occasional watering the road are affecting the thermal environments in these areas.

Identification of Hygrothermal Characteristics of a Residential Building

Akihiro NAGATA

Today, the method to predict the hygrothermal environment of a residential building is advancing remarkably. On the other hand, the evaluation of the hygrothermal performance when completed is disregarded. For example, the coefficient of heat loss and the coefficient of solar heat gain are adopted as the fundamental indices of the thermal performance according to the Japanese criteria of the energy conservation, but the criteria refer only to the calculation methods when the thermal performance of building elements is known. The in-situ measurement of thermal transmittance of each element is also importance. Last year, we proposed the method to measure the thermal transmittance by using heat flux sensors and a sheet heater. This year, the accuracy of the method was investigated by both experiments and simulations.

Simple Method to Predict Thermal Loads

Akihiro NAGATA

Building components are exposed to temperature change at all times from the start of the construction until the end of the destruction. Thermal load, which is defined as the temperature that causes the effect on buildings, should be considered for certain building structures at the design stage. The temepratures of building components are vary according to the climatic conditions such as outdoor air temeprature and solar radiation, indoor air temeprature and the construction of the components, therefore, these can not be uniformly determined. In this study, we investigated the development of the weather data and the application for the multi-layered planar wall.

Urban space and environment

Development of Planning Methodology on Urban Reconstruction Plan after Earthquake and Promotion of Community-based Recovery

Itsuki NAKABAYASHI, Taro ICHIKO, Shin Aiba and others

It is necessary to prepare recovery and reconstruction measures before a disaster learning from Kobe Earthquake. We are developing a methodology on urban reconstruction planning and promotion of community-based recovery in damaged districts, in a model study of Tokyo.

Comparative Studies on reconstruction processes after Earthquake among Marmara Erathquake in Turkey, Chi-chi Earthquake in Taiwan and Hanshin-Awaji Earthquake in Japan

Itsuki NAKABAYASHI, Taro ICHIKO, Shin Aiba and others

There are characteristic processes of urban reconstruction after earthquake in Taiwan and in Turkey. We studies comparatively these reconstruction processes in Turkey, Taiwan and Japan, in order to build more effective reconstruction measures after earthquake.

Development of strategic countermeasures against the next Tokyo's Earthquake and Promotion of Community-based Mitigation Projects.

Itsuki NAKABAYASHI

I am clarifying the characteristics of Tokyo Earthquake as "super Urban Earthquake Disaster" in order to promote developments of various strategic countermeasures and community-based mitigation projects, especially in crowdedly built-up districts of wooden houses in Tokyo.

A Study on the Relation between Urban Analysis and Urban Planning

Hidenori TAMAGAWA

The research is continued to find out the relation between analyses and planning of urban physical pattern.

This year, comparative study with IGN in France about GIS integration and data sharing is conducted and the new classification of empirical cityscape is developed in respect of the viewpoint places.

Research on Social and Environmental Factors and Policies on the QOL of urban residents.

Hidenori TAMAGAWA, Itsuki NAKABAYASHI and Taro ICHIKO

As one of the most serious problems, the distribution trend and the place character of urban crimes are analyzed. By the statistical analysis and empirical study, we propose the new QOL concepts associated with the nature of urban place

Development of the neighborfood community-training program for post-disaster recovery

Taro ICHIKO, Itsuki NAKABAYASHI, Shin AIBA

The objective of this study is developing inhabitants, administration, training technique to make the indirect damage reduction from a viewpoint of "pre-disaster planning" ahead of a serious damage assumption by a capital earthquake directly above the focus.

In this year, we developed some training methods in Shinkoiwa, Katsushika-ku district. In addition, we developed training technique through training administration support for Hachioji-shi.

A study of the community based disaster management (CBDM) in Tokyo

Taro ICHIKO

The community based disaster management (CBDM) has been more promoted recent days. To promoting this activity, residential environment index was indispensable for diagnosing, plan making and accord of implementation results.

In this year, a tentative choosing model was developed. The crux of this model was to distinguish of two view positions. Those are (1) equity from bird eyes and (2) availability from people's living scale. This distinction implies that it is important to try to standardize a datum handling of the residential environment index and to work out as a custom-made style by urban planners

Urban community and society

Health status in urban area of Tokyo and making clear the factors which contribute the healthy life for the aged people in urban city.

Tanji HOSHI

The purpose of this study is to make clear the yearly trend of the health status in urban city and determine which have the validity for the survival rate of the dwelling elderly for several years followed up in urban city..

Study on Administrative Decentralization and Local Governance in Japan

Masami HAGAI

The objective of this study is to clarify the meanings of changing local government system and to consider inevitable conditions of local governance from the point of view of local autonomy and subsidiarity.

Study on municipalities (communes) and inter-governmental relations in France

Masami HAGAI

The objective of this study is to consider the inter-governmental relations and to research on the possibilities of regional development based on partnership of small municipalities, prefecture, region and Central Government.

This year, I carried out research on Lyon metropolitan area as a suggestive and successful case.

List of Research Activities in 2005

Architectural Planning/ City Planning

A Study on the Actual Conditions of School – Community Facilities Complex in Tokyo

Kiyoshi Saito, Jun Ueno

AIJ Journal of Technology and Design, No.24, pp.249-254, Jun., 2005

Environment and Resident Individual's 'Particular Place' and Change of it in a Group Living for People with Dementia Based on Consecutive Research

Asuka Yamada, Jun Ueno

Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.592, pp.93-100, Jun., 2005

Relation Between Setting of Individual's Room and Public Space and the State of Staying in a Reclamation Facilities with Group Living Method for Mental Defectives

Asuka Yamada, Jun Ueno

Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.595, pp.57-64, Sept., 2005

Investigation on the Programs and the Activities of the Elderly at Day Service Centers in Tama-City

Namiko Bojo, Asuka Yamada, Jun Ueno

AIJ Journal of Technology and Design, No.22, pp.409-414, Dec., 2005

A Study of the Transition in Autonomy of the Residents and the Changes of Private Rooms Utilization in the Nursing Home

Yuki Ashizawa, Jun Ueno

Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.600, pp.17-24, Feb., 2006

A Study on the Living Environment for Elderly in Housing Estate

- About the life style and housing environment of the elderly in housing estate of Tama Newtown (1)

Taka Kato, Masumi Matsumoto, Jun Ueno

Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.600, pp.9-16, Feb., 2006

A Study on the Relationships between Behavior and Territories of Elderly in "Care Retirement House"

Daisuke Isaji, Jun Ueno

Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.601, pp.39-46, Mar., 2006

Environmental Design for the Aging Society : Sustainable Environment for Facilities and Community

Jun Ueno

Kashima, 176p, Nov., 2005

Urban simulation by a multi agent system considering emergence and agglomeration of vacant buildings in urban decline process and effect of empty space on commerce

Yosuke ANDO (Former Tokyo Metropolitan University), Keiji YOKOTA (Former Tokyo Metropolitan University) and Tohru YOSHIKAWA

Journal of the City Planning Institute of Japan, No.40-1, pp.51-59 (April. 2005) (in Japanese)

Basic Knowledge of Tama New Town - Future Population Projection of Tama City by the Cohort Change Rate Projection Method

Kazuki YANAGISAWA, Miki ARIMOTO (Former Tokyo Metropolitan University) and Tohru YOSHIKAWA

Tama New Town Research, No. 7, pp. 62-63 (Apr. 2005) (in Japanese)

A Study on Three-dimensional Space Structure of Shiodome as an Urgent Urban Renewal Area in Terms of Distribution of Accessibility

Eiji SATOH and Tohru YOSHIKAWA

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transaction of Architectural Institute of Japan), No.593, pp.153-158 (Jul. 2005) (in Japanese)

Quantitative Analysis of Accessibility to Public Facilities from the Viewpoint of Residents - A Case Study at Suwa, Tama City-

Eiji SATOH, Kazuki YANAGISAWA and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1, pp.1173-1174 (Sep.2005) (in Japanese)

A Computer Simulation on the Distances of Visitors to Day Service Facilities for the Elderly

Kazuki YANAGISAWA and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1, pp.1159-1160 (Sep.2005) (in Japanese)

Situation of Visitors to Community Facilities in terms of Numbers of the Visitors and Occupancy Rate - A Case Study of Spaces for Reservation in Community Centers of Tama City-

Miki ARIMOTO (Former Tokyo Metropolitan University) and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1, pp.631-632 (Sep.2005) (in Japanese)

Quantitative Analysis of the Form of Openings along the Street Taking Transparency of Windowpane into Consideration

Satoru KONDO and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1, pp.177-178 (Sep.2005) (in Japanese)

Accessibility to Community Facilities Considering Topographical Features and Changes in Physical Strength by the Age of Residents

Eiji SATOH and Tohru YOSHIKAWA

Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2005, pp.195-206 (Oct.2005)

A Method of Rearrangement Planning of Community Facilities Utilizing Existing Public Buildings in Matured Suburban Residential Areas: A Case Study in Tama City

Tohru YOSHIKAWA, Miki ARIMOTO (Former Tokyo Metropolitan University), Kenji TAKEMIYA and Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference Tokyo, pp.3664-3671 (Sep.2005)

Formulation of routes and load of quest for objects in urban space with excessive visual information - A case study of searching goods in Akihabara -

Kazuki YANAGISAWA and Tohru YOSHIKAWA

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transaction of Architectural Institute of Japan), No.597, pp.127-133 (Nov.2005) (in Japanese)

Case study on perinatal care system in K local government Study on re-arrangement of perinatal care facilities

Michi Kobayashi, Kenji Takamiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ
p.257-258, Sep.2005, (in Japanese)

A basic study on sheltered care settings for sick children and their family in pediatric care

Mikako Ishizawa, Kenji Takemiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ
p.263-264, Sep.2005, (in Japanese)

Study on care system of Children's Hospice in the U.K. Study on the sheltered care settings of Children's Hospice (2)

Kenji Takemiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ
p.269-270, Sep.2005, (in Japanese)

A basic study on care system and milieu for the elderly to live on their own community

Michikazu Kitamura, Kenji Takemiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ
p.327-328, Sep.2005, (in Japanese)

Aspects of daily activities and their changes caused by refurbishment in small residential home with plural services for the elderly Case study on K-home that has separated daily spaces

Masakazu Takao, Kenji Takemiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ
p.383, Sep.2005, (in Japanese)

Comparative study on formulation and enforcement of universal design architectural guidelines

issued by local governments

Naoaki Miyata, Kenji Takemiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.485-486, Sep.2005, (in Japanese)

Basic study on re-arrangement the functions and space of the elderly center on building stocks in urban area -A case study in kanda Area in Chiyoda Ward-

Noriyuki Shinoda, Kenji Takemiya

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.471-472, Sep.2005, (in Japanese)

Method of reorganizing community space and functions in building stocks -Case study on public facilities in Tama City-

Kenji Takemiya, Satoru Yokota, Makoto Tsunoda, Tohru Yoshikawa, Ryouko Kurakazu

Proceeding of the 76th Architectural research meetings

2005, Kanto Chapter, AIJ, March. 2006,(in Japanese)

Current condition of care system and sheltered care settings of Children's Hospice in the U.K.

Kenji Takemiya

Proceeding of the 6th children's hospital environment research meetings

p.9-11, 2005, ,(in Japanese)

Science of local partnerships

Shigeru Satoh and Shin AIBA et al ,

Seibundo (2005/11)

White paper of Tokyo II

Shin AIBA and Hisao Itoh et al. ,

Dai-ichi Syorin (2005/4)

The development history of the machizukuri method in Japan after the 1960s

Shin AIBA Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2005 Korea Planners

Association (2005/10)

The case study of the sustainable future images of high-density central area of Tokyo

Shin AIBA,Junko MIYAMOTO,Yoshihiro KOSAKO,Kunio TAKAMIZAWA Proceedings of 2005

World Sustainable Building Conference in Tokyo, pp.3768-3773,SB05 National Conference Board

(2005/9)

Residential Reuse of Modern Office Towers in America and Current

Trend of Conversion (in Japanese)

Naoki KUROKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., F-2, pp.

385-386 (Sept. 2005)

Architecture and townscape of America (lecture in Japanese)

Naoki KUROKAWA

OZONE seminar for the professionals (Feb. 2005)

Architectural Design and History

Design Possibilities of the Architectural Conversion –Recent Works in Italy-

Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA, Tetsuya MITAMURA, Takeshi SHIBASHI, Hitoshi OGAWA, Sunao CHIGA

Space Design, Dec. 2005, pp.69-100

Between Theory and Design in Architecture

Katsuhiro KOBAYASHI

Symposium of Dept. of Architectural History and Design, Annual Meeting, Architectural Institute of Japan(Kinki), Aug. 2005, pp.1-7

A Case Study of the Offices Renovated for Independent Worker

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 647-678 (Aug. 2005) (in Japanese)

Analysis on the design method of Sir John Vanbrugh –Comparison between the drawings in Kings Weston Album and Elton Hall Album

Akira KINOSHITA, Katsuhiro KOBAYASHI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 735-756 (Aug. 2005) (in Japanese)

A Study of the changing criticisms on Louis H. Sullivan's works

Takeshi SHIBASHI, Katsuhiro KOBAYASHI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 577-578 (Aug. 2005) (in Japanese)

Analysis on the Movement of Italian Modern Architecture published in CASABELLA – Classicism and Modernism under Italian Fascism-

Takeshi NAMURA, Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 617-618 (Aug. 2005) (in Japanese)

Consideration about the esthetic of Andre Lurca's architectural works focusing on the plans of apartment housing between 1934 and 1937

Tomoko KAWAI, Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 579-578 (Aug. 2005) (in Japanese)

Jointing Technique of Traditional Timber Structures in Vietnam

Yukimasa YAMADA, Thi Que Ha TRAN

AIJ Journal of Technology and Design, No.21, pp.355-360 (Jun. 2005) (in Japanese)

Loading Tests on Full Scale Frame Model of the Traditional House in North Vietnam

Ayumi YAMAGUCHI, Kaori FUJITA, Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha, Isao SAKAMOTO
AIJ Journal of Technology and Design, No.21, pp.105-108 (Jun. 2005) (in Japanese)

Medieval Cairo viewing from Housing History in Islam

Yukimasa YAMADA

Proceeding of the Symposium of the Urban History Committee, A.I.J., pp.14-19 (Dec. 2005) (in Japanese)

The Dwelling State in the Districts of Trung Tu and Kim Lien —Studies on the Rehabilitating Method of Collective Housing Estates in Hanoi, Vietnam (1)

Yukimasa YAMADA, So FUJIE, TRAN Thi Que Ha, Osamu NISHIDA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., E-2, pp.23-24 (Sep.2005) (in Japanese)

Processes and Methods of Housing Repair in the Districts of Trung Tu —Studies on the Rehabilitating Method of Collective Housing Estates in Hanoi, Vietnam (2)

So FUJIE, Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha, Osamu NISHIDA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., E-2, pp.25-26 (Sep.2005) (in Japanese)

Remodeling of Spaces equipped with Waterworks in the Districts of Trung Tu and Kim Lien —Studies on the Rehabilitating Method of Collective Housing Estates in Hanoi, Vietnam (3)

TRAN Thi Que Ha, Yukimasa YAMADA, So FUJIE, Osamu NISHIDA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., E-2, pp.27-28 (Sep.2005) (in Japanese)

Reconstructing the Eastern Sector of Old Saida — Based on the Map Originally Presented by Ernest Renan in 1864

Abdul Latif ZOYA, Yukimasa YAMADA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., F-2, pp.435-436 (Sep.2005) (in Japanese)

Ashihara Elementary School

Coelacanth and assocciaits

The Nikkan Kensetsu Kogyo Shimbun , No.16256, The Nikkan Kensetsu Kogyo Shimbun, (Mar.2005) (in Japanese)

heat storage wall (project: Open Ended House)

Masao Koizumi + mejiro studio

DETAIL, Vol.164, Shokoku-sha press, pp.36(Oct. 2004) (in Japanese)

water proofing (project: Open Ended House)

Masao KOIZUMI + mejiro studio

DETAIL, Vol.164, Shokoku-sha press, pp.50-51(Oct. 2004) (in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

GA JAPAN , No.74, A.D.A.EDITA Tokyo, pp.66-75(May 2005) (in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

the Japan Architect, Vol.80, Shin-Kenchikusha, pp.98-111(May 2005) (in Japanese)

Architect's kitchen

Masao KOIZUMI

Amenity & Electrification, No.17, Japan Industrial Publishing, pp.6-8(May.2004) (in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier C+A

Nikkei Architecture special, extra, Nikkei Business Publications, pp.14-20(May2004) (in Japanese)

Project Open Ended House

Masao KOIZUMI, mejiro studio

Design Electric House, Ei Publishing,pp22-27 (May.2005) (in Japanese)

Cofferred arena (project:Ashihara elementary school)

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier C + A

DETAIL, Vol.165, Shokoku-sha press, pp.36-37(Jui. 2005) (in Japanese)

Project M house

Masao KOIZUMI,4MET

CAD&CG magazine , Vol.76, X-Knowledge Co.,Ltd., pp.54(Jul.2005) (in Japanese)

Project Open Ended House

Masao KOIZUMI, mejiro studio

Perspective of contemporary architecture, Kobunsha Co.,Ltd., pp.182-186(Jul. 2005) (in Japanese)

Project Open Ended House

Masao KOIZUMI, mejiro studio

Pen, No.156, Hankyu Communications Co., Ltd, pp.48-51(Jul. 2005) (in Japanese)

Masao Koizumi

Masao KOIZUMI,

pecha-kucha night24, No.24, Klein Dytham architecture, (Jul.2005) (in English)

Energy solution fair

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier

SHITSUNAI, Vol.719, Kosaku-sha, pp.38-41(Sep. 2005) (in Japanese)

architectural design(Project Ashihara elementary school)

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier C+A

The Kenchiku Gijutsu, Vol.665, X-Knowledge Co.,Ltd., pp.66-90(Sep.2005) (in Japanese)

Project Open Ended House

Masao KOIZUMI, mejiro studio

the house of architect, EI Publishing, pp.60-63(Oct.2005) (in Japanese)

Molding House

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

BOB magazine, No.10, International Magazine of Space Design, pp.166-171(in English)

Project Open Ended House

Masao KOIZUMI, mejiro studio

House which an architect thinks about in the future, Tokyo Electric Power Company, pp.32-35(Oct.2005) (in Japanese)

File3 “House where comfortable wind flows”

Masao KOIZUMI, mejiro studio

SATISPHERE3, INAX, pp.6(Nov.2005) (in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier C+A

School amenity, Vol.236, Voix, pp.34-35(Nov.2005) (in Japanese)

Possibility of conversion

Masao KOIZUMI, Tokyo Metropolitan University

SD, Kajima Institute Publishing Co.,Ltd. , pp.84-87(Dec.2005) (in Japanese)

A changing family, the house which change

Masao KOIZUMI

Memo, Vol.64, WORLD PHOTO PRESS Co.,Ltd. , pp.48-51(Dec.2005) (in Japanese)

Space gradually connected each other

Masao KOIZUMI

Nile's NILE, No.106, NILE'S Communications Co.,Ltd. ,pp.92-93(Dec.2005)

“Honnori Bed”

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier

BankART Life, Vol.1, BankART1929, pp.30-31(Dec.2005)

Ogata

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier

JT, Vol.238, Shin-Kenchikusha, pp.114-120(Jan.2006) (in Japanese)

Open Ended House

Masao KOIZUMI/KOIZUMI atelier

JT, Vol.229, Shin-Kenchikusha, pp.120-121(Mar.2006) (in Japanese)

A study on the reinforcement of opening in existing wood house with consideration of permeability

Soutaro TAKAHASHI, Kaori FUJITA, Masao KOIZUMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan 2005,
structures 3

IZU ANNEX

Osamu NISHIDA Seiichi FUKAO Masao KOIZUMI

NIKKEI ARCHITECTURE, No.816, Nikkei Business Publications, Inc, pp. 40-45 (Feb.2006) (in
Japanese)

HOUSE in SHIMOKITAZAWA

Osamu NISHIDA

NIKKEI ARCHITECTURE, No.816, Nikkei Business Publications, Inc, pp. 50-51 (Feb.2006) (in
Japanese)

HOUSE in TUJIDO

Osamu NISHIDA

ARCH & DÉCOR, No.3, Ei Publishing Co.,Ltd, pp 62-63(Apr.2005) (in Japanese)

ANTI-VERTICAL WALL HOUSE

Osamu NISHIDA

Design electric house, No.1029, Ei Publishing Co.,Ltd, pp 52-55((Jun.2005) (in Japanese)

Unde29 CREATOR

Osamu NISHIDA

AERA, NO.972, The ASAHI SHINBUN Company, pp 84-85(Feb.2006) (in Japanese)

ROJI-HON

Osamu NISHIDA ROJI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan
University

Paper Publications, Inc, all 64pp(Jul.2005) (in Japanese)

What's KITANAKA

Osamu NISHIDA

TITLE, No.10, BUNGEISYUNJYU Ltd. ,pp 46-47(Sep.2005) (in Japanese)

The philosophy about 9tubo house

Osamu NISHIDA

TITLE, NO.10, BUNGEISYUNJYU Ltd. ,pp 94-95(Sep.2005) (in Japanese)

Kaleidoscope house

Osamu NISHIDA

TITLE, NO.10, BUNGEISYUNJYU Ltd. ,pp 61-62(Sep.2005) (in Japanese)

The house of architect [NISHIDA HOUSE]

Osamu NISHIDA

The house of architect 2, No.1082, Ei Publishing Co.,Ltd, pp 116-119(Sep.2005) (in Japanese)

Book information [ROJI-HON]

Osamu NISHIDA ROJI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University

Jt , No.234, Shinkenchiku-sha, pp 13(Sep.2005) (in Japanese)

LOW COST & HIGH QUALITY [Kaleidoscope house]

Osamu NISHIDA

DESIGN LIVING, No.1162, Ei Publishing Co.,Ltd. , pp 56-59((Apr.2005) (in Japanese)

WHAT'S UP [ROJI-HON]

Osamu NISHIDA ROJI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University

LIRUX, No.102, MAGAZIN HOUSE Ltd. , pp 133(Aug.2005) (in Japanese)

MIX & MASH INFOTAMENT[ROJI-HON]

Osamu NISHIDA ROJI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University

BRUTUS, No.576, MAGAZIN HOUSE Ltd. , pp 162(Aug.2005) (in Japanese)

PINEAPPLE HOUSE

Osamu NISHIDA

Monthly HOUSING, No.234, RECRUIT, pp 6-7(Apr.2005) (in Japanese)

The 9 architects, the 9 weekend houses [HAYAMA weekend house]

Osamu NISHIDA

HOSHI-RESORT, No.20, RECRUIT, pp 12-13(Oct.2005) (in Japanese)

BOOK INFORMATION [ROJI-HON]

Osamu NISHIDA ROJI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University

NIHON KEIZAI SHIMBUN, No.43003, Nihon Keizai Shimbun, Inc., pp 37(27th Oct.2005) (in Japanese)

The RE-USE of unused ground in Kanda

Osamu NISHIDA KUCHI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University

NIHON KEIZAI SHIMBUN, No.42998, Nihon Keizai Shimbun, Inc., pp 39(22nd Oct.2005) (in Japanese)

The excitement into the buildings

Osamu NISHIDA KUCHI-SAISEI Team The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University

SANKEI SHINBUM, No.22594, SANKEI SHIMBUN Inc. ,pp 27(8th Sep.2005) (in Japanese)

KANAGAWA ARCHITECTURE CONTEST Vol.50 REVIEW [Kaleidoscope house]

Osamu NISHIDA

KENSETSU TSUSHIN SIMBUN, No.15485, The Kensetsutsushin Shimbun Corporation, pp 6(28th Sep.2005) (in Japanese)

The use technique on common part in office building

Osamu NISHIDA

KENSETSU TSUSHIN SIMBUN, No.15498, The Kensetsutsushin Shimbun Corporation, pp 5(17th Nov.2005) (in Japanese)

KANAGAWA ARCHITECTURE CONTEST Vol.50 REVIEW [Kaleidoscope house]

Osamu NISHIDA

KANAGAWA SHIMBUN, No.22758, KANAGAWA SHIMBUN SYA, pp 12(27th Sep.2005) (in Japanese)

Construction Management and Building Materials

Development of the Renovation Technology of Existing Residences for Elderly People Part 2

Shuichi MATSUMURA (The University of Tokyo), Seiichi FUKAO, et al.

AIJ J. Technol. Des., No. 21, pp. 235-238 (Jun. 2006) (in Japanese)

A Study on the Building Construction Systems if the Refurbishment Works at the One-unit-at-a-time in Multi-unit Residential Building

Tsuyoshi ARAHIRA (Research Institute of Architecture), Kozo KADOWAKI and Seiichi FUKAO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 65-68 (Selected Papers) (Sep. 2005) (in Japanese)

A Survey on Needs for Improvement and Remodeling of Public Rental Apartment Dwellers: The Difference of Remodeling System between Lead of Owner and Resident

Akane IMAI, Seiichi FUKAO, Hidekazu FUJIMOTO (Building Research Institute), Masumi MATSUMOTO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-2, pp. 227-228 (Sep. 2005) (in Japanese)

Actual Condition of the Extensions and Alternations Focused on Appearance Changes of Industrialized Detached Houses: A Research on the Extensions and Alternations of Industrialized Detached Houses Built in 1970s, Part I

Sachiko KUSANO, Seiichi FUKAO, Kozo KADOWAKI and Shigeki SAITO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-2, pp. 307-308 (Sep. 2005) (in Japanese)

Questionnaire Survey on the Extensions and Alternations on Industrialized Detached Houses: A Research on the Extensions and Alternations of Industrialized Detached Houses Built in 1970s, Part II

Shigeki SAITO, Sachiko KUSANO, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-2, pp. 309-310 (Sep. 2005) (in Japanese)

The Classification and Achievements of Outside Insulation Methods: The Actual Conditions of Manufactured Products for Outside Insulation in Multi-unit Residential Buildings, Part I

Kenichi NISHIKAWA, ZHANG Yu (CII), Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 747-748 (Sep. 2005) (in Japanese)

Problems and Characteristics of Outside Insulation Construction: The Actual Conditions of Manufactured Products for Outside Insulation in Multi-unit Residential Buildings, Part II

ZHANG Yu (CII), Kenichi NISHIKAWA, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 749-750 (Sep. 2005) (in Japanese)

A Research on the Exterior Walls Improvement with Special Reference to the Façade Construction: Comparison of Reconstruction and Repair

HEO Gwangbeom, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 825-826 (Sep. 2005) (in Japanese)

Actual Conditions of Elevators Addition to the Aged Public Housing in Japan and a Proposal of an Alternative Method

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo "Action for Sustainability (SB05)" (CD-ROM), 6 pp., Tokyo, Japan (Sep. 2006)

Comparative Analyses of Design Characteristics of Dwelling Units between Super-high-rise and Mid- to High-rise Residential Buildings

Kozo KADOWAKI and Seiichi FUKAO

J. Archit. Plann., AIJ, pp. 73-80 (Mar. 2006) (in Japanese)

Regeneration of Public Residential Buildings for Rent in Japan

Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO and Tsuyoshi ARAHIRA (RIA)

Open House International (CIB Encouraged Journal), Vol. 30, No. 2, pp. 49-58 (Jun. 2005)

Factors in the Plumbed Installations Positioning in Multi-unit Residential Buildings

Kozo KADOWAKI and Seiichi FUKAO

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo "Action for Sustainability (SB05)" (CD-ROM), 8 pp., Tokyo, Japan (Sep. 2005)

Comparative Analyses of Design Characteristics of Dwelling Units in Super-high-rise and Mid- to High-rise Residential Buildings

Kozo KADOWAKI and Seiichi FUKAO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 755-756 (Sep. 2005) (in Japanese)

A Study on The Recovery of toughness and The Effectiveness of Durability Preservations for The Crack-repaired Concrete,

Yoshinori KITUTAKA, Masaki TAMURA, Kenji ARAI,

10th Int. National Conf. on Durability of Building Material & Components, Lyon 10dbmc, CD-ROM(April2005)

Visual Evaluation of Building Stone Finishing on the View Point of Aging

Effect

Jun TSUCHIYA, Yoshinori KITSUTAKA and Masaki TAMURA,

10DBMC International Conference On Durability of Building Materials and Components, Lyon 10dbmc, CD-ROM (April 2005)

Durability on The Fracture Parameters of Crack-repaired High Performance Fiber Reinforced Cementitious Composites,

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA,

RILEM International Workshop on High Performance Fiber Reinforced Cementitious Composites,
Hawaii HPFRCC (May2005)

Planning and design methods for partial conversion of public school in Tokyo 23wards

Makoto TSUNODA, Takuma OKAMURA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No.10-017,
pp.2892-2897 (Sep.2005)

A study on the reuse system of building components from the viewpoint of demountability and
removability - Investigation into the steel structure

Akira NATORI(University of Tokyo), Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No.10-027,
pp.2964-2969 (Sep.2005)

Case studies on adaptable buildings by renovating "Tetsu-Chin" apartment houses in Japan

Yasuo OMI (Musashi Institute of Technology), Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No.10-011,
pp.2849-2854 (Sep.2005)

A method of rearrangement planning of community facilities utilizing existing public buildings in
matured suburban residential areas: A case study in Tama city

Tohru YOSHIKAWA, Miki ARIMOTO, Kenji TAKEMIYA, Makoto TSUNODA

Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, Paper No.13-028,
pp.3664-3671 (Sep.2005)

A Study on Planning and Design Methods for Partial Conversion of Public School Building in
Tokyo 23 Wards

Takuma OkAMURA, Makoto TSUNODA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.49-52 (Sep.2005) (in Japanese)

Study on Demolition Repair Works of Apartment Houses

Kanako SUZUKI (University of Tokyo), Makoto TSUNODA, Tuyoshi SEIKE (University of Tokyo),
et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.797-798 (Sep.2005) (in
Japanese)

Reuse System for Steel Structural Building - A Study on Reuse System of Building Element in
Steel Structure Part2

Akira NATORI (University of Tokyo), Makoto TSUNODA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, A-1, pp.799-800 (Sep.2005) (in

Japanese)

Reuse System of Building Component in Portable Architecture

Akiko INAGAWA, Makoto TSUNODA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, A-1, pp.801-802 (Sep.2005) (in Japanese)

Reuse System of Building Components from the Aspect of Distribution

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, A-1, pp.803-804 (Sep.2005) (in Japanese)

Possibility of Building Conversion based on the Vacancy Rate of Office Building – Case Study on Conversion from Office Building into Residential Building in Kanda Area

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, A-1, pp.813-814 (Sep.2005) (in Japanese)

Structural Engineering

Demand Strength of Structures Based on Maximum Ductility Factor and Cumulative Ductility
-Effects of Duration Time of Earthquakes-

TSUNODA Takanori, NISHIKAWA Takao, YAMAMURA Kazushige

Proceeding of the 75th Architectural Research Meetings, 2004, Kanto Chapter, Architectural Institute of Japan, I, pp.221-224 (Mar. 2005) (in Japanese)

Dynamic Characteristics of Low- and Medium-Rise Building on Soft Ground Using Microtremor
FUJII Hirofumi, NISHIKAWA Takao, YAMAMURA Kazushige, TAGO Shigeru(Horie Engineering and Architectural Research Institute Co., Ltd.), TAKAHASHI Ai(Horie Engineering and Architectural Research Institute Co., Ltd.)

Proceeding of the 75th Architectural Research Meetings, 2004, Kanto Chapter, Architectural Institute of Japan, I, pp.225-228 (Mar. 2005) (in Japanese)

Evaluation of Dynamic Characteristics of Low- and Medium-Rise Building on Soft Ground Using Microtremor

YAMAMURA Kazushige, NISHIKAWA Takao, FUJII Hirofumi

Journal of Structural Engineering, Volume 51B, pp159-166, (Apr. 2005)

Spatial Distribution of Indexes of Estimation of Strong Motions Using K-NET Data

YAMAMURA Kazushige

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, B-2, pp.155-156 (Sep. 2005) (in Japanese)

Relationship between Ductility Ratio and Cumulative Ductility Ratio Based on Strong Motion Records

TSUNODA Takanori, NISHIKAWA Takao, YAMAMURA Kazushige

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, B-2, pp.287-288 (Sep. 2005) (in Japanese)

Dynamic Characteristics of Low- and Medium-Rise Buildings on Pile Foundation

FUJII Hirofumi, NISHIKAWA Takao, YAMAMURA Kazushige, TAGO Shigeru, TAKAHASHI Ai
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, B-2, pp.481-482 (Sep. 2005) (in Japanese)

Vibration Control System Using U-Shaped Water Tank

ISHIKAWA Ritsuko, YOSHIDA Osamu, SEKI Matsutaro, NISHIKAWA Takao

AIJ Journal of Technology and Design, No.22, pp.151-156 (Dec. 2005)

Stochastic Analyses of Load Effects by Live Load in Office Buildings

YAMAMURA Kazushige

Journal of Structural Engineering, Volume 52B, pp.139-144 Mar. 2006)

Earthquake Observation and Simulation Analysis of High-Rise Building with Tuned Liquid Damper

ISHIKAWA Ritsuko, YOSHIDA Osamu, NISHIKAWA Takao

Journal of Structural Engineering, Volume 52B, pp.249-254 (Mar. 2006)

Evaluation of Vertical Deformation for R/C Columns with Shear Mode Based on Concept of Failure Surface Contraction

Yoshikazu TAKAINE and Manabu YOSHIMURA

Journal of Structural and Construction Engineering, AIJ, No. 592, pp. 167-175 (Jun. 2005) (in Japanese)

Effect of Transverse Walls on Collapse of RC Columns with Shear Mode

Hongri JIN, Manabu YOSHIMURA and Takaya NAKAMURA

Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol. 27, No. 2, pp. 193-198 (Jun. 2005) (in Japanese)

Seismic Drift of R/C Building with Weak First Story Including Shear Walls

Toshihiro CHIKAMORI(Kajima), Manabu YOSHIMURA and Kazuaki HOKI

Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol. 27, No. 2, pp. 991-996 (Jun. 2005) (in Japanese)

Relations between Seismic Index and Collapse for Existing R/C Buildings Considering Aftershocks

Takaya NAKAMURA, Manabu YOSHIMURA and Yumiko UENO

Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol. 27, No. 2, pp. 1009-1014 (Jun. 2005) (in Japanese)

Vertical Deformation of Reinforced Concrete Columns with Shear Mode (Part 1 Outline of Discussions about Test Results)

Yoshikazu TAKAINE and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 133-134 (Sep. 2005) (in Japanese)

Vertical Deformation of Reinforced Concrete Columns with Shear Mode (Part 2 Evaluation of Vertical Deformation)

Manabu YOSHIMURA and Yoshikazu TAKAINE

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 135-136 (Sep. 2005) (in Japanese)

Effect of Transverse Walls on Collapse of RC Columns with Shear Mode (Part 1 Outline of Tests and Collapse Behavior)

Takaya NAKAMURA, Hongri JIN and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 223-224 (Sep. 2005) (in Japanese)

Effect of Transverse Walls on Collapse of RC Columns with Shear Mode (Part 2 Maximum Strength, Collapse Drift and Axial Load Transfer)

Hongri JIN, Takaya NAKAMURA and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 225-226 (Sep. 2005) (in Japanese)

Seismic Drift Demand for R/C Building with Weak First Story Including Sear-Failing Walls

Toshihiro CHIKAMORI(Kajima), Manabu YOSHIMURA and Kazuaki HOKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 707-708 (Sep. 2005) (in Japanese)

Nonlinear Frame Analysis of Damaged RC Structure Considering Column Strength Deterioration

-Case of Hachinohe-Higashi High School at Sanriku Haruka-Oki Earthquake (Part 1 Outline of Analysis)-

Kazuaki HOKI, Urara DOHI(NTT Facilities) and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 709-710 (Sep. 2005) (in Japanese)

Nonlinear Frame Analysis of Damaged RC Structure Considering Column Strength Deterioration

-Case of Hachinohe-Higashi High School at Sanriku Haruka-Oki Earthquake (Part 2 Results of Analysis)-

Urara DOHI(NTT Facilities), Kazuaki HOKI and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 711-712 (Sep. 2005) (in Japanese)

Relations between Seismic Index (Is) and Actual Seismic Capacity of Buildings with "Shear Columns" Prescribed by Standard for Seismic Evaluation

Yumiko UENO, Manabu YOSHIMURA and Takaya NAKAMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 713-714 (Sep. 2005) (in Japanese)

Collapse of Old R/C Columns and Seismic Performance of Buildings Consisting of These Columns

Manabu YOSHIMURA

Concrete Journal, Vol. 43, No. 10, pp. 18-25 (Oct. 2005) (in Japanese)

Substructure Pseudo Dynamic Test of Existing RC Buildings with Soft First Story Incorporating Response Control Elements

Kazunori IWABUCHI(Kumagaigumi), Hiroshi FUKUYAMA(Building Research Institute), Haruhiko SUWADA(Building Research Institute) and Manabu YOSHIMURA

Journal of Structural and Construction Engineering, AIJ, No. 596, pp. 79-86 (Oct. 2005) (in Japanese)

Nonlinear Frame Analysis of Damaged R/C Structure Considering Deterioration of Column Strength -Study on Hachinohe-Higashi High School damaged by Sanriku Haruka-oki Earthquake-

Manabu YOSHIMURA, Urara DOHI(NTT Facilities), Kazuaki HOKI and kazuhiro KITAYAMA

Journal of Structural and Construction Engineering, AIJ, No. 597, pp. 109-117 (Nov. 2005) (in

Assessment on Failure Mode of Reinforced Concrete Columns

Manabu YOSHIMURA and Yoshikazu TAKAINE

Journal of Structural and Construction Engineering, AIJ, No. 600, pp. 139-146 (Feb. 2006) (in Japanese)

Collapse Tests on Reinforced Concrete Columns with Secondary Walls

Hongri JIN, Manabu YOSHIMURA and Ni LI

Proceedings of the Kanto-Branch Research Symposium - 2005, AIJ, pp.177-180 (Mar. 2006) (in Japanese)

Post-buckling Behavior of Steel Columns with Complete Collapse

Susumu MINAMI, Shinji YAMAZAKI and Yuki IMAMURA (Shin Nikkei Co., Ltd.)

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.13, pp.267-272 (Nov. 2005) (in Japanese)

Inelastic Behavior of H-shaped Steel Beam-columns subjected to Biaxial Bending

Keisuke TOYAMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Kouhei SUDO(Univ. of Tokyo)

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.13, pp.261-266 (Nov. 2005) (in Japanese)

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures with Steel Dampers

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YAGINUMA

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.13, pp.373-380 (Nov. 2005) (in Japanese)

Study on Coupled Vibration Control Structures - Part 5, Influence of Ground Motion

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-2, pp.1009-1010 (Sep. 2005) (in Japanese)

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures

Hiroki YAGINUMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Kenichi TAHARA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-2, pp.1011-1012 (Sep. 2005) (in Japanese)

Post-buckling Behavior of Complete Collapse of Steel Columns

Susumu MINAMI, Shinji YAMAZAKI and Yuki IMAMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.719-720 (Sep. 2005) (in Japanese)

Experimental Study on Inelastic Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns subjected to Lateral Force in Arbitrary Direction -Part 1. Experimental Method and Results of Monotonic Loading

Kouhei SUDO, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Keisuke TOYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.725-726 (Sep. 2005) (in Japanese)

Experimental Study on Inelastic Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns subjected to Lateral Force in Arbitrary Direction -Part 2. Results of Cyclic Loading and Discussions

Keisuke TOYAMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Kouhei SUDO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.727-728 (Sep. 2005) (in Japanese)

Frame Buckling and Effective Buckling Length of Beam-Columns

Shinji YAMAZAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.893-894 (Sep. 2005) (in Japanese)

Energy Response of Steel Frames

Yuki IMAMURA and Shinji YAMAZAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.935-936 (Sep. 2005) (in Japanese)

Experiment on Inelastic Biaxial Bending Behavior of H-Shaped Beam-Columns -Part 1. Results of Monotonic Loading

Ryota TAKAHAMA, Keisuke TOYAMA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the 76th Architectural Research Meetings, 2005, Kanto Chapter, AIJ, Vol.I, pp.161-164 (Mar. 2006) (in Japanese)

Experiment on Inelastic Biaxial Bending Behavior of H-Shaped Beam-Columns - Part 2. Results of Cyclic Loading

Keisuke TOYAMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Ryota TAKAHAMA

Proceedings of the 76th Architectural Research Meetings, 2005, Kanto Chapter, AIJ, Vol.I, pp.165-168 (Mar. 2006) (in Japanese)

Improvement of Seismic Performance of Existing Structures using Response Control Method - Torsional Response Characteristics of Coupled Vibration Control Structures -

Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Kenichi TAHARA

Proceedings of the 2004 meeting of the 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University "Development of Technologies for Activation and Renewal of Building Stocks in Megalopolis", pp.42-43 (Apr. 2005) (in Japanese)

SEISMIC BEHAVIOR OF R/C FRAME STRENGTHENED BY MULTI-STORY STEEL BRACE

Kazuhiro Kitayama

Proceedings of the International Symposium on Earthquake Engineering Commemorating Tenth Anniversary of the 1995 Kobe Earthquake, Volume 2, pp.C174-C183(2005,January 13-16)

Structural performance estimation of prestressed concrete beam-column joints

KITAYAMA Kazuhiro, Nagai Satoru(Kajima), Hamahara Masayuki(Nihon Univ.) and Kishida Shinji(Shibaura Institute of Tech.)

Proceeding of symposium entitled as "Evaluation method for ultimate performance of Prestressed

reinforced concrete members", Committee for ultimate state design of PC members, Architectural Institute of Japan, pp.105-126(2005, Jan.)

Seismic Behavior of Prestressed Concrete 3D Beam-Column Joints Assembled by PC Tendons

KITAYAMA Kazuhiro, MASUDA Takanobu and Kishida Shinji

Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol.27, No.2,pp.397-402(June, 2005)(in Japanese)

Shear Behavior of 3D RC Beam-Column Joints with Good or Poor Bond along Beam Bars

Kishida Shinji, Moriyama Kensaku, Kitayama Kazuhiro and Nishikawa Takao

Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol.27, No.2,pp.385-390(June, 2005)(in Japanese)

Commentary : Structural performance estimation of prestressed concrete beam-column joints

KITAYAMA Kazuhiro and Nagai Satoru(Kajima)

Journal of Prestressed Concrete, Japan, Vol. 47, No.4, pp.44-48(2005, Jul.-Aug.)

Seismic Performance of Three Dimensional Precast Prestressed Concrete Interior Beam-Column Joint Assembled by PC Tendons

Kitayama Kazuhiro, Tajima Yuji, Masuda Takanobu and Kishida Shinji

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, C-2, Structures IV, pp.313-318(Sept., 2005)(in Japanese)

Nonlinear Seismic Response Analysis of RC Building Strengthened by Multi-story Steel Brace

Sato Teruyoshi, Kitayama Kazuhiro and Li Kang-Ning(Canny Consultant)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, C-2, Structures IV, pp.493-494(Sept., 2005)(in Japanese)

Damage Estimation by Shear Crack Width in Prestressed Concrete Beam-Column Joints Assembled by Post-tensioning Steel Bars

Kishida Shinji and Kitayama Kazuhiro

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, C-2, Structures IV, pp.759-760(Sept., 2005)(in Japanese)

FEM Analysis on Shear Behavior of RC Beam-Column Joints given Good Bond along Beam and Column Bars

Morita Shinji and Kitayama Kazuhiro

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, C-2, Structures IV, pp.307-308(Sept., 2005)(in Japanese)

Nonlinear Frame Analysis of Damaged R/C Structure Considering Deterioration of Column Strength

Yoshimura Manabu, Dohi Urara, Hoki Kazuaki and Kitayama Kazuhiro

Journal of Structural and Construction Engineering, No.597, pp.109-117(2005, Nov.)

Yorika KADORIKU, Tsuyoshi SEIKE, Kaori FUJITA and Yoshiharu UNO

A study on the decision making process of seismic strengthening of wooden important cultural properties

- Focusing on the role of structural engineers (in Japanese)

Journal of Architectural Planning, NO.590, p.65-70, Apr.2005

Naohito Kawai, Kaori Fujita and Kazuki Chiba

Shaking a Five storied pagoda 2004 (in Japanese)

Monthly SHOBO No.309,pp.67-70, May,2005

Ayumi YAMAGUCHI, Kaori FUJITA, Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha, Isao SAKAMOTO
LOADING TESTS ON FULL SCALE FRAME MODEL OF THE TRADITIONAL HOUSE IN
NORTH VIETNAM (in Japanese)

AIJ Journal of Technology And Design, NO.21 , p.105-109, Jun.2005

Yukimasa YAMADA, Thi Que Ha TRAN, Kaori FUJITA

JOINTING TECHNIQUE OF TRADITIONAL TIMBER STRUCTURES IN VIETNAM

AIJ Journal of Technology And Design , NO.21, p.355-359, Jun.2005

Kaori Fujita

Structural Stiffness Controversy Revived

Monthly Real Estate Distribution, No.280, pp.8-9, September,2005

MINOWA Chikahiro, FUJITA Kaori, CHIBA Kazuki,KAWAI Naohito, FUJITA Satoshi and
SAKAMOTO Isao

Seismic Performance of Five-Storied Pagoda Based on Scaled Model Experiment

Part1 Outline of the Experiment

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.481-482 (Sep.2005) (in Japanese)

CHIBA Kazuki, KOSHIHARA Mikio, FURUYA Osamu, AOKI Kenji, KAWAI Naohito and
FUJITA Kaori

Seismic Performance of Five-Storied Pagoda Based on Scaled Model Experiment

Part3 Result of Large Vibration Tests

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.485-486 (Sep.2005) (in Japanese)

Kaori Fujita, Toshikazu Hanazato and Isao Sakamoto

Vibration Characteristics Of Traditional Timber Five Storied Pagodas

(Part4) Result of 5th September 2004 Earthquake of Tsukannon Pagoda

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.487-488 (Sep.2005) (in Japanese)

Toshikazu Hanazato, Kaori Fujita and Isao Sakamoto

Vibration Characteristics Of Traditional Timber Five Storied Pagodas

(Part5) Earthquake Response Analysis based on Earthquake Monitoring

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.489-490 (Sep.2005) (in Japanese)

Iuko Tsuwa, Hye Won Kim, Kaori Fujita, Mikio Koshihara, Isao Sakamoto and Waon Ho Yi

Vibration Characteristic of Traditional Korean Timber Structures

(Part1) Micro Tremor Measurement of Houses and Temples

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.495-496 (Sep.2005) (in Japanese)

Hye Won Kim, Iuko Tsuwa, Kaori Fujita, Mikio Koshihara, Isao Sakamoto and Waon Ho Yi

Vibration Characteristic of Traditional Korean Timber Structures

(Part2) Micro Tremor Measurement of Gates

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.497-498 (Sep.2005) (in Japanese)

Yuuya Kanayama, Ayumi Yamaguchi, Kaori Fujita, Yukimasa Yamada and Isao Sakamoto

Study on Structural Performance of Traditional Timber House in Vietnam

(Part1) Overview

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.499-500 (Sep.2005) (in Japanese)

Ayumi Yamaguchi, Yuuya Kanayama, Kaori Fujita, Yukimasa Yamada and Isao Sakamoto

Study on Structural Performance of Traditional Timber House in Vietnam

(Part2) Result of Horizontal Loading Test and Joint Test

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1,p.501-502 (Sep.2005) (in Japanese)

Izumi SHIBUYA, Shinichiro MATSUDOME, Hideyuki MAEKAWA and Kaori FUJITA

Experimental study on the performance evaluation method of pegged, mortise and tenon joint

Journal of Structural and Construction Engineering, NO.601 , p.99-104, Mar.2006(in Japanese)

Kaori FUJITA, Toshikazu HANAZATO and Isao SAKAMOTO

Earthquake Response Monitoring of Traditional Japanese Timber Pagoda

Third International Conference on Urban Earthquake Engineering, Center for Urban Earthquake Engineering, Tokyo Institute of Technology(CUUE), pp.460-467, March 2006

Environmental Engineering

Field Measurement of Spectral Environment in Urban Outdoor and Semi-outdoor Space
Masayuki ICHINOSE (Tokyo Univ. of Science), Hisaya ISHINO et al.
Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.592, pp.9-14 (Jun. 2005) (in Japanese)

Proposal of Seven-day Design Weather Data for HVAC Peak Load Calculation
Hisaya ISHINO
Ninth International IBPSA Conference, Montreal, Canada, pp.451-458, (Aug. 15-18, 2005)

Examination on Expanded AMeDAS Design Weather Data for HVAC System
Hisaya ISHINO et al.
Journal of Asian Architecture and Building Engineering, Vol.4 no.2, pp.541-548, (Nov. 2005)

Proposal of the t-x basis and the t-Jh basis Heating Design Weather Data
Kimiko KOHRI (Utsunomiya Univ.) and Hisaya ISHINO.
Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.596, pp.83-88 (Nov. 2005) (in Japanese)

Examination on a Production Method of Cooling Design Weather Data Based on Solar Radiation,
A Study on a Production Method of Design Weather Data for Heating and Air-conditioning using Two Weather Indices Part 3
Kimiko KOHRI (Utsunomiya Univ.) and Hisaya ISHINO.
Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.596, pp.89-93 (Nov. 2005) (in Japanese)

Effects of Short-term Solar Fluctuation and Prediction Accuracy of Separation of Global Irradiance,
Characteristics Study on Meteorological Elements Effect on Separation of Global Irradiance (Part 1)
Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO.

Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.599, pp.47-52 (Jan. 2006) (in Japanese)

Proposal of the h-t Basis, the Jc-t Basis and the Js-t Bases Cooling Design Weather Data
Kimiko KOHRI (Utsunomiya Univ.) and Hisaya ISHINO.
Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.599, pp.89-94 (Jan. 2006) (in Japanese)

A Study on Performance Values of Windows for Thermal Load Calculation
Kimiko KOHRI (Utsunomiya Univ.) and Hisaya ISHINO.
Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.600, pp.39-44 (Feb. 2006) (in Japanese)

The Trend of Research and Development Activity of IBPSA and Related Institutes in Japan
Yasuo UTSUMI (Miyagi National College of Technology) and Hisaya ISHINO
Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, Organized Session, pp. 137-140 (Aug. 2005) (in Japanese)

Characteristics of Short-time Fluctuation and Effect on Rounding Error of Peak Value for Solar Irradiance
Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO
Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 161-164 (Aug. 2005) (in Japanese)

A Study on Selection of Extreme Weather Based on Two Weather Indices and HVAC Design Weather Data, Part6 Proposal of Heating Design Weather Data on the t-x Basis and on the t-Jh Basis
Takuji OGATA (Utsunomiya Univ.), Kimiko KOHRI and Hisaya ISHINO

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 165-168 (Aug. 2005) (in Japanese)

A Study on Selection of Extreme Weather Based on Two Weather Indices and HVAC Design Weather Data, Part 7 Proposal of Cooling Design Weather Data on The h-t Basis, on The Jc-t Basis and on The Js-t Basis
Atsushi MOROOKA (Utsunomiya Univ.), Kimiko KOHRI and Hisaya ISHINO

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 169-172 (Aug. 2005) (in Japanese)

A Study on Selection of Extreme Weather Based on Two Weather Indices and HVAC Design Weather Data, Part 8 Examination on Adequacy of Design Peak Loads for Various Cities
Takashi SUZUKI (Utsunomiya Univ.), Kimiko KOHRI and Hisaya ISHINO
Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 173-176 (Aug. 2005) (in Japanese)

Performance Analysis for Environmentally Friendly Building with Hybrid Airconditioning System, Part 1 Method of Performance Evaluation by Measurement Survey and Performance Results
Kitarou MIZUIDE (Nikken Sekkei Ltd.), Hisaya ISHINO et al.
Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 1213-1216 (Aug. 2005) (in Japanese)

Performance Analysis for Environmentally Friendly Building with Hybrid Airconditioning System, Part 2 Indoor Environment Controlled by selecting Operation Mode and Effects of Natural Ventilation
Yutaka SATO (Utsunomiya Univ.), Hisaya ISHINO et al.
Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 1217-1220 (Aug. 2005) (in Japanese)

Performance Analysis for Environmentally Friendly Building with Hybrid Airconditioning System, Part3 Energy Saving Effects of Fresh air Preconditioning Systems and Energy Characteristics in a Primary System
Yumiko KODA, Hisaya ISHINO et al.
Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp. 1221-1224 (Aug. 2005) (in Japanese)

Effect of Lightly Dressed of Clothes in Office in Summer

Ryoko OKUMA, Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1043-1044 (Sep. 2004) (in Japanese)

A Study on Production Methods of Design Weather Data for Air-Conditioning and Heating Based on Two Weather Indices, Part 4 Proposal of Production Method of Design Weather Data and Examination on Heating Design Weather Data

Atsushi MOROOKA (Utsunomiya Univ.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1059-1060 (Sep. 2004) (in Japanese)

A Study on Production Methods of Design Weather Data for Air-Conditioning and Heating Based on Two Weather Indices, Part 5 Examination on Cooling Design Weather Data

Takashi SUZUKI (Utsunomiya Univ.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1061-1062 (Sep. 2004) (in Japanese)

A Study on Production Methods of Seven-day Design Weather Data

Keiko YUHARA (YKK AP Inc.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1063-1064 (Sep. 2004) (in Japanese)

Examination of the Relationships with Irregular Sky Radiance Distribution and Accuracy of Direct-to-Global Irradiance

Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1065-1066 (Sep. 2004) (in Japanese)

Research on Microclimate near the Outside Surface of Building

Kazuki ISHIBASHI (Taikisha Ltd.), Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1091-1100 (Sep. 2004) (in Japanese)

Performance Evaluation of a Hybrid Airconditioned Office with a Combination of Natural Ventilation and Ceiling Fans, Part 1 Method of Performance Evaluation by Measurement Survey and Performance Results

Kitarou MIZUIDE (Nikken Sekkei Ltd.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1131-1134 (Sep. 2004) (in Japanese)

Performance Evaluation of a Hybrid Airconditioned Office with a Combination of Natural Ventilation and Ceiling Fans, Part 2 Effects of Ceiling Fans

Akihiro NAGATA, Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1135-1138
(Sep. 2004) (in Japanese)

Performance Evaluation of a Hybrid Airconditioned Office with a Combination of Natural Ventilation and Ceiling Fans, Part 3 Effects of Natural Ventilation

Takuji OGATA (Utsunomiya Univ.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1139-1142
(Sep. 2004) (in Japanese)

Performance Evaluation of a Hybrid Airconditioned Office with a Combination of Natural Ventilation and Ceiling Fans, Part 5 Measurement Survey on Internal Heat Gain and Says Applications are Used

Tatsuo NAGAI (Tokyo Univ. of Science), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1143-1146
(Sep. 2004) (in Japanese)

An Observational and Numerical Study of Thermal Effect to Urban Climate of Rooftop Greening, Part 1 Abstract and Radiation Characteristics

Akiko NOMURA (Okamura Corp.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1261-1262 (Sep. 2004) (in Japanese)

An Observational and Numerical Study of Thermal Effect to Urban Climate of Rooftop Greening, Part 2 Characteristics of Evaporation and Annual Analysis

Masayuki ICHINOSE (Tokyo Univ. of Science.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1263-1264 (Sep. 2004) (in Japanese)

Environmental Characteristics of an Atrium Building located in the Northern Region of Japan, Part 1 Building Information and Characteristics of Temperature Distribution

Yutaka SATO (Utsunomiya Univ.), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1295-1296 (Sep. 2004) (in Japanese)

Environmental Characteristics of an Atrium Building located in the Northern Region of Japan, Part 2 Characteristics of Radiant Environment

Yumiko KODA, Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1297-1298 (Sep. 2004) (in Japanese)

Investigation of the current state on Direct Booster Water Supply System

Takatoshi MIZUTANI, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Technical Papers of Annual Meeting, The Society oh Heating, Air-Conditioning and Sanitary Engineers of Japan, pp.21-24 (Aug. 2005)

Load Survey and Standardization on Residential Hot Water Consumption, Part 1. Average and Seasonal, Daily, Time Fluctuation of Hot Water Consumption

Msayuki MAE, Motoyasu KAMATA, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Technical Papers of Annual Meeting, The Society oh Heating, Air-Conditioning and Sanitary Engineers of Japan, pp.1521–1524 (Aug. 2005)

Study on Countermeasure to Legionella in the Public Bath Facilities, Part 8. An Experiment for Flow Phenomena in the Bath-tub

Satoru KOSHIMIZU, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Technical Papers of Annual Meeting, The Society oh Heating, Air-Conditioning and Sanitary Engineers of Japan, pp. 1585–1588 (Aug. 2005)

CFD Simulation on Stagnant Area in Swimming Pools and Bath-tubs at Spa Facility

Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Technical Papers of Annual Meeting, The Society oh Heating, Air-Conditioning and Sanitary Engineers of Japan, pp. 1589–1592 (Aug. 2005)

The Investigation of the Direct Water service System Raised the Pressure by pumps at the Multiple Dwelling Houses – The Construction of the Model of the Design Quantity of Water Consumption by the Estimated Maximum Value -

Tamio NAKANO, Yoshiharu ASANO, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, D-1, pp.413 –414 (Sep. 2005)

Large Scale Survey of Hot Water Consumption in Houses, Part 1. Analysis on Property of Hot Water Consumption in House

Masayuki MAE, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, D-1, pp.421 –422 (Sep. 2005)

A Study on the Cold and Hot Water Use in Dwelling House, Part 1. A Life Time Characteristic About the Cold Hot Water Use Act Analyzed from Household Composition

Rumi TANAKA, Akihiko IIO, ICHIKAWA, et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, D-1, pp.467 –468 (Sep. 2005)

An Experimental Study on the Thermal Performance of Ceiling Radiant Cooling by Water Flow on Roof - Study on the Roof Water Flow Radiant Cooling System Part.1 -,

Jinghui MA and Nobuyuki SUNAGA,

Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.590, pp.29-35 (Apr.2005)

Experimental Study on a Ceiling Cooling System with Naked Pipes,
Takahiro TANUMA, Nobuyuki SUNAGA and So Fujie,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.1209-1210 (Sep.2005)

Study on Dehumidification-type Radiant Cooling System Using Geothermal Energy,

Yusuke IMAMOTO, Nobuyuki SUNAGA et al.,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.1279-1280 (Sep.2005)

Study on Energy Consumption in Houses in Kanto District Part 10. Result of Annual Energy Consumption,

Keiko MURO, Nobuyuki SUNAGA et al.,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.329-330 (Sep.2005)

Thermal Performance Evaluation Method Considering the Resident's Adjustment Behavior for the Environment Part 1. Proposal for Extension of Comfortable Zones and a Evaluation Method, Tamaki FUKAZAWA and Nobuyuki SUNAGA,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.559-560 (Sep.2005)

Thermal Performance Evaluation Method Considering the Resident's Adjustment Behavior for the Environment Part 2. Evaluation Example with AIJ Standard Model of Detached House, Nobuyuki SUNAGA and Tamaki FUKAZAWA,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.561-562 (Sep.2005)

A Measurement Analysis of a Passive and Low Energy Methods of a District-Center Building, Saori OKAMOTO and Nobuyuki SUNAGA,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.571-572 (Sep.2005),

A Literature Investigation on the Tendency of Environmentally Symbiosis Methods of Apartment Houses,

Ayumu YOKOTA and Nobuyuki SUNAGA,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.571-572 (Sep.2005)

Study on the Water Heat-Storage Floor for Indoor Climate Control System by Solar Energy Part 6. Study on the Energy-saving Performance,

Zhejun XIAN and Nobuyuki SUNAGA,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.579-580 (Sep.2005)

Study on the Summer Operation Method of Solar Heating System with Water Floor,

Masanori AKITA, Nobuyuki SUNAGA and Zhejun XIAN,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.581-582 (Sep.2005)

Study on the Radiant Cooling System with Roof Flowing Water Part 4. Effectiveness of the System and Evaluation of Comfortableness by Subjects,

Jinghui MA and Nobuyuki SUNAGA,

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.653-654 (Sep.2005)

Study on the performance of radiant cooling system with water flow on roof,
Jinghui Ma and Nobuyuki Sunaga,
Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, No.01-104, pp.733-738
(Sep.2005)

A study on the evaluation of passive and low energy houses based on thermal comfort,
Tamaki FUKAZAWA, Nobuyuki SUNAGA and Kenichi HASEGAWA,
Proceedings of the 2005 World Sustainable Building Conference in Tokyo, No.01-107, pp.751-754
(Sep.2005)

Effects of Solar Heating System with Water Floor on the Indoor Climate Control in Summer,
Part.2 Effects of Night Operation, Roof Water Flow and Opening Windows,
Masanori Akita, Nobuyuki Sunaga and Zhejun Xian,
Proceedings of JSES/JWEA Joint Conference (2005), pp.255-258 (Oct.2005)

Study on Radiant Cooling System with Roof Flow on Roof - Part.2 Influence of Building and
System Components -,
Jinghui MA and Nobuyuki SUNAGA,
Proceedings of JSES/JWEA Joint Conference (2005), pp.259-262 (Oct.2005)

Research on the Improvement of Thermal Comfort under the Vertical Radiant Cooling, Yasuo
ANAHARA.
Nobuyuki Sunaga et al.,
Proceedings of JSES/JWEA Joint Conference (2005), pp.271-274 (Oct.2005)

Research on Thermal Condition of School Architecture and Effectiveness of Environmental
Symbiosis Technique,
Saori Okamaoto, Nobuyuki Sunaga and Tomoko Ikezawa,
Proceedings of JSES/JWEA Joint Conference (2005), pp.87-90 (Oct.2005)

Sustainable and Comfortable Residence in future,
Nobuyuki Sunaga,
Nikkan Kogyo Shinbun, 2005/10/7, pp.17-19 (Oct.2005)

Message "All roofs should have !",
Nobuyuki Sunaga,
Journal of Japan Solar Energy Society, P.1 (Nov.2005)

Influence of System Components on Performance of the Radiant Cooling System with Water Flow
on Roof,
Jinghui Ma and Nobuyuki Sunaga,
Proceedings of PLEA2005 - The 22nd Conference on Passive and Low Energy Architecture, Vol.1,
pp.479-484 (Nov.2005)

Reports of 2004 JSES/JWEA Annual Conference,
Nobuyuki Sunaga,
Journal of Japan Solar Energy Society, Vol.31, No.1} p.65-70 (Jan.2006)

Committee Review,
Nobuyuki Sunaga,
Selected Architectural Designs 2006 -Journal of Architecture and Building Science, A.I.J., p.16
(Mar.2006)

Development of TSS Methodology for Sustainable Housing Design -Typical Solution Sets
Applying to Design with Climate Conditions,
Motoya Hayashi, Nobuyuki Sunaga and Kenichi Hasegawa,
Journal of Housing Research Foundation, No.32, pp.307-318 (Mar.2006)

A Simple Method to Incorporate Thermal Bridge Effects into Dynamic Heat Load Calculation
Programs
Akihiro Nagata
Proc. of 9th International IBPSA Conference(Montréal), pp.817-822(Aug.2005)

Simple Method to Predict Temperature Climatic Actions (Part 1) Purpose of the Research and
Temperature Measurements of Metal
Yukio HAYASHI(Kajima Co.), Akihiro Nagata, Takashige ISHIKAWA(Japan Women's Univ.) and
Hideo NAKASHIMA(Shimizu Co.)
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-1, pp.41-42 (Sep.2005) (in Japanese)

Simple Method to Predict Temperature Climatic Actions (Part 2) Simple Prediction Method and
Weather Data for the Model
Hideo NAKASHIMA(Shimizu Co.), Akihiro Nagata, Takashige ISHIKAWA(Japan Women's Univ.)
and Yukio HAYASHI(Kajima Co.)
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-1, pp.43-44 (Sep.2005) (in Japanese)

The Performance Assessment Study of Heat Insulation at Timbered House
Haruka KOYAMA, Akihiro Nagata, Masao KOIZUMI and So FUJIE
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-2, pp.205-206 (Sep.2005) (in Japanese)

Urban space, system and planning

Mega-cities and Disasters in Transition (Kyodai Toshi To Henbosuru Saigai)

Edited and translated by I.Nakabayashi, from CRUCIBLES OF HAZARD: (edited by James K. Mitchell in 1999),

Kokon-shoin, Tokyo, 386pages(Jan.2006)

Tokyo's Map of Earthquake Vulnerable Districts

(Dai jishin Tokyo kikendo map, published in Japanese)

Itsuki NAKABAYASHI

Asahi-Syuppan sya, 80pages(June,2005)

Tokyo Earthquake

(Tokyo chokka jishin, published in Japanese)

Itsuki NAKABAYASHI

Tokuma-syoten, Tokyo, 158pages(Aug. 2005)

Research on the elucidation of the area character concerned with the fire occurrence -A case study on Itabashi Ward, Tokyo-

Makoto HAYASAKA and Itsuki NAKABAYASHI

Journal of Institute of Social Safety Science, No.7, pp.43-52(Nov. 2005)

(in Japanese with English abstract.)

A case study of half-year earthquake-response process and space use pattern in Kawaguchi-town on the Mid-Niigata Earthquake.

Yusuke.YOSHIDA, Daisuke SATO, Taro ICHIKO, Itsuki NAKABAYASHI et.al.

Journal of Institute of Social Safety Science, No.7, pp.179-188(Nov. 2005)

(in Japanese with English abstract.)

A study about sufferer's behavior and adaptation on recovery with house relocation -The case of Marmara Earthquake in Turkey-.

Eiko ISHIKAWA, Tadahiro YOSHIKAWA, Kunihiro FUKUTOME and Itsuki NAKABAYASHI

Journal of Institute of Social Safety Science, No.7, pp.443-452(Nov. 2005)

(in Japanese with English abstract.)

Unfolding of building restriction for zones around the surface trace of the Chelungpu Fault and the response of residents in Taiwan.

Kiyomine TERUMOTO, H. Wang and Itsuki NAKABAYASHI

Journal of the city planning institute of Japan, No.40. pp.703-708(Nov.2005)

(in Japanese with English abstract.)

City and the Realities of Crimes

Hidenori TAMAGAWA

The journal of Real Estate Sciences, No.73(Vol.19-No.2), pp.101-106 (Nov. 2005) (in Japanese)

Urbanscape analysis by classification of viewpoints -in case of high-rise condominium of Kokubunji cliff line-

Yuji HATTORI and Hidenori TAMAGAWA

Papers and Proceedings of the Geographic Information Systems Association, Vol.14, pp.515-520 (Oct. 2005) (in Japanese)

The development of GIS and Geographic Information Science in France -Focusing on IGN

Hidenori TAMAGAWA

Comprehensive Urban Studies, No.84, pp.17-24 (Sept. 2005) (in Japanese)

Transportation Policy and Planning for Elderly & Disabled

Tetsuo AKIYAMA, Daisuke SWADA, Naoto FUJII, and Mayumi TAKAHASHI

Comprehensive Urban Studies No.85,2005,pp.5-16,2005

Policies and its Operation regarding Transportation Accessibility in Canada

Daisuke SAWADA and Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies No.85,2005, pp.17-30,2005

Transition of the Transport Accessibility Improvement Law and Citizen Participation

Keiko HONDA and Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies No.85,p.31-42,2005

Consideration of Mobility and Public Transport in Depopulated Regions

Itsuki YOSHIDA and Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies, No.85,pp.43-55,2005

Pedestrian Slip and Fall Accidents in the Sapporo City Center in Winter

Yoko SHINTANI, Fumihiro HARA and Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies, No.85,pp.57-68,2005

Developing the Support System by Network Intelligence in Case of Disaster

Toru YAMAGUCHI, Maiji SAITO, Masashi UMEDA, Izumi OGURA and Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies ,No.85,pp.69-77,2005

Anxiety Regarding Refuge among Residents in a Metropolitan City in Japan

Osamu NITTA, Towako KATSUNO, Toru YAMAGUCHI and Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies ,No.85,pp.79-84,2005

A Study on Road Blockage and Reduced Mobility People in the High Density of the Residential Area

Kyoichiro KIMURA, Tetsuo AKIYAMA, Takashi OGUCHI and Hiroyuki ONEYAMA

Comprehensive Urban Studies, No.85,pp.85-91,2005

Transportation Planning and Demand Responsive Transportation

Tetsuo AKIYAMA

Comprehensive Urban Studies, No.85,pp.126-134,2005

Perspective of Universal Design and Transportation Improvement Law

Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning, CD-Rom, Vol.31,November 2005 Japan Society of Civil Engineers,2005

Future Perspective of Demand Responsive Transportation at the Public Transportation

Fumihiro HARA, Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning, Vol.31,CD-Rom,November, 2005 Japan Society of Civil Engineers

Acceptance Possibility of DRT by Residents in a Urban Area,

Taku SUGIYAMA, Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA, Hiroyuki ONEYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.31 CD-ROM, November, 2005, Japan Society of Civil Engineers

A Study on Demand Prediction of Demand Responsive Transportation User in Rural Area-A

Case Study of Fukuchi-mura in Aomori Prefecture

Jae- KIM, Tetsuo AKIYAMA, Makoto CHIBA

Proceedings of Infrastructure Planning,Vol.31,CD-Rom,Number 2005 Japan Society of Civil Engineers

Applicability of Demand Responsive Transport Systems (DRTs) in Urban Area

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo Akiyama

Proceedings of Infrastructure Planning, Vol.31,CD-ROM,Number 2005 Japan Society of Civil Engineers

Analysis of Mobility Gap in Local Cities

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning, Vol.31,CD-ROM,Number 2005 Japan Society of Civil Engineers

Universal Design for Public Transportation

Tetsuo AKIYAMA

Public Buildings, Vol.48, No187,2006,Insutituation of Public Buildings

Applicability for Demand Responsive Transport Systems (DRTs) in the Urban Areas

Itsuki Yoshida, Tetsuo AKIYAMA

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.120-123, 2005

Perspective of Local Transportation Committee of Special Transport Service for Elderly and

Disabled

Tetsuo AKIYAMA

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.124-127,2005

Perspective of Tourism by Universal Design

Masaji SHIMIZU, Ichiro K USANAGI, , Tetsuo AKIYAMA, Hisao MIYAI, Toyoaki, KUTSUNA

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.167-170、2005

Bariier Free Tourism in Snow Region- Travel Monitor by Limited Mobility Group in Winter-

Yoko SHINTANI, Kei NAITOU, Yashiro NISHIMURA, Tetsuo AKIYAMA

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.279-282、2005

Meaning of Tourism Universal Design

Ichiro KUSANAGI, Masaji SHIMIZU, Tetsuo AKIYAMA, ,Hisao MIYAI, Toyoaki, KUTSUNA, Mamoru ONO

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.291-294、2005

Walking Assistance by Light for Low Vision People

Yuuji SAISYO, Tetsuo AKIYAMA, Norihiro IKEDA

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.419-420,2005

Analysis for the structure plan of Transportation Accessibility Improvement Law-A case study of Shinjuku Station and Vicinity Area

Manabu HORII, Tetsuo AKIYAMA, Yasuo SHIRAMIZU

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.8, pp.486-489,2005

Transportation Policies for the Elderly and Disabled in Japan,

Tetsuo Akiyama, Jae-kyung Kim

International Journal of Urban Sciences, 9(2), 2005, pp.87-98, The University of Seoul.

Study on Assurance of Citizen's Mobility in Cold Regions

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA

ISCORD2004 CD-ROM

Jae-kyung Kim, Tetsuo Akiyama : Machi-Bus, A Demand

Responsive Bus in Nakamura city, Proceedings of

TRANSED2004 (The 10th International Conference on Mobility

and Transport for Elderly and Disabled People), T(d)2-3,

Hamamatsu, Japan, 2004.5

Jae-Kyung Kim, Itsuki Yoshida, Tetsuo Akiyama : Study on

Trial Operation of Flexible Bus Service in a Snowy Region

in Fall and Winter, Proceedings of ISCORD2004 (The 7th

International Symposium on Cold Region Development,

Sapporo, Japan, 2004.9

The neighborfood community-training program for post-disaster recovery: toward preparing community-based recovery management

Taro ICHIKO, Shin AIBA Jin YOSHIKAWA, Itsuki NAKABAYASHI and Kunio TAKAMIZAWA
Journal of social safety science, No.7, pp.385-394,2005

Two quantify methods of district and open space between neighboring buildings: Intending to develop the community based disaster management (CBDM) in Tokyo.

Taro ICHIKO

Comprehensive urban studies, No.84, pp.43-64, 2005

Urban society, residents and institution

Healthy Japan 21 objectives and strategies. New challenges of Health Promotion Activities in Korea,

Tanji Hoshi

Korean society for health education and promotion :57-88(2005).

Japanese case of community partnership for healthy city projects.New challenges of Health Promotion Activities in Korea,

Tanji Hoshi:

Korean society for health education and promotion :199-230(2005).

Self-rated Health and Social Factors in the Urban Japanese A study of Structural Equation Modeling(SEM),

Toshihiko takahashi, Takashi Hasegawa, Tanji Hoshi

International Journal of Urban Sciences. 9(2):67-77(2005).

Dialogue and Urban Strategy : Autonomy of a Designated City and Urban Policy in a Transition Period in Japn.

Masami HAGAI

Niigata Jichi (Niigata Jichi Research Center), vol. 29, pp.10-17.(Oct.2006)(in Japanese)